

Hyogo University of Health Sciences



兵庫医療大学年報

2020年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学

目 次

序章

沿革	1
----------	---

第1章 理念・目的

1. 大学全体	2
2. 学部・大学院	
1) 薬学部・薬学研究科	4
2) 看護学部・看護学研究科	5
3) リハビリテーション学部・医療科学研究科	7
4) 共通教育センター	10

第2章 教育研究組織

1. 学部	12
2. 大学院	12
3. 先端医薬研究センター	12
4. RI実験センター	12
5. 動物実験センター	13
6. 共同機器室	14

第3章 教育課程・学習成果

1. 教育目標、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針	
1) 学部	16
2) 大学院	22
2. 教育課程	
1) 学部	26
2) 大学院	31
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	33
3. 教育方法 (学習指導、シラバス、成績評価・単位認定)	
1) 学部	35
2) 大学院	39
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	40
4. 成果 (学位授与等)	
1) 学部	41
2) 大学院	43
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	44

第4章 学生の受け入れ

1. 学部	
1) 薬学部	45
2) 看護学部	45
3) リハビリテーション学部	46
2. 大学院	
1) 薬学研究科	46
2) 看護学研究科	47
3) 医療科学研究科	47
3. 入学者選抜および入試結果	
1) 学部	48
2) 大学院	54

4. 学生募集（入試関連広報）	54
5. 定員数と在籍学生数	56
第5章 教員・教員組織	
1. 学部	
1) 薬学部	59
2) 看護学部	61
3) リハビリテーション学部	63
4) 共通教育センター	65
2. 大学院	
1) 薬学研究科	66
2) 看護学研究科	67
3) 医療科学研究科	68
第6章 学生支援	
1. 修学支援	
1) 教育支援室	69
2) 奨学金	72
2. 実習支援	
1) 臨床薬学研修センター	73
2) 医療人育成研修センター	74
3. 生活支援 保健管理センター	
1) 保健室	74
2) 学生相談室	76
4. 進路支援 キャリアデザインセンター	78
5. 学生会・課外活動	83
第7章 教育研究等環境	
1. 校地・校舎・施設設備	85
2. 図書館	86
3. 兵庫医療大学キャンパス情報システム	87
4. 薬用植物園	87
5. 研究活動	
1) 科学研究費助成事業	89
2) 兵庫医療大学研究助成・顕彰制度	92
3) 受託研究	92
4) 共同研究（産学連携含む）	92
5) その他の研究助成	93
6) 学術講演会および研究セミナー	93
7) 薬学部・薬学研究科	93
8) 看護学部・看護学研究科	93
9) リハビリテーション学部・医療科学研究科	93
10) 共通教育センター	93
6. 教育研究等の支援	94
第8章 社会連携・社会貢献	
1. 社会学連携推進機構	95
1) 地域連携実践ステーション	100
2) 臨床薬剤師生涯教育ステーション	104
3) シームレス看護教育研究ステーション	104
4) リハスタッフ臨床教育ステーション	104

2. 高大連携	105
3. 国際交流	
1) 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム	107
2) アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム	108
3) 欧州研修	108
4) JBI-Kobe Center	108
5) トウルク応用科学大学学術交流協定	109
4. 生涯教育	
1) 中医薬実践講座	109
2) 看護学部	109
3) リハビリテーション学部	110

第9章 大学運営

1. 大学全体	
1) 学校法人兵庫医科大学組織機構図	111
2) 兵庫医療大学組織図	112
3) 大学協議会	113
4) 役職者名簿	114
5) 全学教職員集会	114
6) 教職員の資質向上方策	115
2. 事務組織	116
3. 学内委員会	117
1) 内部質保証委員会	121
2) 学生委員会	121
3) 教育委員会	122
4) 入試センター運営会議	122
5) 図書館委員会	123
6) 広報委員会	123
7) 情報システム委員会	124
8) 情報倫理委員会	124
9) 国際交流委員会	124
10) キャリアデザイン委員会	124
11) 研究委員会	125
12) 公正研究推進小委員会	126
13) 先端医薬研究センター運営委員会	126
14) RI実験センター運営委員会	126
15) 放射線障害予防委員会	126
16) 動物実験センター運営委員会	127
17) 動物実験委員会	128
18) 遺伝子組換え実験安全委員会	129
19) 環境安全委員会	129
20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会	130
21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会	130
22) 病原体等安全管理委員会	131
23) 利益相反マネジメント委員会	132
24) 倫理審査委員会	132
25) 共同機器室運営委員会	135
26) 紀要委員会	136
27) 防火防災対策委員会	136
28) 衛生委員会	137
29) 医療人育成研修センター運営委員会	137
30) 社会学連携推進機構運営委員会	137

31) 大学院運営委員会	138
32) 障がい学生支援委員会	138

序 章

沿 革

2006年	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可および兵庫医療大学設置認可
2007年	4月	兵庫医療大学開学
	4月	保健管理センター開設
	6月	医療人育成センター（西宮キャンパス）開設（旧：医学・医療教育研修センター）
	10月	地域連携実践センター開設
	10月	兵庫医療大学先端医薬研究センター開設（旧：医薬共同創薬研究開発センター）
2008年	1月	神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携協定締結
	4月	動物実験センター開設
	9月	薬用植物園開設（旧：薬草園）
	10月	第1回兵庫医療大学大学祭（海泉祭）開催
	10月	臨床薬学研修センター開設
	12月	神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携における単位互換に関する協定締結 （兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学）
2009年	3月	兵庫医療大学体育館（アリーナ）完成
	3月	防災・減災およびボランティア活動に関する5大学連携支援協定を締結 （兵庫医療大学、工学院大学、大妻女子大学、神戸学院大学、神戸女子大学）
	4月	キャリアデザインセンター開設
	9月	RI実験センター開設
2010年	12月	兵庫医療大学大学院看護学研究科・医療科学研究科設置認可
2011年	3月	第1期卒業生輩出（看護学部、リハビリテーション学部）
	4月	兵庫医療大学大学院（看護学研究科・医療科学研究科）開設
	6月	フィンランド共和国トゥルク応用科学大学との学術交流に関する協定を締結
2012年	11月	兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
2013年	3月	大学基準協会認定評価において大学基準適合認定
	3月	第1期卒業生輩出（薬学部）
	3月	第1期修了生輩出（看護学研究科、医療科学研究科）
	4月	兵庫医療大学大学院薬学研究科設置
2014年	3月	オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
2015年	4月	兵庫医療大学社会学連携推進機構設置
	8月	JBI KOBELT CENTER開設
	12月	兵庫医療大学職業実践力育成プログラム（BP）の文部科学大臣認定
2016年	3月	兵庫医療大学リハビリテーション学部教育評価認定
	3月	兵庫医療大学薬学部教育評価認定
	8月	篠山市と地域連携に関する協定締結
2017年	2月	兵庫県と就職支援に関する協定締結
	3月	第1期修了生輩出（薬学研究科）
	3月	神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学および兵庫医療大学の連携協力に関する協定締結
	3月	神戸市と災害時の医薬品集積センターとしての一時利用に関する協定締結
	9月	兵庫医療大学開学10周年記念式典開催
2020年	3月	大学基準協会認定評価において大学基準適合認定（更新）

第1章 理念・目的

1. 大学全体

学校法人 兵庫医科大学 建学の精神

- ・ 社会の福祉への奉仕
- ・ 人間への深い愛
- ・ 人間への幅の広い科学的理解

兵庫医療大学教育理念

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する

兵庫医療大学教育目標

- ・ 幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・ 関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・ 優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・ 次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

HUHS VISION 20

次なる10年へ

兵庫医療大学（Hyogo University of Health Sciences）は、これまでの10年の教学の実績をもとに、医療総合大学として次なる10年で目指す目標を宣言します

—到達目標—

「西日本を代表する医療総合大学としての教学基盤の確立」

Leading Health Science Innovation

- ・ 学校法人兵庫医科大学の「建学の精神」に則り、直面する医療にかかる課題を、深い専門性と包括的視点で捉え、多職種との協働で解決に導く豊かな知性としなやかな人間性を持つ医療専門職者を育成する
- ・ コミュニケーション力などの人間力を涵養すると共に、学術領域の高度な専門性の修得と、医療の包括的理解を促す教育を実践する
- ・ 薬学、看護学、リハビリテーション学などの学術領域の高度な専門性の修得と、医療の包括的理解を促す教育を実践する
- ・ 薬学、看護学、リハビリテーション学などの学術領域の高度な専門性の修得と、医療の包括的理解を促す教育を実践する

—ビジョン—

教 育

「次代を担う中核的医療人育成のための包括的教育」

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、ヘルスサイエンスにおけるさまざまな課題を解決する強い志と、高い専門性を持つ医療専門職者を育成する。

研 究

「次代を拓くヘルスサイエンスイノベーション」

未病、予防医療など、これからの医療課題解決を目指すヘルスサイエンスイノベーションに、薬学、看護学、リハビリテーション学などの学術領域の専門性を深化しつつ、学部協働的または全学的に取り組む。

社学連携

「地域と共に学ぶ大学」

ヘルスサイエンスを基盤とする心と体の健康支援について地域と連携協働するとともに、地域企業・団体との共同研究としてヘルスサイエンスイノベーションに取り組む。学生を参画メンバーとすることで、社会的視点を育む。

学生支援・生涯教育

「学生生活における安全・安心の担保」

「医療人のキャリアアップを目指す生涯教育支援」

安全・安心な教学環境のもと、学生一人ひとりに向き合い、その学びと成長を支援する。
卒業生の生涯教育を含め、「社会人学び直しシステム」の充実を図る。

運 営

「高い公共性をもつ公益組織としての社会的責任を果たす大学」

学部・研究科の自律性と大学としての一体性を確保し、社会的視点からの自己改革を推進する。
併せて、ビジョン達成のための多元的経営基盤の確立を目指す。

— 基 軸 —

- ・兵庫医科大学との協働
- ・医療専門職者としての、高い専門性と、人間力の醸成
- ・次代を拓くヘルスサイエンスの深化と創出
- ・地域社会との双方向の教学実施による社学連携
- ・安全・安心な大学環境の維持・健全な管理運営

— 行動計画 —

- ・兵庫医科大学との協働による先進的チーム医療教育を実践する
- ・医療専門職者として必要な知識と技術の修得とコミュニケーション力を育む
- ・卒業研究を充実し、学生の考える力を涵養する
- ・海外協定大学（オーストラリア、中国）との双方向の学術交流を推進する
- ・学内研究助成・顕彰制度により研究活動を活性化する
- ・統合領域研究と地域創生研究を重点課題に位置付けて推進する
- ・地域医療課題解決型カリキュラムを充実する
- ・兵庫県多自然地域の地域創生に取り組む
- ・社学連携活動をアクティブラーニングとして活用する
- ・学生一人ひとりに向き合う支援体制を充実させる
- ・「社会人学び直しシステム」により地域医療を支援する
- ・大学一体となり安定的財政基盤を維持する
- ・大学のブランディングを強化する
- ・自己点検・評価により教育の質を保証し、情報公開する

2. 学部・大学院

博士課程理念

本学の大学院博士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担うより高度な医療人の育成を目的としています。すなわち、優れた科学的知識と研究能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、基礎および臨床の両分野において新たな展開を目指した研究領域を置いています。

修士課程理念

本学の大学院修士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、新たな展開を目指した研究領域と、社会の期待に対応すべく高度実践専門職者を育てる領域の二つの柱を置いています。

1) 薬学部・薬学研究科

薬学部 教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的实践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成します。

薬学部 教育目的

薬学部では、「くすり」(医薬品・化学物質・手段)と「生体」(ヒト、生物/病原体、生体成分)に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指します。

薬学研究科 理念・目標

現代医療においては、各分野の高度専門化が進む一方、異なる職種間の連携や地域の医療・介護施設、住民、行政との連携が強く求められています。その中で、医療にかかわる者は広い社会的視野をもって、最先端の知識と科学的なものの見方を生かしていく必要があります。本学大学院薬学研究科は、あらゆる場面で「多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる医薬品の専門職者を養成する」という本学薬学部の精神を継承しつつ、兵庫医科大学との協力関係を最大限に活用しながら、より先端的な内容の講義、演習、研究活動によってその能力をさらに高め、医療薬学の諸問題を解決する能力を持った人材を養成することにより、医療の発展に貢献することを理念とします。この理念を実現するために、以下に示す能力を身に付けた人材の養成を目標とします。

1. 高度な研究能力、すなわち医療の現場において問題点を発見し、それを解決する適切な研究計画を立案し、さらにその成果を論文化することのできる能力を持って医療の質向上と変革を推進することができる医療専門職者。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から提起し、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる薬学研究者。

薬学部・薬学研究科 HUHS VISION 20

開学から10年を経て、兵庫医療大学薬学部を巣立った多くの卒業生が兵庫医科大学病院をはじめとする病院や薬局などで活躍している。大学院薬学研究科からは、初めての博士号取得者も誕生した。急速な高齢化が進む我が国にあって、これからの医療を担う薬剤師には、地域包括ケアの観点からこれまで以上に高い専門性と独自性に基づく多職種者との協働力が必要となる。さらに、先進的医療の推進においても、医療の世界に変革をもたらす研究能力が求められている。また、少子化の進行に伴い、大学間の競争は厳しさを増している。このような社会的環境の中、薬剤師国家資格を基盤とし中核的にチーム医療に取り組む人材の育成をめざす本学薬学部が、今後10年で目指す目標をここに掲げる。

—到達目標—

医療総合大学の薬学部として、西日本において揺るぎない地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. 本学学生に即した学びを促す医療薬学教育を実践し、薬剤師国家試験成績を向上させる。
2. 本学の特色であるチーム医療教育を深化し、臨床能力の高い薬剤師を育成する。
3. 臨床における問題を研究課題として捉え、科学的に考えて解決できる薬剤師を育成する。
4. 東洋医薬的な視座をもち、包括的な地域医療に貢献できる薬剤師を育成する。
5. 医療産業都市・神戸に根ざし、地域社会に貢献する薬学部を目指す。
6. 海外の教育研究機関と協働し、国際的視野を有する薬剤師・薬学研究者を育成する。

研 究

1. 超高齢社会における地域医療の変革に貢献する臨床薬学研究を推進する。
2. 自由なアカデミズムから生まれる柔軟な発想を生かし、最先端の創薬科学に取り組む。
3. 在学生や卒業生の成長を促す医療薬学教育システムの開発研究を推進する。
4. 東洋医薬と西洋医薬を融合する研究に取り組み、超高齢社会に新しい医療を提案する。
5. ヘルスサイエンス新領域の創生を目指し、地域に潜む新たな研究シーズを発掘する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 組織的に薬学部教育力を強化し、自立した学習者を育てる教育課程を編成する。
2. 全学的チーム医療教育に加えて、チーム医療の場を意識した臨床薬学教育を実施する。
3. 科学的な知識を基盤にした考える力を育む薬学教育・薬学研究プログラムを創出する。
4. 兵庫医科大学中医薬孔子学院と連携し、在学生や卒業生を対象とした中医薬教育を推進する。
5. 生涯教育講座や公開講座などを通じて、地域の薬剤師や住民のリカレント教育に取り組む。
6. 学部学生、大学院生、ポストドクター、教員などの海外派遣や受入れ体制を充実させる。

研 究

1. 地域医療機関との共同研究や社会人大学院生の積極的な受け入れを通じて、医療現場の課題解決をめざす臨床薬学研究を推進する。
2. 先端医薬研究センターを中心として取り組む創薬研究を拡充するため、製薬企業とのマッチングや外部資金獲得に取り組む。
3. ICTの活用やアクティブラーニングの実施と検証を通じて、新しい医療薬学教育プログラムを開発する。
4. 東洋医薬部門を中核とする東洋医薬・西洋医薬融合研究を展開するため、北京中医薬大学との共同研究を推進する。
5. 行政機関や地域産業と連携し、医薬・医療のシーズ探索研究を推進する。

2) 看護学部・看護学研究科

看護学部 教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、増進させる看護専門職者を育成します。

看護学部 教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養います。医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成をめざします。

看護学研究科 理念・目標

保健・医療・福祉および社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康とQOLの向上および看護学の進歩・発展に寄与することにあります。そのために、以下の5つを目標としています。

1. 専攻する看護専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる
2. 専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術をもとに看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる
3. 人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる
4. 先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる
5. 専攻する看護専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める

看護学部・看護学研究科 HUHS VISION 20

少子超高齢社会が進展する中、医療の進歩、社会から求められる医療ニーズの多様化等に対応できる高い倫理観を持ち、患者の急性期から地域での暮らしや看取りまで見据えた看護を提供できる看護師が求められている。このような状況に対応するためには、これまで以上に高い専門性と独自性に基づく看護実践力、多職種者との協働力と共に医療・看護の世界に変革をもたらす研究マインドの涵養が重要である。そこで、保健師・助産師・看護師の国家資格取得を基盤に、多様なニーズに対応できる看護実践力、チーム医療の中核的存在となる人材の育成に取り組み、今後10年間で医療総合大学の看護学部として西日本地区におけるリーダーとなる地歩を固める。

—到達目標—

医療総合大学の看護学部として西日本地区におけるリーダーとなる地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. あらゆる場（急性期から地域での暮らしや看取りまで）で発揮できる科学的根拠に基づいた全人的な看護実践能力・良好な人間関係が築けるコミュニケーション能力を育成する。
2. 本学の特色であるチーム医療教育を深化し、多職種連携におけるキーパーソンとなる高い協働力を育成する。
3. 主体的に考える力（研究マインド）を持ち、看護の質向上・変革に貢献できる人材を育成する。
4. グローバリゼーション、国際化のなかでの国際看護活動を探求する知力をもつ人材を育成する。
5. 人間への深い愛・豊かな人間性と共に専門職者意識（プロフェッショナリズム）をもつ人材を育成する。

研 究

1. 超高齢社会における地域医療・看護の変革に貢献する先進的な看護学研究を推進する。
2. 自由なアカデミズムから生まれる柔軟な発想・学際的な視点を生かし、他の学術分野と融合した看護学研究領域を切り拓く。

3. 超高齢社会において地域で必要とされる多元的なケアを実践できる優れた看護実践力を育成するために職業実践力育成プログラムの充実と進化に取り組む。
4. 学部卒業生の研究マインドのフォローアップに取り組み、大学から大学院への進学・学修の継続を支援する。
5. JBI Kobe Centerの活動を強化し、国際研究活動の拠点とする。

—アクション・プラン—

教 育

1. 看護学教育モデル・コア・カリキュラムによる教育の質保証、社会の要請（地域包括ケア・災害時の健康危機管理など）に応じたカリキュラムの見直しを図る。
2. 多様な人々との相互関係を成立・発達させるコミュニケーション・スキルを獲得するために、コミュニケーション関連科目を強化する。
3. 全学的チーム医療教育に加えて、学部科目にアクティブラーニングを積極的に活用する。
4. 地域医療課題解決型の学修を初年次から組み込み、本学看護学部、兵庫医科大学病院看護部、ささやま医療センター看護部等と連携し、卒前・卒後の一貫した教育プログラムの開発に取り組む。
5. 主体的な学修と考える力を伸ばすために、早期研究セミナー（卒業研究）の開始、上級生・下級生の混合ゼミなどを実施する。
6. アデレード大学、北京中医薬大学等との大学間または部局間の学術交流プログラムの充実を図る。
7. 倫理性・職業アイデンティティを早期に確立するために基礎と専門科目の進捗・内容のつながりを検討する。

研 究

1. 医療・看護・介護・生活支援・環境改善などを貫く理念とそれらを具現化する理論・方法論を他の学術分野との融合を視点に開発する。
2. 地域で必要とされる多元的なケアを実践ならびに保健医療福祉の改革に果敢に挑戦できる研究者の育成を目指した博士課程の教育内容を検討する。
3. 職業実践力育成プログラムにおいて事例ディスカッションをはじめとする魅力的な双方向的授業のさらなる充実を図る。
4. 学部卒業生の研究マインドのフォローアップとしての多様なプログラムを展開し、学部から修士、修士から博士課程への進学・学修の継続を促す。
5. アデレード大学看護学部との共同研究を推進する制度を確立するとともに教員および大学院生の短期留学制度を導入し研究力向上を目指す。

3) リハビリテーション学部・医療科学研究科

リハビリテーション学部 教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることをめざします。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術および教育研究技術を育み、社会人として、またリハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成します。

リハビリテーション学部 教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解および保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的実践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力および生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成をめざします。

医療科学研究科 理念・目標

医学・医療科学の発展ならびに急速な高齢化の進行、個人の価値観の多様性等によって、疾病や障害を有した方が社会で生活していくためのニーズは多様化・複雑化してきており、これらの変化に対応していくことが求められています。その中で、リハビリテーション科学の学問的発展に寄与するとともに、より高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職の育成に寄与することにあります。そのために、以下の4つを目標としています。

1. 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培います
2. 専攻する分野において、より高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践するとともに、更なる発展・向上に努めることができる素養を培います
3. 高度な臨床的推論に基づく臨床実践を展開するとともに、後進の育成に寄与できる指導者としての素養を培います
4. 専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を培います

リハビリテーション学部・医療科学研究科 HUHS VISION 20

兵庫医療大学リハビリテーション学部は開学以来10年間、「臨床力のある質の高い理学療法士・作業療法士の輩出」を第一目標として教育を行い、理学療法学科、作業療法学科ともに、新規卒業生の国家試験合格率100%を複数回達成し、第1志望への就職率80%以上を維持してきた。また、本学大学院に進学する卒業生も増えている。

今後10年間、地域に根差した学部としてさらに発展し、西日本を代表する学部となり、理学療法士・作業療法士の中核となる人材を育成する教育・研究の基盤を確立するためのビジョン、およびそれを達成するためのアクション・プランを以下に掲げる。

—到達目標—

医療総合大学のリハビリテーション学部として西日本地区において揺るぎない地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. 理学療法士・作業療法士として、多様な臨床現場で様々な対象者および他の専門職の価値観を理解し、良好な人間関係を構築できる人間力を培う。
2. 質の高い臨床力・研究力を備え、理学療法、作業療法を包括的に理解し、中核的存在となる理学療法士・作業療法士を輩出する。
3. 常に最先端の医療、社会情勢、その他広い視野をもって情報収集し、その情報を深く理解し実践に活かしながら自己研鑽を続ける態度を、学部のみでなく卒業後も育成し続ける。

研 究

1. 臨床的課題および地域医療における課題の解決に貢献する研究力を涵養する。
2. 理学療法学、作業療法学を中心にリハビリテーションの発展に寄与する研究成果を発信する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 医療人育成研修センター・共通教育センターと協働し、兵庫医科大学と連携した教育およびチーム医療教育を発展させるとともに、学部授業におけるアクティブ・ラーニングがチーム医療教育の一環であることを明示し、確実に意識化していく。

★ シラバスにアクティブラーニングによるコミュニケーション能力向上などの記載を50%程度まで増やし、それが多職種連携における基礎能力となることを示していく。

- ★ 兵庫医科大学との連携を強化し、早期よりチーム医療を意識した上で理学療法士・作業療法士という専門職としての役割を理解させ、自己が目指すべき道を認識することで学習意欲を高める。
2. 地域の医療関連施設等の見学、障がいをもった方やその家族の授業参加、国際的医療活動および諸外国の理学療法・作業療法の紹介などを、教育課程を通して構成的に配置する。
- ★ 新指定規則に沿った地域における実習科目の配置（OT学科）
 - ★ 障がいをもった方やその家族の授業参加：第2学年次に配置できるか検討（OT学科）
 - ★ 国際的医療活動および諸外国のPT/OTの紹介：職業生活援助論での実施を検討（OT学科）
 - ★ 国際交流委員会の協力を得て、積極的に海外からの講師を招き、学生の国際感覚を刺激（リハ学部）
 - ★ トウルク大学との連携強化に向けた取り組みを進めるとともに、他学部のように学生の交換留学が可能となるような海外の大学との連携先を模索し、数年以内に実現（リハ学部）
3. 学部における学習の集大成として位置づけられている現行の研究力育成教育に、早期から研究志向を涵養する機会の充実を図るとともに、国家試験に向けた学習の充実を図る。
- ★ 卒業研究の説明会の時期を3学年総合臨床実習前に実施し、共同研究者や研究テーマの一部を決める。（OT学科）
 - ★ 国家試験勉強についての効果的な学習方法（グループ作り、学習時期・時間、教員配置など）を検討・実施し、国家試験合格率100%を目指す。（リハ学部）
 - ★ 卒業生が実施している勉強会や大学院生の学位論文発表会への参加を促す。（リハ学部）
 - ★ 学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー、本学学術講演会やさまざまな学術集会などへ学生を積極的に参加させる。（リハ学部）
 - ★ 学生が参加可能な学会等への積極的な参加を推奨する。（リハ学部）
4. シラバスの作成に始まる授業、授業以外の教育支援、および教員の質に関して、教育の質保証システムを常に適用する。
- ★ 従来のシラバス作成時の振り返りと、今後導入される可能性のあるティーチングポートフォリオの整合性を検討する。
 - ★ 教育成果の評価の充実として、SVからの教育評価を継続する。
 - ★ 教員によるピア評価を継続する。各教員の講義に対するピア評価の結果を分析し、今後の課題について明確にする。
5. キャリアデザインセンターと協働し、卒業生の就職施設での評価を参考として、教育の質のさらなる向上を図る。
- ★ 卒業生就職先からの卒業生評価は、すでにセンター主催で実施されているが、現在データは学部別に分析されていない。今後、キャリアデザインセンターと協働しながら、アンケート項目の検討等を含めて、リハビリテーション学部に必要なデータを集積・分析し、教育の質の改善に活かす。（継続）
6. 学部生・卒業生・大学院生の学術的交流を促進し、卒業生の生涯学習支援体制をさらに充実させる。

- ★ 卒業生のニーズを把握する。(アンケートの検討、OT学科)
 - ★ 次年度以降、卒業生・大学院生修了生の有志による勉強会・研修会開催を支援していく。
- PT：卒業生勉強会の継続

研 究

1. 本学部・研究科の教育の質の向上・地域のニーズへの対応を目的とした研究領域を樹立する。
2. 医療科学研究科における成果を、さらに社会に向けて発信し続ける。

4) 共通教育センター

共通教育センター HUHS VISION 20

開学以来共通教育センターが兵庫医療大学の中で果たしてきた役割を振り返ると、チーム医療教育、初年次教育、各医療職の基盤となる科目の基礎教育、教養教育をあげることができる。こうした教育は一定の成果を上げていると考えられる。しかし、いずれの教育についても、共通教育センターと各学部とで一貫したカリキュラムが形成されているとはいえないのが現状である。今後10年で西日本を代表する医療総合大学となることを目指すために、共通教育センターとして、これまでの活動を振り返り、改善を図りつつ、各学部との連携を緊密にとることが必要である。

—到達目標—

学生が課題を解決するのに必要な能力を育成するためのカリキュラムを明確にするとともに、多職種連携教育を全学に浸透させる。

—ビジョン—

教 育

1. 科目関連会議の拡充による基礎教育と専門教育の連携を強化する。
2. 第1学年次から卒業年次まで継続的な多職種連携教育（IPE）を実施し、各学年次で習得すべき多職種連携（IPW）のコアコンピテンシーを明確にする。
3. 教養科目の拡充を図る。
4. 共通教育センター教員の専門分野の特性を活かし、卒業研究をサポートする。
5. 初年次教育科目の継続的な改善を図る。

研 究

1. 多職種連携教育（IPE）の手法とその効果についての研究を行う。
2. 医療系大学に必要な初年次教育の教育内容の検討と教育プログラムの開発を行う。
3. 多様な専門領域の研究者が所属する共通教育センターの特性を活かし、分野融合的な研究の推進を図る。
4. 海外の教育研究機関との共同研究を推進する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 3学部との科目関連会議の拡充と教育の連続性を確保する。
2. 3学部合同科目（早期臨床体験実習、チーム医療概論、チーム医療論演習等）で修得を目指すIPWのコアコンピテンシーを明確にし、カリキュラムマップを策定する。
3. 幅広い教養を身につけるための教養科目の拡充を図る。
4. 課題解決に必要な考える力と他者との協働に必要な力を涵養する。

研 究

1. PBL、TBL、反転授業など、IPEの効果的な教育手法を検討し、その効果について検証する。
2. 次世代を担う医療人にとって必要な能力を同定し、その育成に必要な教育プログラムを開発する。

3. 共通教育センター教員が自らの専門分野の研究を遂行する中で、領域横断的な課題を発見し、学際的な研究を推進する。
4. 海外の大学や研究機関と学術交流を深め、国際的な教育および研究活動を推進する。

第2章 教育研究組織

1. 学部

概要

本学は、薬学部医療薬学科、看護学部看護学科、リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科、共通教育センターの3学部4学科、1センターより構成されている。

共通教育センターは一般教養科目のみならず、アカデミックリテラシー、早期臨床体験実習(Early Clinical Exposure : ECE)、チーム医療概論、チーム医療論演習等を兵庫医科大学とも連携して全学的に実践している。

2. 大学院

概要

修士課程看護学研究科および医療科学研究科、博士課程薬学研究科より構成されている。2016年度より文部科学大臣認定職業実践力育成プログラム (Brush up Program for professional : BP) を開設している。地域医療を担う医療専門職者のキャリアアップを支援する3プログラム (地域在宅看護実践力育成プログラム、PT・OT臨床力ステップアッププログラム、リハビリテーション科学課題研究コース) を設置し、毎年度継続的に多数の受講生が参加している。

3. 先端医薬研究センター

概要

兵庫医科大学先端医薬研究センターは、医学および薬学の関連分野の研究推進を図るため、医薬・医療に関する先端的な研究開発を行い、その成果を疾病の予防および治療に反映させることを目的として、薬学部設置されている。同センターは、G棟1階に配置された薬学部研究室と同様な研究環境をもつ3室の実験室から構成され、それぞれの実験室で特色ある研究プロジェクトが実施されている。このうち、先端医薬研究センター1では、大学発の創薬をめざす研究プロジェクトが実施され、独自の先端技術を活用した外部機関との共同研究が展開されている。先端医薬研究センター2では、学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院の研究部門として中医薬に関する法人内の共同研究活動が実施されている。先端医薬研究センター3では、前プロジェクトの終了に伴い、新たな研究プロジェクトを募集している。

4. RI実験センター

概要

RI実験センターは放射性同位元素 (ラジオアイソトープ) を用いたトレーサー実験を安全に行うための実験施設である。本センターでは ^3H 、 ^{14}C 、 ^{32}P および ^{125}I 等ベータ線またはガンマ線放出核種の使用が許可されており、生化学実験または分析化学実験に対応した実験器具および放射線計測器が設置されている。本センターは2008年1月に放射線管理区域として認可され、翌年4月に放射線取扱主任者が選任され、同年9月より稼働している。本センターは放射線障害防止について総括的な監督を行う放射線取扱主任者の他、管理区域責任者、安全管理責任者および施設管理責任者より構成された管理組織にて運営されている。この他に各学部より選出された委員で構成された組織として放射線障害予防委員会およびRI実験センター運営委員会を設置している。前者の委員会では放射線予防規程の改定や放射線管理状況報告書について、後者では本センターの運営および放射線管理に必要な事項についてそれぞれ審議を行っている。

特記事項

- ・点検実施
年2回実施している施設点検では補修等の措置を講ずべき不具合は認められなかった。
- ・非密封RIの保管状況
11品目の¹⁴C標識化合物として計18.2MBq、2品目の³H標識化合物として計9.4MBqおよび⁴⁵Ca標識化合物として計36.8MBqの放射性同位元素を保管している。
- ・放射線業務従事者数
放射線業務従事者の登録者は8名（含む女子登録者1名）であった。いずれも年間被ばく線量は検出限界以下であり、個人実効線量分布は5 mSv/年以下であった。
- ・放射線管理状況報告書の提出
前年度の放射線管理の記録類を管理状況報告書（許可使用者）として原子力規制委員会へ提出した。
- ・兵庫医科大学共同利用研究施設放射性同位元素等使用室の閉鎖について
研究施設の閉鎖に伴い、本学RI実験センターでの学外研究員の受入れ準備および測定機器類の移設について学務部研究技術課と協議した。

5. 動物実験センター

概要

動物実験センターおよび同分室は、「動物の愛護および管理に関する法律」、「動物の愛護および管理に関する条例」、「実験動物の飼養および保管ならびに苦痛の軽減に関する基準」、および「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営されている。実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験等のバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発等を支援している。

統計

- ・利用者人数（スタッフ除く）

動物実験センター	3714
動物実験センター分室	65
計	3779

- ・飼育ケージ数（延べ個数）

	SPF	CNV	分室
組換えマウス	25577	3381	0
マウス	3167	12428	119
ラット	0	12824	0
ハムスター	—	0	197
モルモット	—	0	—
ウサギ	—	0	—

・入舎動物数

	SPF	CNV	分室
組換マウス	40 [※]	0	0
マウス	342	654	0
ラット	0	1307 [※]	0
ハムスター	—	0	0
モルモット	—	0	—
ウサギ	—	0	—
ウシガエル	—	0	—

※自家繁殖含む

6. 共同機器室

概要

本学の研究・教育活動を推進するための共同利用施設として、高度な研究機器を配した共同機器室がG棟に設置されている。核磁気共鳴装置やフローサイトメーターをはじめとする研究機器が導入され、ライフサイエンスを広くカバーする本学の研究・教育の基盤として重要な役割を担っている。

共同機器室は研究活動の場を提供するばかりでなく、本学研究者の活発な交流や次世代の医療科学を担う学生の教育にも重要な役割を担うことが期待されている。共同機器室の管理・運営は共同機器室運営委員会と共同機器室利用者が連携してこれにあたっている。

共同機器室に設置されている主な研究設備機器を表1. に示す。また2015年度より共同機器室4と共同機器室6に私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金（文部科学省）の支援を受けたPBLラボラトリを併設している。

表1. 共同機器室研究設備機器一覧

共同機器室1	
	超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置（NMR）
	・ NMR system PS600型（600MHz）（Agilent Technologies社）
	・ JNM-ECX400PKS型（400MHz）（日本電子（株））
	・ NMRマグネット冷却用液体窒素自動供給装置（日本サーマルエンジニアリング）
共同機器室2	
	・ 生体成分相互作用解析装置 Biacore 3000システム（GE Healthcare社）
	・ 走査型電子顕微鏡 SU1510（日立ハイテク社）
共同機器室3	
	・ 共焦点レーザー顕微鏡 FV1000-D（オリンパス社）
	・ 正立蛍光顕微鏡 BX51-FL（オリンパス）
	・ Ca ²⁺ イメージング装置Fura2レシオイメージングシステム（浜松ホトニクス社）
	・ マルチガスインキュベーター（TAITEC社）
	・ HS オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-9000（キーエンス社）
	・ 実体顕微鏡 SZ61（オリンパス社）SZX10（オリンパス社）
	・ 倒立ルーチン顕微鏡 CKX41（オリンパス社）
	・ 磁気細胞分離システム AutoMACS（ミルテニー社）
	・ 超音波洗浄機 AU-507CB（EYELA社）
	・ セルソーター FACS Aria II（ベクトンディッキンソン社）
	・ フローサイトメーター Accuri C6（ベクトンディッキンソン社）
	・ P2実験室（細胞）

共同機器室4	
	・サーマルサイクラー PCRsystem9700 (AppliedBiosystems社)
	・サーマルサイクラー Veriti (AppliedBiosystems社)
	・RealTimePCRStepOnePlus-01 (AppliedBiosystems社)
	・RealTimePCR7500Fast (AppliedBiosystems社)
	・レーザースキャナ型イメージアナライザー TyphoonTrio (GEHealthcare社)
	・CCDカメラ型イメージアナライザー ImageQuant400 (GEHealthcare社)
	・卓上超遠心機 OptimaMax-XP (ベックマン社)
	・高速冷却遠心機 AvantiHP-30I (ベックマン社)
	・多本架け冷却遠心機 CF12RX (日立工機社)
	・非観血式自動血圧測定装置 (ラット、マウス) BP-98A-L ((株) ソフトロン)
	・クリオスタット NX70 (ThermoScientific社)
	・ABIPRISM310GENETICANALYZER (AppliedBiosystems社)
	・振動刃ミクロトーム VT1200S (ライカ社)
	・ポリトロンホモジナイザー PT3100/PT1200E (kinematica社)
	・超音波破碎装置 Model250D-Advanced (Branson社)
	・遺伝子導入装置 Xcellコンプリートシステム (Bio-Rad社)
	・遺伝子導入装置 スクレオフェクター (Amaxa社)
	・超純水製造装置 Milli-QIntegral (MerckMillipore社)
	・MAXART大判インクジェットプリンター PX-9550S (EPSON社)
	・大判インクジェットプリンター SCT7200 (EPSON社)
	・分光光度計 Nanodrop1000 (ThermoScientific社)
	・サイトスピン CYTOSPIN4 (ThermoScientific社)
	・クロマトグラフィシステム AKTAprime (GEHealthcare社)
	・化学発光ゲル撮影装置 FUSION-FX7.EDGE (エムエス機器)
	・シングル重極型GCMSシステム (アジレント・テクノロジー) ※PBLラボラトリ
	・DNAシーケンサー SeqStudio Genetic Analyzer SEQ-L (Thermo Fischer社)
共同機器室5	
	・低温室
	・P2実験室 (微生物)
	・LOCATOR 8 PLUS Rack and Box Systems (Thermo Scientific社)
	・超低温フリーザー (-80℃) MDF-U383 (三洋電機社)
共同機器室6	
	・超高精度 ESI-Q TOF/LC-MS/MSシステムmicroTOF-Q (Bruker Daltonics社)
	・高速液体 クロマトグラフ LaChrom Elite 2000 三次元分析システム (日立ハイテック社)
	・高速液体クロマトグラフ LaChrom Elite 2000 紫外吸収検出器セットおよび示差屈折検出器セット (日立ハイテック社)
	・高速液体クロマトグラフ・分取分析用システム LaChrom Elite 2000 分取分析用システム (日立ハイテック社)
	・高速液体クロマトグラフ・三次元分析システム Chromaster (日立ハイテック社)
	・フーリエ変換赤外分光光度計 FT/IR-4100 (日本分光社)
	・旋光度計 P-2100 (日本分光社)
	・吸光/蛍光プレートリーダー SpectraMax M2e (Molecular Devices社)
	・発光プレートリーダー SpectraMax L Dual Injectors (Molecular Devices社)
	・ウルトラマイクロ天秤 XP26 (メトラートレド社)
	・ロータリーエバポレーター (減圧ポンプ、冷却水循環装置付き) R-210V (ビュッヒ社)
	・接触還元装置 (水素発生装置付き) CH-100 (石井理化機器)
	・試料水平型多目的X線回折装置 Ultima IV (リガク社)
	・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore社)
	・凍結乾燥装置 FDU-2100 (EYELA社)
	・角型ドライチャンバー DRC-1000 (EYELA社)
	・FDM方式3Dプリンタ uPrint (SEシステム) ※PBLラボラトリ
	・高速液体クロマトグラフ・質量分析システム Chromaster (日立ハイテック社) ※PBLラボラトリ
	・融点測定装置B-540 (メトラートレド)
	・融点測定装置MP-J3 (株式会社ヤナコ機器開発研究所)

第3章 教育課程・学習成果

1. 教育目標、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針

教育目標

- ・幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念・目標のもとに、人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者の資質をもった学生に学位を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

幅広い教養と心豊かな人格の育成・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと専門性の高い知識と技術の修得・優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療を担える資質の育成・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養が、可能になるように教育課程を編成します。大学での学びに必要な学習方法や基本的能力を修得する科目および医療専門職者として必要な専門領域以外の自然科学、人文科学、語学などの多彩な教養科目を開講します。チーム医療関連科目をはじめとする専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を開講します。

1) 学部

①薬学部

教育目標

1. 「くすり」と「生体」およびその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師としての基盤となる正しい知識を身に付ける。
2. 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
3. ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
4. 医療の高度化・多様化および科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身につける。
5. 個人にとって安全かつ適切な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
6. 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（薬学）を授与します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要な倫理観、使命感、責任感を有する。
2. チーム医療の一員として、他の医療専門職者とコミュニケーションを取り、互いの立場を理解し尊重しながら、薬剤師として貢献することができる。
3. 十分なコミュニケーション能力を有し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解したうえで薬物治療を実践することができる。
4. 「医薬品・化学物質」と「生体・環境」およびその相互作用について正しい知識を身につけ、さらにそれを応用する技能を有する。
5. 西洋医学および東洋医学に基づく安全かつ有効な薬物療法を主体的に実施するために必要な薬学的管理を実践する能力を有する。
6. 地域の医療・保健・福祉に関する知識と、それを地域住民の健康増進、公衆衛生の向上に結びつける能力を有する。
7. 研究活動に取り組む意欲を有し、研究課題を発見し解決する基本的能力を有する。
8. 世界の医療・科学技術の進歩に迅速に対応できるよう、生涯にわたり自ら学び続けることができる。
9. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（2013年度改訂版）」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する科目
2. 薬剤師に必要な倫理観、使命感、責任感を涵養する科目
3. 薬学の専門的知識・技能を活かし、チーム医療の中で、連携協力し合う能力を培う統合科目
4. 薬物治療を実践するために薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養成する科目
5. 基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目
6. 地域の医療、保健、福祉に関する知識を修得し、地域住民の健康増進、公衆衛生向上に結びつける能力を養成する科目
7. 医療や科学技術の発展に貢献できる研究能力と、生涯を通して学び続ける自己研鑽能力を養成するための科目
8. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を養成するための科目

編成方針

初年次は、全教育課程を全うするために必要な学習諸要素を修得する機会を提供する。薬学専門科目を学ぶ基礎としての高大接続科目を初年次の初めに配置する。人文科学、社会科学、自然科学などの教養科目は低学年次に修得させる。

低学年次から高学年次にわたり医療専門職者としての意識づけや態度教育を行い、チーム医療科目やコミュニケーションに関する科目は複数年次にわたって継続的・発展的に編成する。専門科目はキャリアイメージを早期に確かなものとするために、初年次から開始し、段階的に能力を各年次において発展させるべく編成する。

薬剤師業務の基礎的知識、技能、態度が修得できるよう第4学年次に実務実習事前学習や共用試験を受験させ、その試験に合格後、第5学年次に5か月間にわたる薬局実務実習および病院実務実

習を履修する。第4学年次後半より研究室配属を行い、実験・研究を通じて問題解決能力、自己研鑽能力、後進を指導する意欲と態度を養成する。さらに、最終学年次には、6年間の学修内容を統合的に連携付けさせる総合演習科目を配当する。

実施方針

学習効率の向上および能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義・演習・自己学習の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習を積極的に取り入れる。技能・態度の修得を目的に、実習科目を取り入れる。さらに、授業科目に関連する医療施設・薬事衛生施設・企業の見学、学識経験者や薬害患者などの招聘講義、医療専門職者・模擬患者の授業参加を取り入れる。

成績評価方法

紙面での試験、レポート評価のほか、技能・態度の評価（形成的評価を含む）、ピア評価、口頭試問、プレゼンテーションなど多角的な視点で評価する。病院・薬局実務実習に関しては、技能・知識の評価に加えて、医療専門職者となるための心構えを含めた、マナー、積極性、探求心、協調性、社会的常識などの獲得に関しても評価する。研究実習・研究研修に関しては、研究活動、研究発表、研究論文に関するルーブリック評価表を作成して評価する。

②看護学部

教育目標

1. 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力および問題解決能力を身につける。
3. 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術および人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身につける。
4. 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身につける。
5. 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
6. 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。

1. 人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。
2. 地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備える。
3. 看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につける。
4. 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。
5. 看護の基本技術を的確に実施できる。

6. コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる。
7. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解できる。
8. 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる。
9. 地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる。
10. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 人間の多面的な理解を深めるための幅広い教養を身につける科目
2. 医療専門職者として人の価値観を尊重できる態度と倫理観を育む科目
3. 人間を取り巻く環境と健康に関わる医学・保健学・福祉学など近接学問領域の幅広い知識や技術を養成する科目
4. チーム医療に必要な知識と協働する力を養成する科目
5. 看護学における専門知識と基本技術を養成し、論理的思考力や問題解決力を身につける科目
6. 看護学の対象となる人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の専門科目
7. 国際的な視点から看護を探究し創造する力を育む科目

編成方針

教育課程を「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成する。

看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護をもとに、これらの内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成する。また、学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置する。

看護実践能力を効果的に育成するために講義・演習・学外実習を織り交ぜた授業形態で編成する。また、段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習を配置する。

実施方針

授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を積極的に取り入れる。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、模擬患者・当事者の授業参加による授業を取り入れる。

学内演習は、シミュレーション教育を取り入れ、シミュレーター人形の活用、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開する。

学外実習は、臨地において知識・技術・態度の統合を図るため、教員・臨床指導者の指導のもとに看護実践を展開する。

成績評価方法

成績評価方法は、筆記試験、レポート評価のほか、実技試験、学習態度の評価、ピア評価など多

角的な視点で評価する。学外実習に関しては、対象の理解、看護技術の確実性、倫理に基づく看護実践について評価する。さらに、学内演習・学外実習ではルーブリックを活用した評価を取り入れるなど測定方法の工夫を行っている。

③リハビリテーション学部

教育目標

1. 多様な文化や価値観を受け容れる地域的・国際的感覚、豊かな人間性、および人々の幸福と共生に奉仕する精神を身に付ける。
2. さまざまな医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携・協力できる総合的実践力を身に付ける。
3. 地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
4. リハビリテーションを実践するために必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解するための知識を身に付ける。
5. 効果的なリハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。
6. 医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身に付ける。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、理学療法学科では学士（理学療法学）、作業療法学科では学士（作業療法学）を授与します。

1. 人々の幸福と健康に貢献するために行動する人間力を身に付ける。
2. リハビリテーションを実践するために必要な、医学・医療・保健・福祉・行政などの知識を身に付ける。
3. 効果的にリハビリテーションを実践するために必要な、確かな技術を身に付ける。
4. チーム医療・地域医療を担う一員として、さまざまな専門職者と連携・協力できるコミュニケーション能力を身に付ける。
5. ICU（集中治療室）をはじめとする急性期から施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者の問題に向き合う対応力を身に付ける。
6. さまざまな臨床的課題を解決できる総合的実践力を身に付ける。
7. 先駆的な研究・教育を展開できるように自分の能力を磨き、他者とともに自己を高めていく能力を身に付ける。
8. 地域社会から国際社会に至る多様な文化や価値観を理解する豊かな人間性を身に付ける。

理学療法学科

理学療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、理学療法と人間の生体反応を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 運動器、神経系、内部障害に対する理学療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

作業療法学科

作業療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、作業療法と人間の生活活動や心身機能を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 身体機能・精神機能・人間発達と関連づけて作業療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

理学療法学科

1. 理学療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 理学療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 理学療法を实践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な理学療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 理学療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な理学療法学へ発展させる能力を培う総合科目

作業療法学科

1. 作業療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 作業療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 作業療法を实践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な作業療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 作業療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な作業療法学へ発展させる能力を培う総合科目

編成方針、実施方針、成績評価方法については、両学科共通です。

編成方針

初年次前期には、大学での全教育課程を全うし医療専門職者となるために必要な基本的要素を修得する。教養を身に付ける科目、専門基礎科目、専門科目を原則的には初年次から第4学年次まで段階的に学ぶ。理学療法士・作業療法士の職業イメージを確立するための専門科目（病院などでの学外実習を含む）、また、病院などで他職種と連携・協力し合う能力を培うためのチーム医療科目などは、初年次から第4学年次まで継続的に配置する。最終学年では、学修したすべての成果を総合し、卒業後も発展させていく能力を修得する総合科目を配置する。

実施方針

授業の実施形態としては、学修効率の向上、能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習などの参加型学習（学生が主体的に学修する方法）を積極的に取り入れる。さらに、リハビリテーションに

関連する施設や企業等の見学、学識経験者などを招いての講義、障害のある人・模擬患者の授業参加を取り入れる。

成績評価方法

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学修態度の評価、ピア評価（学生同士の評価）など多角的な視点で評価する。学外実習では、理学療法士・作業療法士としての態度や人間関係のとり方、学修意欲についても評価する。

2) 大学院

①薬学研究科

教育目的

1. 薬剤師業務の質向上と変革を推進するために不可欠な高度研究能力、すなわち臨床現場における問題点を発見し、それを解決するために適切な研究計画を立案し、その成果を論文化できる能力を涵養する。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決する基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展できる能力を涵養する。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 自立した薬学研究者として活動するために必要な専門的知識を有する。
2. 学術論文等から修得した医療薬学に関する最先端の知識を基に、他者の研究を理解し、かつ批判的に吟味できる能力を有する。
3. 医療の抱える問題点を自ら見出し、それに基づき検証可能な薬学的課題を設定する能力を有する。
4. 薬学的課題を解決するために必要な技能と意欲を有する。
5. 研究成果を論文などとして発表することができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

高度な研究能力を持つ医療専門職者、医療薬学における問題点を解決できる薬学研究者を養成するために、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・専門基礎科目：先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ
- ・専門演習科目：各専門演習Ⅰ・Ⅱ
- ・研究指導科目：医療薬学特別研究

編成方針

研究の実施に必要な基盤的な知識・技能・態度を修得させることを目的とする専門基礎科目や専門演習科目は低学年次に配置する。研究指導科目は、問題発見能力・課題設定能力・問題解決能力・情報発信力を含む幅広い研究能力を養成するための中心となる科目であるので、4年間にわたり配置する。

実施方針

コースワークとして実施される専門基礎科目や専門演習科目は、学生の広い視野を涵養するとと

もに学際的研究を可能にするため、本研究科の複数の教員が分担して実施する。リサーチワークとして実施される研究指導科目は、研究指導教員の指導の下に実施する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、薬学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、研究指導教員を除く複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、薬学研究科委員会で確認する。

②看護学研究科

教育目的

兵庫医療大学大学院看護学研究科は、建学の精神に則り、真に人々にとって必要とされる看護学の専門的知識・技術を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じて役割・機能を果たすことのできる看護専門職者を育成する。また、看護学研究科は、大学院生と教員・指導者とが学修の目標を共有し、一体となって学修を促進し、常に相互交流を通して互いに成長することを目指している。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（看護学）の学位を授与します。

看護学基礎研究領域

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 医療・保健・福祉チームにおける連携・協働を促進する役割を果たすことができる。
3. 国際的な視野に立ち看護の課題に取り組む姿勢を有する。

看護学課題研究・高度実践領域（CNS）

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 専門看護師（CNS）に求められる「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高邁な倫理観」の6つの能力を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・看護学研究科共通科目
- ・看護学研究科専門科目

編成方針

1. 修士課程における共通科目は、科学的根拠に基づいた医療・保健・福祉に関連する専門的知識の修得と高度実践への応用、先進医療に関わる最新の情報と課題の修得を目的として第1学年

次に配置する。

2. 看護学研究科共通科目は、各看護学分野、および看護学基礎研究領域と高度看護学課題研究・高度実践の領域を超えて必要な専門知識と研究・実践能力の修得を目的として第1学年次に配置する。
3. 看護学研究科専門科目は、主要な概念・理論を探究する看護学特論、看護対象や援助の枠組みを探究する看護学援助特論、学内・臨地における体験を通じて専門的看護実践能力を高める看護学演習を配置する。
4. 看護学基礎研究領域では研究能力育成のために看護学特別研究を配置する。
5. 看護学課題研究・高度実践領域（CNS）では専門看護師としての看護実践能力・役割を修得するための実習および看護実践の質向上を探究する看護学課題研究をそれぞれ配置する。

実施方針

コースワークとして実施される共通科目や専門科目における講義科目は、学生の広い視野を涵養するとともに教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成のため、双方向・多方向の講義形態を用いる。

リサーチワークとして実施される専門科目は、研究指導教員の指導のもとに実施する。研究課題の明確化と研究テーマの設定、研究計画に基づく実施データの分析と考察、論文の作成と公表を通じて、研究者となるに足る知識・技術・態度を修得する。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は、専門看護師としての高い専門性と優れた看護実践能力を修得するとともに、看護実践の質向上を探究する看護学課題研究を修得する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、看護学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、看護学研究科委員会で確認する。

③医療科学研究科

教育目的

兵庫医療大学大学院医療科学研究科は、建学の精神に則ると共に、本学リハビリテーション学部 of 学部教育を基盤として、リハビリテーション科学領域における研究の発展と高度実践専門職者の養成を目指しています。大学院生と教員・指導者が学修目標を共有し、より高度な臨床実践能力を持つ専門職者の育成と、臨床場面での問題や課題を解決できる研究者の育成を目指しています。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（医療科学）の学位を授与します。

・リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。
特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。

2. 臨床経験および先行研究をもとに、研究疑問を焦点化する能力を有する。
3. 研究疑問を解決するための適切な過程を決定し、実施する能力を有する。
4. 実施した研究を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
5. 常にリハビリテーション科学および関連領域の先駆的知識を理解する姿勢を有する。

・リハビリテーション科学課題研究コース

1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。
特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。
2. 臨床経験および先行研究をもとに、臨床的課題を焦点化し、その課題を解明する科学的根拠を推論する（臨床的推論）能力を有する。
3. 臨床的推論に基づいて介入した症例を通して、介入前後の変化を客観的に評価する能力を有する。
4. 臨床的課題を解明する過程を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
5. 常にリハビリテーションの臨床的課題を探索し解明しようとする姿勢を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度医療専門職の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・医療科学研究科専門基礎科目
- ・医療科学研究科専門科目

編成方針

・リハビリテーション科学研究コース

1. 共通科目・専門基礎科目を主に第1学年次に配置する。
2. 教育論（養成教育・臨床教育）、統計学等の研究者・教育者志向を目指した科目を第2学年次前期までに配置する。
3. 在籍期間を通じて研究活動を展開する。
4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。

・リハビリテーション科学課題研究コース

1. 共通科目・専門基礎科目を第1学年次に配置する。
2. 臨床能力向上を目的とした科目を第2学年次前期までに配置する。
3. 在籍期間を通じて臨床研修ならびに課題研究を実施する。
4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。

実施方針

コースワークとして実施される共通科目、専門基礎科目ならびに専門科目は、学生の広い視野を涵養するとともに学生相互の意見交換を重視するため、双方向・多方向の講義形態を用いる。リサーチワークとして実施される研究科専門科目は、研究指導教員の指導を中心に、各研究領域に所属する全ての教員・大学院生を含めた意見交換を通じて実施する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、医療科学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査会において公正な評価を行い、医療科学研究科委員会で確認する。

2. 教育課程

特記事項概要

本学では、2007年の開学以来、学校法人兵庫医科大学の建学の精神に基づき、兄弟校である兵庫医科大学との緊密な連携のもと、医療専門職者の育成を実践してきた。

2016年度に開学10周年を迎え、今日まで作り上げてきた医療総合大学としての独自の教学体制を基盤とし、西日本を代表する特色ある医療総合大学への成長を推進するため、次の10年（開学20周年）で目指す目標を「HUHS VISION 20」として宣言している。（第1章参照）

1) 学部

①薬学部

概要

教育目標に掲げた「教養」と「倫理・人間性」「コミュニケーション能力」「基礎学的知識」「医療基礎薬学的知識」、「安全・衛生管理能力」、「実務能力」、「探求心」という主題の習得を目的に、第3章1に示すようにカリキュラム・ポリシーを設定している（2016年10月改訂）。

カリキュラムにおける配当科目を大きく基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3分野にグループ分けし、専門分野はさらに基礎薬学領域：物理系薬学分野、化学系薬学分野、生物系薬学分野、医療薬学領域：衛生薬学分野、薬理学分野、薬剤・薬物動態学分野、薬学臨床領域：病態・薬物治療学分野、臨床薬学分野の3領域8グループに分類されている。第1学年次に生物学、化学、物理学等の専門基礎科目を配置し、高学年次の専門科目への導入を行う。第2・3学年次は化学系基礎薬学科目、生物系基礎薬学科目、衛生薬学科目および関連実習科目を配置することで物質と生体に対する基本的理解を深め、第3・4学年次に医療系薬学科目を配置することで、領域内の個別項目に掲げられる一般目標の修得がスムーズに進むよう構成されている。

また、薬学部内では、上記8グループを教科専門部会と位置づけ、それぞれに属する専任教員が専門領域に関するカリキュラムや講義の問題点を意見交換、情報共有および議論する場を設けている。

各授業科目の教育目標達成のために、講義、実験実習、チュートリアル学習と成果発表会、体験学習を組み合わせた実効的カリキュラムを構築し実施している。

科学的思考力の醸成に役立つ技能および態度を修得するため、基礎薬学、衛生薬学、医療薬学の各系科目に関連づけた計8科目の実験実習を第2～3学年次に実施しており、その中で科学的思考力と実験技能を養っている。

特記事項

- ・2016年度より、学年別履修オリエンテーションにおいて冊子体のカリキュラム・ポリシーを配布して周知した。また、社会に対しては、カリキュラム・ポリシーは、本学ホームページに提示しており、「情報の公表」で公表している。
- ・2016年度からは卒業の研究研修期間を概ね1年間確保するために、国家試験対策は、研究研修に割り当てられた時間割以外の時間帯でエクステンション・クラスとして実施した。

模擬患者養成事業

本学では近隣の住民の皆様のご協力を仰ぎ、模擬患者（Simulated Patients：以下SP）として学内実習等に参画頂いている。薬学部第4学年次必修「新・実務実習事前学習」において患者接遇の実習へ協力頂く他、薬学部共用試験OSCE課題である患者接遇、情報提供の領域において標準SPとして参加頂いている（2019年度：68名）。SPは2008年度から毎年募集し、2020年3月時点で79名が登録しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため新規募集および実習・OSCEへの参画ともに実施していない。なお、2019年度は13名の薬学部教員がタスクフォースとして実習・OSCEのためのSPおよび標準SP養成講習会を実施したが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大による非対面指導の拡大を踏まえてオンライン環境の有無およびオンライン服薬指導でのSP参画希望について調査を行い、19名の希望があった。

②看護学部

概要

これまで看護学部は、カリキュラム検討委員会を常設し、教育の質担保・充実を図ってきた。2017年10月に策定された看護学教育モデル・コア・カリキュラムに抱合される看護実践能力の修得を目指し、①自然科学の関連科目の充実、②多様な場における看護実践力育成のための基礎科目および専門科目の充実、③多職種連携に関する科目の増設、④多様性・国際化に対応するための語学教育の強化を図り、第1学年次前期から「地域包括ケア」および「国際看護」に関する授業とささやま医療センターにおける地域に根差した医療とケアを学修できるプログラムを配置している。

特記事項

- ・「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の3分野から構成し、看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成している。
- ・学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置している。段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習（基礎看護学実習から専門領域の実習へと）を配置している。
- ・各専門科目の演習では、看護過程を展開する事例検討を含み、臨地実習に向けて問題解決能力を高める既習の知識の統合化を図る内容を積極的に取り入れている。また、必要な看護技術を患者体験や視覚教材・モデル人形などを用いて、少人数グループ体制による演習を実施している。
- ・第4学年次に第3学年次までの臨地実習の振り返りを行い、それまでに学んだ内容の共有や学びの考察・今後（最終学年次）の課題を明確にするグループワークを実施している。
- ・第4学年次の統合看護実習および研究セミナーの分野選択を同一分野とし、統合看護実習と研究セミナーを関連させて実施している。統合看護実習の実習経験が研究疑問や研究テーマに繋がっていた。
- ・2020年度前期は、講義演習科目はオンライン授業、第1学年次の臨地実習科目は学内実習に振り替えた。
- ・2020年度後期は、講義科目はオンライン授業、演習科目は対面授業、臨地実習科目は一部の科目を除き臨地での時間数を削減した実習であった。

③リハビリテーション学部

概要

リハビリテーション学部は、リハビリテーション専門職のうち、理学療法士を育成する理学療法学科と作業療法士を育成する作業療法学科を設置し、リハビリテーション学部ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に則り作成されたリハビリテーション学部カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）に沿った教育課程を構成している。

教育課程は、実践に役立つ医療人を育成するため、本学薬学部生・看護学部生とのボーダレスな環境で行われる「基礎科目」、本学3学部（兵庫医科大学）の学生も加えて実施されるチーム医療教育および学部単位で行われる医学系科目等の「専門基礎科目」、主に学科単位で行われる「専門科目」から成る。

教育課程全体を通して、医療人としての人間力の涵養を目的として、障がいをもった方やその家族を積極的に授業に招聘している。「専門科目」の病院・施設における実習に関しては、全学年に学生の学習経験に応じた実習科目を配置し、学校法人兵庫医科大学関連施設をはじめとする近隣施設において実施している。また、長期実習（評価実習・総合臨床実習）に関しては、その質の向上、および、実習指導者と教員の実習指導における協働を促進することを目的として臨床実習指導者会議を開催し、実習指導者との連携を密にし情報共有を確実化している。さらに、研究を発展させる能力の基礎を育成するため、「専門科目」の理学療法研究法または作業療法研究法・卒業研究を必修としているほか、他の専門科目においても研究志向を涵養している。

また、正規の授業以外に、国際性の涵養を目的としての外部講師による「国際交流セミナー」を、学業に余裕のある第4学年次にさらなる学習機会を与えることを目的としての兵庫医科大学病院での「医療チーム実習」（学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター主催）を、実施している。「医療チーム実習」は、感染対策、緩和ケア、褥瘡対策などのチームに、希望する第4学年次が数日間参加する形態で実施している。

④ 共通教育センター

概要

共通教育センターは、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の基礎教育および一部の専門基礎教育を担当し、また、兵庫医科大学医学部との教育連携を図る目的で、本学の教育の中心的理念であるボーダレス教育を支える部署として開学時に設けられた。

本学の卒業生が将来、医療チームの一員として心の通った医療を提供するためには、それぞれの患者を理解できる人間性、社会人としての常識が必要である。また、高度化する医療技術と複雑化する各種疾病に対処するために、医療専門職者は自分の担当領域のみならず、幅広い知識を備えることが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学、スポーツ健康科学など多彩な基礎科目とともに、いくつかの専門基礎科目を修得する必要がある。これらの学びを支えるのが「共通教育センター」である。

本学では、開学以来、各学部での専門教育に加えて、学部の垣根を越えた連携教育を行っている。また、兵庫医科大学およびその関連施設と連携して、病態や治療に関する知識を教育するとともに、実習を通じて実践に役立つ医療人の育成を行っている。すなわち3学部合同、さらには兵庫医科大学医学部をも交えた4学部合同で学ぶチーム医療関連科目のコーディネートも共通教育センターの重要な役割である。センターが主として対象とする学生は第1学年次の学生であるが、後記のように一部は高学年次の学生も対象としている。

共通教育センターが中心となって行っている教育内容は、以下の通りである。

（1）アカデミックリテラシー

- (2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育
- (3) チーム医療（多職種連携）教育
- (4) 早期臨床体験実習（ECE）
- (5) 各教員の専門とする基礎教養科目

以下、(1)～(4)の概要を記載する。

(1) アカデミックリテラシー

アカデミックリテラシーは2013年度より新たに開設された科目であり、科目責任者を中心として、共通教育センター教員全員と一部の学内の学部教員および非常勤講師などの協力を得て、第1学年次前期金曜日の午後に全学部合同で実施された。その教育目標は、①将来の医療人としての勉学への動機づけ、②社会生活に必要なマナーの理解、③情報検索の方法の理解、④作文とレポートの違いの理解、⑤情報機器による情報伝達手段・表現手法の基礎の習得、⑥情報機器やインターネットのしくみの理解、⑦他人との議論を通じた問題探究の手法の習得等である。

(2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育

2012年度までは、高等学校で理系科目の未履修者への支援科目として薬学部においてのみ、「物理学入門」と「生物学入門」が開講されてきた。2013年度のカリキュラム改訂において、導入教育科目を全学部提供し、科目の種類も「数理科学入門」「生物学入門」「化学入門」「計算演習」と自然科学の学びの基礎学力涵養のために、全分野をカバーするように整備した。さらに、2015年度より、薬学部の導入科目の「生物学入門」・「化学入門」をそれぞれ「基礎生物学」「基礎化学」に科目名変更し、薬学部の学生の基礎学力のボトムアップの工夫を行った。

(3) 多職種連携教育

全学部混成の合同教育は、本学のモットーである「チーム医療」教育を支える中心となっている。チーム医療に関する教育は、共通教育センターが主として対象とする初年次においてのみならず、第2学年次および第4学年次においても実施しており、第1学年次と第4学年次においては、3学部に加えて兄弟校である兵庫医科大学医学部生も加えた4学部合同で行われている。将来の薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医師が一同に会し、同一の課題症例について、それぞれの視点から調査・討論・発表するという、他職種候補生との交流を含めてチーム医療の学びを様々な段階でレベルにあわせて経験できる、日本でも類を見ない教育を展開している。

(4) 早期臨床体験実習（ECE）

医療専門職としての知識や技術を習得するにあたり、医療の実際に直接触れることによって、入院患者の生活や看護業務の現状、病院各部署の機能を知り、医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高揚させることを目指し、開学以来、3学部4学科の学生の混成グループを編成し、夏期休暇前の1週間の間（その週の連続した2日間）、兵庫医科大学病院（各病棟・薬剤部・リハビリテーション部）において早期臨床体験実習を実施してきた。2016年度からは、より早い時期に医療への目的意識、医療職者としての人格形成を涵養させるために、実施時期を前倒しに変更して実施している。

特記事項

- ・アカデミックリテラシー

2017年度から、大学での学修方法および学生生活に早期に慣れてもらうという目的から、入学直後の3日間（計12コマ）でまず集中的にアカデミックリテラシーの導入部分を実施した。

また、ECEの実施時期の変更に伴い、6月の時間割を学生半数ずつに分けた2部編成で実施した。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響でアカデミックリテラシーの全授業を遠隔でのオンライン授業に変更した（詳細は「教育方法」の特記事項に記載）。

・早期臨床体験実習

2017年度より実施時期を6月の金曜日の4週間にわたりECEを設定し、アカデミックリテラシーと裏表のカリキュラムを組んで、学生の半数ずつ（前半もしくは後半の2週の2日間）での兵庫医科大学病院での実習に変更した。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で実際の病院実習は中止となり、遠隔での調査演習授業に変更した（詳細は「教育方法」の特記事項に記載）。

資料①主要行事

2020年度 行事予定

【前 期】		
4月	3日（金）	オリエンテーション・健康診断（第1学年次）
	4日（土）	健康診断（薬学部第5学年次）※実習あり学生のみ
	〃	オリエンテーション・健康診断（リハビリテーション学部作業療法学科第4学年次）
	6日（月）	オリエンテーション・健康診断（薬学部第2・3・4・6学年次）
	6日（月）～8日（水）	アカデミックリテラシー（第1学年次）
	7日（火）	健康診断（薬学部第5学年次）※実習なし学生のみ
	〃	オリエンテーション・健康診断（看護学部第2・3・4学年次）
	〃	オリエンテーション・健康診断（リハビリテーション学部理学療法学科第2・3・4学年次）
	〃	オリエンテーション・健康診断（リハビリテーション学部作業療法学科第2・3学年次）
	9日（木）	<前期>授業開始（第2・3・4・5・6学年次）
	6日（月）～ 8日（水）	<前期>履修登録期間（薬学部第1・2・3・4・6学年次）
	7日（火）～ 9日（木）	<前期>履修登録期間（看護学部第1・2・3・4学年次）
	8日（水）～ 10日（金）	<前期>履修登録期間（リハビリテーション学部第1・2・3・4学年次）
6月	7日（日）	6月オープンキャンパス
7月	18日（土）	薬剤師への道
	31日（金）	<前期>定期試験（本試験）期間（第1・2・3・4・5・6学年次）
8月	1日（土）～ 6日（木）	〃
	8日（土）・10日（月・祝日）	夏のオープンキャンパス
	17日（月）～ 21日（金）	<前期>定期試験（再試験）期間（第1・2・3・4・5・6学年次）
	22日（土）・23日（日）	夏のオープンキャンパス
	27日（木）・28日（金）・31日（月）	チーム医療論演習（医学部との合同チュートリアル/第4学年次）【※場所：西宮キャンパス】
9月	1日（火）～ 4日（金）	チーム医療論演習（医学部との合同チュートリアル/第4学年次）【※場所：西宮キャンパス】
	7日（月）～ 9日（水）	早期臨床体験実習（医学部との合同チュートリアル/第1学年次）
	7日（月）～ 9日（水）	CBT体験受験（薬学部第4学年次）
	19日（土）	秋季学位授与式
【後 期】		
9月	17日（木）	<後期>授業開始（第1・2・3・4・5・6学年次）
	14日（月）～ 16日（水）	<後期>履修登録期間（看護学部第1・3・4学年次）
	15日（火）～ 17日（木）	<後期>履修登録期間（薬学部第1・2・3・4・6学年次）
	16日（水）～ 18日（金）	<後期>履修登録期間（リハビリテーション学部第1・2・3・4学年次）
	17日（木）・18日（金）	<後期>履修登録期間（看護学部第2学年次）
10月	24日（土）・25日（日）	大学祭（第13回海祭）
12月	6日（日）	薬学共用試験 OSCE（薬学部第4学年次）
	16日（水）・17日（木）	〃 CBT（薬学部第4学年次）
	13日（日）	【※ 薬学部第4学年次<後期>日程は、共用試験の都合により変更することがある。】 入試対策講座
1月	12日（火）・13日（水）・ 18日（月）～ 21日（木）	<後期>定期試験（本試験）期間（看護学部・リハビリテーション学部第3学年次除く）
	25日（月）～ 29日（金）	〃
		<後期>定期試験（再試験）期間（第1・2・3・4・5・6学年次）
3月	15日（月）	学位授与式
	21日（日）<予定>	春のオープンキャンパス
※ 以下については祝日授業日のため、カレンダーに注意すること。		
4月29日（水）、9月21日（月）、9月22日（火）、11月3日（火）、11月23日（月）		
		兵庫医科大学

資料②授業科目数

学部	学科	授業科目の総数	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	卒業要件
薬学部	医療薬学科	146科目	必修25単位、選択6単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修12単位	必修146.5単位、 選択5単位以上	194.5単位
看護学部	看護学科	117科目	必修14単位、選択10単位以上	必修26単位、 選択5単位以上	必修70単位、 選択5単位以上	130単位
リハビリ テーション 学部	理学療法 学科	100科目	必修22単位、選択8単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修35単位、 選択1単位以上	必修67単位	133単位
	作業療法 学科	107科目	必修21単位、選択 8単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修35単位、 選択1単位以上	必修66単位	131単位

※2020年度の学則に基づく

2) 大学院

①薬学研究科

概要

薬学研究科の教育課程の特徴は、高度な研究能力を身につけた薬剤師、医療薬学における問題点を基礎薬学の手法を用いて解決することのできる研究者を養成するために、基礎薬学から医療薬学に至るまで幅広く学ぶことができることである。さらに兵庫医科大学大学院および兵庫医科大学病院との協力関係を活かして、お互いのセミナーや講演会に積極的に参加しあって、知識・研究手法・シーズを交換し、さらに兵庫医科大学大学院の各研究室や兵庫医科大学病院と共同研究を行う事を通じて、医学・薬学全般を幅広く見渡せる薬学研究者を養成する教育を行う。

教育課程全体は、専門基礎科目、専門演習科目および研究指導科目で構成される。

専門基礎科目 4 単位、専門演習科目から 8 単位以上選択、研究指導科目18単位の計30単位以上の履修が修了要件である。

(1) 専門基礎科目

専門基礎科目として、医学・薬学全般にわたる最新の知見を各分野の専門家が紹介する共通のオムニバス科目を先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ、各 1 単位、計 4 単位を全必修科目として開講する。

(2) 専門演習科目

この科目は研究の遂行に必要な基盤的および先端的な知識・技能・態度を修得するための演習科目である。研究遂行に必要な知識・技能・態度を早期に修得するため、各専門演習Ⅰ・Ⅱとしてそれぞれ第1学年次、第2学年次に各 4 単位、計 8 単位の選択必修科目として開講する。外国文献の抄読会、自分の研究テーマに関するレビュー、自分の研究課題の進捗状況のプレゼンテーション等を通じて、他者の研究を正当に評価する能力や研究の進捗状況をプレゼンテーションする技能の獲得を目標とする。

(3) 研究指導科目

この科目は大学院博士課程の中心をなす科目である。研究指導科目として 4 年間で18単位の全必修科目として開講する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。

②看護学研究科

概要

コースワークとして実施される共通科目は科学的根拠に基づく高い専門知識と看護実践への応用を教授する。修士課程における研究科共通科目は、本学3学部と共通教育センター、さらに兵庫医科大学医学部・兵庫医科大学病院の協力を得て、本学の教育環境の特色を反映し、連携・協働を促進する教育体制をとっている。また、看護学共通科目は、学内・学外の看護実践者・教育者とともに教育の充実を図っている。さらに、各専門分野の理論的基盤となる講義科目は、専門分野の豊富な教育・研究業績を有する教授・准教授を中心に担当している。専門的看護実践能力を高める演習・実習科目については臨床経験や研究業績に合致した講師・助教が加わる等、手厚い教育・指導体制をとってきている。

リサーチワークとして実施される専門科目は、看護学研究科共通科目の看護研究、看護研究演習との学修内容のつながりを踏まえながら各分野・領域での研究指導を手厚く実施している。複数教員からの指導・助言を受けることで研究計画の完成度を高める目的として、第1学年次後期に「中間報告会」を3回にわたり開催した（2021年度から6回/開催することを決定した）。主査・副査教員による研究指導強化のため、研究計画書の倫理審査から第2学年次後期の修士論文指導に至るまで同一教員による指導の継続性を図っている。2020年度入学生より、指導体制の強化と論文審査の公平性・透明性の確保のために、指導体制および審査体制を区別して整えている。学生の指導は主指導教員と副指導教員の2名体制で行う。但し、課題研究報告書は主指導教員1名体制で行うが、テーマに応じて、他分野・領域の教員からの専門的な研究指導を受ける。論文審査は、審査委員として主査1名、副査2名の3名とし、指導教員は主査にはならず、副査を務める体制である。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は専門分野の臨床経験および教育経験豊富な教授・准教授・講師が担当している。特に、卓越した看護実践、専門看護師の相談・教育・調整能力の育成には、臨床現場で活躍している専門看護師を非常勤として教育にあたる体制を整えている。

③医療科学研究科

概要

学校法人兵庫医科大学の建学の精神、兵庫医療大学の教育理念のもとに、科学的思考に支えられた高度な実践力の獲得を目指して、チームを形成して活動する力を養い、リハビリテーション医学・医療に貢献できる人材を育成する。

医療科学研究科では、病態運動学分野と人間活動科学分野を設置し、それぞれの分野において研究志向の強い大学院生はリハビリテーション科学研究コースを、高度実践専門職者を志向する大学院生にはリハビリテーション課題研究コースを開設している。それぞれのコースの詳細は表1のとおりである。いずれのコースにおいても、医療機関などに在職した社会人に配慮して、平日夜間および土日の開講や研究指導を行っている。

資料①主要行事

2020年度大学院	
【前期】	
入学式	中止
オリエンテーション	中止
前期授業開始（薬学研究科）	4月11日（土）
前期授業開始（看護学研究科）	4月25日（土）
前期授業開始（医療科学研究科）	4月25日（土）
前期授業終了（薬学研究科）	8月1日（土）
前期授業終了（看護学研究科）	10月17日（土）
前期授業終了（医療科学研究科）	10月17日（土）
【後期】	
後期授業開始（薬学研究科）	9月12日（土）
後期授業開始（看護学研究科）	10月3日（土）
後期授業開始（医療科学研究科）	8月30日（日）
後期授業終了（薬学研究科）	2月13日（土）
後期授業終了（看護学研究科）	1月30日（土）
後期授業終了（医療科学研究科）	1月27日（水）

※授業時間表

第1時限	9時30分～11時00分（90分間）
第2時限	11時10分～12時40分（90分間）
第3時限	13時40分～15時10分（90分間）
第4時限	15時20分～16時50分（90分間）
第5時限	17時00分～18時30分（90分間）
第6時限	18時40分～20時10分（90分間）
第7時限	20時20分～21時50分（90分間）

資料②授業科目数

研究科	授業科目の総数	修了要件単位数
薬学研究科	25科目	30単位以上
看護学研究科	115科目	看護学基礎研究領域32単位以上 看護学課題研究・高度実践領域42単位以上
医療科学研究科	37科目	32単位以上

3) 職業実践力育成プログラム（BP）

①地域在宅看護実践力育成プログラム

概要

本プログラムは、要介護度が高く、医療的なケアを必要とする人でも、最期まで住み慣れた地域で安心して暮らせるような社会を目指し、複雑で多様な状況を見極められる看護専門職能力と一般地域住民の地域力を向上させることができる能力を育成する。プログラムには、「看護倫理」「アドバンスド・フィジカルアセスメント」「ベストプラクティス実践」「在宅看護ケア実践」の4科目を配置している。「看護倫理」「アドバンスド・フィジカルアセスメント」は大学院の看護学共通科目であり、「ベストプラクティス実践」「在宅看護ケア実践」は本プログラム特有の科目である。地域で暮らす生活者を対象とすることから、小児期から老年期に至るすべての成長発達段階、病院から在宅および地域にわたるすべての療養・生活場所における看護ケアを網羅するために、看護学研究

科の全教員が科目を担当している。

また、本プログラムは、大学院共通科目の2科目は大学院生と共に学び、本プログラム特有の科目2科目は受講生が学習した知識や技術を臨床の場で活用できるように、事例・ディスカッションを取り入れ、活発な討議を行っている。

特記事項

外部評価委員を交えた意見交換会を年1回開催（8月）し、講義内容・実施の報告と受講生からの評価、今後の課題等について検討しているが、2020年は新型コロナウイルス感染症感染予防のためオンラインにて10月となった。本プログラムの設置から5年目をむかえ、プログラムおよび実践とその評価について報告を行い、今後の本プログラムのさらなる改革やニーズ把握・受講生確保について検討した。新型コロナウイルス感染症感染拡大のため前期はオンライン（オンデマンド型、同時双方向型）による授業となり、最初は戸惑いもあったようであるが、自己の勤務や生活の調整をして、自分のペースで受講していた。また、後期は、感染予防対策を徹底して、部分的に対面授業を実施できた。対面による授業では、受講生によるディスカッションが活発に行われた。

②PT・OT臨床カステップアッププログラム概要)

概要

より質の高い理学療法・作業療法が求められる今日、理学療法士・作業療法士の臨床力の向上は、社会の強い要請となっている。

本プログラムでは、新人教育を終えた理学療法士・作業療法士の次のステップとして、より高度な専門的観点を持ち、臨床場面において、患者・対象者の状態に応じた高度な臨床推論の展開、適切な治療プログラムの提供ができる能力を育み、多職種連携の中でリーダーシップが発揮出来る能力の育成を目的としている。

特記事項

本プログラムは、兵庫医療大学大学院医療科学研究科の課題研究コースを基盤としており、当該コースの開講科目を中心としたカリキュラムを編成している。大学院でのカリキュラムに、BP独自の学習内容を加えたプログラムを履修証明プログラムとして提供するものである。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしている。

③リハビリテーション科学課題研究コース

概要

本学大学院教育の目的のひとつとして、高度専門職養成をあげている。課題研究コースは、学術研究に専念する大学院教育とは異なり、臨床力の向上を主たる目的としたコースであり、臨床研修の実施、ならびに臨床研修で経験した症例等について課題研究論文としてまとめることで、修士の学位を授与するコースである。

特記事項

臨床的知識・技術を積極的に高めたい人を対象に、専門領域別の特論、特論演習ならびに課題研究を行うコースである。さらに、院生の「修得したい臨床能力」と「臨床研修施設」のマッチング

について、適格と認められた施設において、臨床研修ならびにコースワークを実施し、学びの一連の成果を課題研究論文としてまとめ、修士の学位審査を行うものである。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしている。

資料①主要行事

2020年度職業実践力育成プログラム（BP）	
【前期】	
オリエンテーション	中止
前期授業開始（看護学研究科地域在宅看護実践力育成プログラム）	4月26日（日）
前期授業開始（医療科学研究科PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	5月3日（日）
前期授業終了（看護学研究科地域在宅看護実践力育成プログラム）	9月12日（土）
前期授業終了（医療科学研究科PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	9月12日（土）
【後期】	
後期授業開始（看護学研究科地域在宅看護実践力育成プログラム）	9月27日（日）
後期授業開始（医療科学研究科PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	9月6日（日）
後期授業終了（看護学研究科地域在宅看護実践力育成プログラム）	2月27日（土）
後期授業終了（医療科学研究科PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	1月10日（日）

※授業時間表

第1時限	9時30分～11時00分（90分間）
第2時限	11時10分～12時40分（90分間）
第3時限	13時40分～15時10分（90分間）
第4時限	15時20分～16時50分（90分間）
第5時限	17時00分～18時30分（90分間）
第6時限	18時40分～20時10分（90分間）
第7時限	20時20分～21時50分（90分間）

資料②授業科目数

BP	授業科目の総数	修了要件単位数
地域在宅看護実践力育成プログラム	4科目	必修4科目（各2単位）の合計8単位
PT・OT臨床力ステップアッププログラム	18科目	必修5単位（72時間）と選択科目4単位（48時間）以上の合計120時間以上
リハビリテーション科学課題研究コース	36科目	修士課程共通科目2単位以上、医療科学研究科専門基礎科目14単位以上、専門科目8単位、研究指導科目8単位を履修し、「リハビリテーション科学課題研究論文」を作成し、最終試験に合格

3. 教育方法（学習指導、シラバス、成績評価・単位認定）

1) 学部

①薬学部

特記事項

教育方法

・設立当初から教育においても「チーム医療」と「ボーダレス」をモットーにして高度医療人育成を目標にカリキュラムも作成してきた。その中で早期臨床体験学習に関しても2種類の見学・体験実習を実施している。ひとつは、全学部第1学年次の必修科目「早期臨床体験実習」の中で実

施している兵庫医科大学病院における臨床体験実習であり、もうひとつは薬学部第1学年次の必修科目「新・薬学入門Ⅰ」の中で実施している薬局・病院早期体験学習である。

- ・学生の学力を把握するための様々な制度が確立しており、学生個々のレベルに応じた細やかな指導に注力している。第1学年次の理科系科目（化学・物理・生物）では、学生のレベルにあわせた講義が行われており、専門教育が履修できるレベルまで基礎学力を向上させるための方策が実施されている。
- ・理科系科目の学力向上を目指した教育プログラムは入学前から実施されており、2017年度からは、入学前準備教育に課題提出とスクーリングを取り入れ、薬学部教員がフィードバックする機会を設定している。フィードバックする機会を設定したことで、入学前教育の実効性は向上したと考えられる。
- ・研究成果報告書の作成要領に基づいた卒業論文の作成を、2014年度の第6学年次から必須化している。
- ・卒業論文評価用ルーブリックをオリエンテーション時に開示するとともに、研究成果の医療や薬学における位置づけ、これから解決すべき問題点、今後の展望等について記載することも明文化した作成要領に基づき、例年8月末までに卒業論文を作成させている。
- ・卒後教育・生涯教育を企画・運営するための組織として、薬学部内に生涯教育ステーション運営委員会（旧：キャリアエクステンション委員会）がある。同委員会は、2014年5月よりキャリアエクステンション委員会として活動を開始し、毎年、4月と10月に本セミナーを開催している。

成績評価・単位認定

成績評価は、兵庫医療大学教育要項の「成績の評価方法」の項目に各科目の成績評価の具体的方法を明記しており、その記載に従って公正かつ厳格に行われている。実習については、参加態度、レポートなどで、複数の教員が評価している。体育など実技、文学/芸術、実践語学、実学関連科目については、参加態度、課題解決能力、レポート、プレゼンテーションなどに重きを置いた評価を行っている。参加態度、問題解決能力、総合的な学習成果の測定に関して、ルーブリック評価を採用している科目もある。その他の科目については、概ね、定期試験結果を重視した評価が行われているが、科目責任者によっては、参加態度、小試験（平常の成績）または中間試験や課題レポート内容などを加味し、総合的に評価している。

やむを得ない事情で定期試験を受けられなかった学生には、追試験を行っている。また、定期試験で不合格となった学生に対しては、科目責任者の判断で再試験を実施している。再試験を行わない科目については、「再試験無」とシラバスに記載し、学生に周知している。

成績評価の結果は、実習を含めた全ての科目について、前期、後期の試験期間終了後に、Web上で、初期評価と最終評価の2段階で発表している。初期評価では、定期試験（本試験）の可否と、再試験を行う場合は、資格の有無を告知している。

②看護学部

特記事項

- ・シラバスは全学的に統一した書式で作成し、学生にWebで公開されている。シラバスの内容に関する第三者チェックも看護学部教育委員と学部長で実施している。そのシラバスに沿って授業が進められている。成績評価方法・基準もシラバスに明示されている。
- ・看護学部では、講義、演習、実習の授業形態で授業は行われている。授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成等を目的として、講義の他に、

グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を取り入れている。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れている。

- ・学内演習は、モデル人形およびシミュレーター人形を活用、学生が模擬患者となる、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開している。授業時間外の看護技術練習の人的・物理的整備とともにナーシングスキル（オンラインツール）を整備し自主的な学修促進と教員の丁寧な看護技術指導を実施している。
- ・学外実習は、臨地実習部会という委員会を常設し、学部の学外実習全般の企画・実施および恒常的に検証を行い改善につなげてきた。2020年度も同様に、臨地実習部会は実習要項の作成、ガイダンス・事前学習・事前技術演習などにより学生の実習に向けての準備を促し、実習に関する実習施設との調整および実習施設における実習指導者との研修の企画運営と、実習中の学生の履修状況について教員間での速やかな情報共有などを担当した。さらに、健康管理センター長ならびに主たる臨地実習病院である兵庫医科大学病院看護部の監修のもと、「新型コロナウイルス感染症に対応した臨地実習感染防止ガイドライン」を策定し、学生および教員へ周知し学外実習先での感染防止に努めた。
- ・臨地実習後の学生に実習を振り返るリフレクションを基礎看護学概論Ⅱ（第4学年次）の中で実施することで、「主体的に学ぶために必要な態度や能力」「他者を尊敬し信頼できる力」「良好な人間関係をたもつ力」を育成している。
- ・履修指導は、学生個々の学習・生活相談に応じるためのクラス担任（学年アドバイザー）制度を設けており、2015年度から、早期に大学生活に慣れ、学生各自が学習習慣を形成できるようにするために、初年次に手厚い学生支援が必要であるとの考えから第1・2学年次クラス担任を8名、第3・4学年次クラス担任4名を配置してきた。2020年度も継続した。さらに、学年アドバイザーは、その年の目標を設定、それを学生と共有し、学年度末にはその評価を行いながら、生活面・学習面の相談に応じている。もし、学生の生活面・学習面に問題が生じた場合には速やかに学年アドバイザー主任に報告する。学年アドバイザー主任は学生委員、教育委員との連携に対応し、必要時には学部長に報告するという手続きに則って役割を遂行している。
- ・入学以来対面授業や教員からの対面指導を受けられなかった第1学年次生において心身の不調を訴える学生が少なくなく、学年アドバイザーや学生委員が中心となり、WEBや電話を用いた学生サポートを行った。
- ・合理的な配慮を要する学生への対応として、障がい学生支援委員を新たに任命し、役割と年間計画を作成した。さらに、障がい学生委員と学生委員・学年アドバイザー・学部長・学部長が必要と認める教員で構成される障がい学生検討会議を設立し、タイムリーな情報共有と支援が可能になるように図った。
- ・学生支援の一環として、看護学部内保護者会担当委員を中心に保護者会の企画運営を行っている。年1回の「定期総会および保護者懇談会」においては、保護者間や保護者と教員との交流を深め、大学側への要望等を汲み取るとともに「保護者・学生」とともに大学を運営する意識を高めている。
- ・国家試験については国家試験研究会（教員部会）を常設し、各年次クラスから選出された学生部会の年間活動をサポート、これまでの国家試験問題の傾向分析、学修支援などを行ってきた。対面での指導が困難であることから、Medlinkを活用しWEBでの指導を行った。
- ・前期・後期毎に、学生への授業、実習に対する評価アンケートを実施し、恒常的に自己点検・評価を行っている。その結果を看護学部教員が共有し、改善につなげている。特に、第3学年次後

期の半年にわたる学外実習では、クールごとに結果を集計し、問題・課題がある場合は直ぐに当該教員、看護学部として対応している。

- ・2020年度の看護学部FDとして、2020年度前期オンライン授業に関する学生ならびに教員へのアンケート結果と、第1学年次生～第4学年次生計7名に対する授業改善に関するWEBインタビューの結果に基づき、教員へフィードバックし各教員の教育方法の見直しと教育力向上に取り組んだ。

③リハビリテーション学部

特記事項

(学習指導)

- ・理学療法学科・作業療法学科とも、原則として各学年2名以上の担任を置いている。
- ・毎週学科単位で開催される学科ミーティングおよび適宜開催される学科会議において学科の全教員が学生に関する情報を共有し、教育面に限らず、学生に関して個別、グループ、あるいは全体に対してなんらかの対応が必要な状況を的確に把握し、迅速かつ適切に対応している。
- ・各教員は全学方針に則り、オフィスアワーを設けその時間帯を公表しているが、学生はオフィスアワーに限らず、学業に関する質問やキャリア・学生生活その他に関する相談など、自由に教員の研究室を訪ねており、教員は個別に適切な対応を行っている。
- ・学生の学年間交流を深め、学生の学習効率を高めることを目的として、学習の場での学年間の交流を促進している。

(シラバス)

- ・次年度のシラバス作成時に、「次年度学部授業シラバスの確認事項―当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に―」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会に報告している。
- ・作成されたシラバスは、全学システムに則り、学部教育委員および学部長が点検・確認し、全学的な点検・確認システムに挙げている。

(成績評価・単位認定)

- ・成績評価・単位認定に関しては、兵庫医療大学学則および兵庫医療大学教務に関する規程に則り、また、全学教育委員の方針に準じて、厳正に実施している。
- ・2017年度後期から、学部教員が科目責任者を担当する授業科目において、単位認定をより厳格に行うシステムを導入した。具体的には、単位認定において不合格とする場合、当該科目に精通する第三者が不合格に至る過程を確認し、さらに、科目責任者の職位が第三者より高い場合は科目責任者と同等あるいはより高い職位の第三者も確認に加わることにした。

(その他)

- ・授業の質の担保、教授法の改善を目的に、教員による授業のピア評価を行った。評価者からのコメントを基に、次年度授業の改善に取り組むこととした。

④共通教育センター

特記事項

共通教育センターの教育の特徴は、授業体系で可能なものについては、ボーダレスな環境で実施することである、つまり3学部合同（一部は医科大学と連携して4学部合同）で教育を行う点にある。特にチーム医療関連科目（チュートリアル・早期臨床体験実習）は、医療総合大学としての本学独自の特色ある教育であり、目覚ましく進歩する医療情報や技術を鑑み、最新の教育技法を取り入れた教育を目指して計画していた。しかしながら2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大

予防のため、対面での授業が前期は完全に中止され、Moodle等を使用したオンラインでの遠隔授業での対応をせざるを得ない状況となった。特に第1学年次の初年次教育や導入教育を担当する共通教育センターにとっては、学生への学問としての教育以前に、大学での授業（本年度のような遠隔授業）の受け方自体を各教員が手分けして電話やメールを利用した個別対応も含め、四苦八苦しながらも、授業の実施体制を整える努力にかなりの労力を費やした。

以下、共通教育センターの根幹授業である「アカデミックリテラシー」「早期臨床体験実習（ECE）」のコロナ禍における取組について概説する。

（１）遠隔授業によるアカデミックリテラシーの実施

4月のイントロダクションの授業として、GoogleとYouTubeを利用して、医療大情報システム、電子メール、Moodleの使用方法、医療人としての挨拶とマナー、図書館利用法などを、初心者にもわかるように懇切丁寧に指導した。それに続き、センター教員が情報班、スタディースキルズ班、PBL班に分かれ、それぞれ遠隔での授業方法を検討・準備し、遠隔での初年次教育に取り組んだ。情報班は、情報倫理と情報検索、Word・Excel・PowerPointの使い方を、スタディースキルズ班は、ノートテイク、文章読解、クリティカルシンキング、レポート作成法を、PBL班は3学部の学生を学部混成で60グループに分け、PBL（問題基盤型学習）をMoodleのフォーラムとGoogle Meetsの会議アプリを利用し、企画した。各グループの成果物はPowerPointでの動画の作成提出を企画指示し、それに基づいて評価がなされた。特にこの授業のPBLの試みは、後記する遠隔授業としてのECEや合同チュートリアルの実施にも大きく貢献することとなった。

（２）遠隔授業による早期臨床体験実習（ECE）の実施

新型コロナウイルス感染症感染予防対策のために、兵庫医科大学病院では全ての実習生の受け入れを中断している状況であった。また学生の登校もしていない状況であったので、本年度は医科大学病院に出向いて、実際に医療現場を見学させることができず、遠隔での課題授業で対応せざるを得なかった。そこで「早期臨床体験実習（病院実習）」の授業として、現場で活躍する様々な医療職者からの経験談やコメントを学生に傾聴させ、兵庫医科大学病院について理解を深めるとともに、やがて体験する病院実習に向けての心構えや注意点について学習させた。具体的には、医療職者としての心構え、服装や身だしなみの注意点、兵庫医科大学病院の説明、医局と診療体制、医療現場における医師・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士の役割と経験談を、センター教員および各学部の教員が手分けをして担当し、医療職とは何か、医科大学病院はどのような病院か等を、多職種に及んで学ぶ機会を与えた。仮想ではあったが、学生を医科大学病院の各診療科に配属させ、その病院診療科や薬剤部、リハビリテーション部の業務について調査させ、今後の自分の目標や決意とともに課題レポートを課し、成績評価した。

2) 大学院

①薬学研究科

特記事項

博士課程教育の中核は「研究指導科目」の履修と博士論文の作成である。「研究指導科目」の選択については、受験前の事前相談における指導教員との意向確認を踏まえ、指導教員からの履修指導において相談のうえ決定する。博士論文の作成のため、第1学年次は7月に、第2～4学年次は4月末に研究計画書を提出し研究を行う。その途中経過を毎年度末に研究結果報告書として提出する。すべての単位を取得し、博士論文が完成すれば、指導教員の承認を得て、原則として第4学年

次後期に学位を申請する。ただし、優れた研究業績を上げた者については、第3学年次後期に行うことができる。博士論文発表会を行い、最終試験を受験し、その両者に合格すれば博士（薬学）が授与される。

②看護学研究科

特記事項

看護学研究科において、学生への教育・研究指導および環境の充実を図るため、学修到達度の自己評価を自己記入式調査で、カリキュラムに関する評価を面接にて毎年調査している。その結果をもとに学習内容や方法を検討し充実に努めている。

看護学共通科目の「システムティックレビュー」では、国際的な視点や研究テーマに関連した文献を系統的に探究する力を養うこととした。また、看護学研究科独自で正規の科目ではないが、英語論文を読む力を高めるために、リメディアル科目として「アカデミックイングリッシュ入門」を開講した。また、修士課程生とBP受講生（医療科学研究科含む）が合同で履修する科目においては、内容検討を進め、学習の満足のいくものとなった。さらに、大学院生およびBP受講生が実施する授業内でのディスカッションは双方に良い影響を与えていることが授業評価から読み取れた。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で緊急事態宣言発令中は基本的にオンライン（オンデマンド型・同時双方向型）授業とした。解除後も職場から登校禁止とされた学生や通学を躊躇する学生のため、オンライン参加か対面参加か学生が選択できるよう配慮したり、科目や状況によりオンデマンドやオンラインによる個別指導を取り入れている。

③医療科学研究科

特記事項

医療科学研究科では、病態運動学分野は3つ、人間活動科学分野は2つの研究領域に分かれ、その専門の教員が配置されており、きめ細やかな研究指導を行っている。また、毎月開催される研究科委員会において、研究科内における様々な事項に関する情報共有を行い、大学院生の支援を行っている。大学院生は全員社会人であり日中はそれぞれ勤務しているため、オフィスアワーは夜間帯および週末に設定し、各大学院生に合わせて個別に対応できるようにしている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により講義をオンデマンドで配信したものも多く、時間割変更とともにMoodleを用いた補充を提供した。また、Moodleを用いた授業評価を実施し、講義科目等についても大学院生からの意見聴取を実施している。

3) 職業実践力育成プログラム (BP)

①地域在宅看護実践力育成プログラム

特記事項

受講生に対して実施したプログラムの評価アンケートから、大学院科目である2科目を通して、新たな知識と技術を習得することで、新しい知識を習得できた・視野が広がったことを実感し満足につながっていた。さらに、これまでの自身の看護を振り返り、学びなおすことによって、実践に自信を持てるようになったことや具体的な自身の活動目標を持つことをできたことが確認できた。

また、受講のための現職の業務・生活の調整の難しさ、経済的な課題があることも明らかになった。経済的な負担の軽減のために専門実践教育訓練給付制度（厚生労働省）による給付制度を導入している。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で緊急事態宣言発令中は基本的にオンライン（オンデ

マンド型・同時双方向型)授業とした。解除後は、大学の方針にそって感染予防を徹底して部分的に対面授業を実施した。学生の評価としては、オンデマンドの授業は勤務調整ができやすく、自己のペースで学習できる、何回も見直すことができるなど良い点を評価していた。後期の対面授業における授業内のディスカッションは、年齢も経験も異なる生徒間でのディスカッションはいろいろな考え方や意見を聞くことができ、新しい発見もでき、有意義な時間だったと評価していた学生が多かった。

②PT・OT臨床カスステップアッププログラム

特記事項

本学の学部卒業生を含む14名が受講し、11名がプログラムを修了することができた。そしてプログラム修了生の中から2名が大学院医療科学研究科へ進学した。

受講生からのアンケート結果から、概ねプログラムに対する満足な感想が得られ、臨床力のアップにつながったものと思われる。また本プログラムに協力頂いている日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、全国在宅リハビリテーションを考える会の外部委員の方々との意見交換会において、本プログラムの現状を報告し、今後の改善点などを話し合った。本履修証明プログラムを修了した者に対して、昨年度より、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会ともにそれぞれ生涯学習のポイント付与がなされることになった。

さらに、理学療法士作業療法士養成施設指定規則改正によって、臨床実習指導者が臨床実習指導者講習会が義務づけられたことにより、本プログラムの臨床実習教育方法論演習に、厚生労働省が指定する臨床実習指導者講習会の内容を盛り込み、受講生が厚生労働省より講習会受講証を受け取れるようにし、本学の臨床実習指導者等を含めて40名の受講者に対して、厚生労働省からの受講証を発行した。

③リハビリテーション科学課題研究コース

特記事項

本コースによる受講者はいなかった。

4. 成果（学位授与等）

1) 学部

学位授与数

学部学科	学位授与数
薬学部医療薬学科	130
看護学部看護学科	123
リハビリテーション学部理学療法学科	46
リハビリテーション学部作業療法学科	42

①薬学部

CBT（Computer-based Testing）結果

CBT：知識および問題解決能力を評価する客観試験（合格基準：正答率60%以上）

	受験者数	合格者数	合格率
本試験	143	120	83.9%
追再試験	23	14	60.9%

OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 結果

OSCE：技能および態度を評価する客観的能力試験（合格基準：課題ごとに、細目評価70%以上、概略評価5以上）

領域：患者・来局者対応、薬剤の調製、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供

	受験者数	合格者数	合格率
本試験	143	139	97.2%
追再試験	4	1	25.0%

薬剤師国家試験結果

第106回薬剤師国家試験

試験日：2021年2月20日（土）～2月21日（日）

合格発表日：2021年3月24日（水）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	100	83	83.0%	112	42	37.5%
全 国	8,711	7,452	85.5%	5,035	2,079	41.3%

②看護学部

看護師国家試験結果

第110回看護師国家試験

試験日：2021年2月14日（日）

合格発表日：2021年3月26日（金）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	122	121	99.2%	1	1	100.0%
全 国	59,593	56,868	95.4%	6,531	2,901	44.4%

保健師国家試験結果

第107回保健師国家試験

試験日：2021年2月12日（金）

合格発表日：2021年3月26日（金）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	30	30	100.0%	—	—	—
全 国	7,281	7,094	97.4%	553	293	53.0%

助産師国家試験結果

第104回助産師国家試験

試 験 日：2021年 2 月11日（木）

合格発表日：2021年 3 月26日（金）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	7	7	100.0%	—	—	—
全 国	2,097	2,091	99.7%	11	9	81.8%

③リハビリテーション学部

理学療法士国家試験結果

第56回理学療法士国家試験

試 験 日：2021年 2 月21日（日）

合格発表日：2021年 3 月23日（火）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	46	46	100.0%	—	—	—
全 国	10,522	9,093	86.4%	1,424	341	23.9%

作業療法士国家試験結果

第56回作業療法士国家試験

試 験 日：2021年 2 月21日（日）

合格発表日：2021年 3 月23日（火）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	42	41	97.6%	1	1	100.0%
全 国	4,895	4,345	88.8%	654	165	25.2%

2）大学院

学位授与数

研究科	学位授与数
薬学研究科	2
看護学研究科	1
医療科学研究科	3

①薬学研究科

学位論文

領 域	論文題目	著 者
臨床薬剤学	Study on the Usability of the Drugs Focusing on Easily Pushed Out	田中 里佳
	押し出しやすさに着目した医薬品の使用性に関する研究	
分子循環器病 治療学	Polypharmacy is associated with accelerated deterioration of renal function in cardiovascular outpatients	坂本 淳一
	循環器内科外来患者においてポリファーマシーは腎機能悪化を加速させる	

②看護学研究科

学位論文一覧

分 野	学位論文種別	論文題目	著 者
がん看護CNS	修士論文	緩和ケア病棟に入院している終末期がん患者の生を全うする生き方	柳田千代美

③医療科学研究科

学位論文一覧

分 野	論文題目	著 者
病態運動学 内部障害	腎移植患者における腎機能と身体活動の関係性：Isotemporal substitution modelを用いた横断研究	大畑 拓也
病態運動学 内部障害	回復期脳卒中患者における転倒予測因子の検討—後ろ向きコホート研究—	中本 麗奈
人間活動学 精神活動	精神疾患患者の自殺を経験した作業療法士における立ち直りのプロセス	林 直樹

3) 職業実践力育成プログラム (BP)

履修証明書授与者数

プログラム・コース	修了者数 (人)
地域在宅看護実践力育成プログラム	10
PT・OT臨床力ステップアッププログラム	11
リハビリテーション科学課題研究コース	0

第4章 学生の受け入れ

兵庫医療大学学生受け入れ方針

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念を理解し、主体性をもって学び医療専門職者を志す学生を求めています。このような学生を適正に選抜するために多様な選抜方式を実施しています。また、高等学校までに修得すべき基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」は学力試験等で判断します。

1. 学部

1) 薬学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

薬と生体についての「専門的な知識」、薬を正しく取り扱うことのできる「正確な技術」、および、他者との「コミュニケーション能力」を身につけた人を育てます。さらに、多様な専門職者からなる医療チームの中で、身につけた知識、技術、コミュニケーション能力を活かして活躍し、人の健康と幸福のために尽力し、社会の発展に貢献する意欲を持った薬のプロフェッショナルを育成します。

したがって、目標とする＜将来の自分像＞を持ち、以下の＜必要な素養と能力＞を有している人を求めます。

将来の自分像

1. 薬剤師として病院や薬局などでチーム医療や地域医療に貢献する。
2. 医薬品の研究・開発や販売を通して企業などで広く医療に貢献する。
3. 薬学研究者・教育者として研究機関や大学などで活躍する。
4. 薬事・衛生行政に関わり、国や地方自治体で活躍する。

必要な素養と能力

知識・技能

- ・薬学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・根拠に基づいて論理的に考え、判断し、行動できる素養がある。
- ・自分の考えを人に分かりやすく伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

- ・目的意識を持って自ら学び続けることができる。
- ・相手の話をよく聞いて理解し、柔軟に対応しようとする姿勢がある。

2) 看護学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

看護の実践者・研究者・教育者として活躍できる優れた看護専門職者（看護師・保健師・助産師）を育成します。そのため、生命の尊厳や個人の権利・価値観を理解し、尊重できる「感性豊かで倫理観に富んだ人間性」と、高度化・複雑化する医療現場に対応できる「確かな看護実践能力」を育成します。さらに、地域的・国際的な視野で医療・保健・福祉の課題を総合的に捉え、他職種と協働して、主体的・創造的に人々のquality of life（生活の質）の向上に寄与できる能力を育成します。したがって看護専門職者として医療・保健・福祉などの分野に貢献しようとする意志を有し、以下

の〈必要な素養と能力〉を有する人を求めます。

必要な素養と能力

知識・技能

- ・看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・論理的に物事を考え、表現する力を身につけている。

主体性・多様性・協働性

- ・他者を理解し、協調しようとする姿勢を身につけている。
- ・看護専門職者になる強い意志を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる。
- ・自らの目標達成のために努力しやり遂げる意志がある。

3) リハビリテーション学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

リハビリテーション専門職者（理学療法士・作業療法士）として社会に貢献する人を育成します。そのために、人々の幸福と健康に貢献することができる人間力、理学療法学・作業療法学の知識・技術に基づく確実な臨床力、他職種と連携しながらリハビリテーション専門職として力を発揮することができる総合的実践力、そして、生涯にわたって自分の能力を磨き自己を高めていく能力・態度を育成します。

したがって、理学療学科では理学療法士として、作業療学科では作業療法士として、医療・保健・福祉などの分野に貢献しようという意志を有し、以下の〈必要な素養と能力〉を有する人を求めます。

必要な素養と能力

知識・技能

- ・理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・物事を論理的に考えるための基本的思考力がある。
- ・自分なりに物事を判断し、その理由を説明することができる。
- ・自分の気持ちや考えを人に伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

- ・目的意識をもち続け自分から能動的に学修する。
- ・自分と異なる意見や気持ちをもっている人に関する興味と、そのような相手を理解しようとする姿勢をもっている。
- ・人とのコミュニケーションを大切にする。

2. 大学院

1) 薬学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

本研究科の理念に共感し、高度な研究能力を有する医療専門職者、そして医療薬学の問題を解決したいと願う薬学研究者を目指す以下のような人材を求めます。

1. 高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を有する人。

2. 薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を有する人。
3. 医療の現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を有する人。

入試との連関

1. 専門科目：高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を判定する。
2. 外国語：薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を判定する。
3. 面接：医療現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を持っているかどうかについて判定する。

2) 看護学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

生命と人権を尊重し、医療・保健・福祉および社会の変動に対応し、創造的かつ科学的に看護が実践できる能力をもち、人々の健康とquality of lifeの向上および看護学の発展に寄与できる高度専門職業人、研究者、教育者、管理者を育成します。本研究科では、以下のような人材を求めます。

1. 主体的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 看護専門職者として高度看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有する人。
3. 志望する専門分野に必要な基礎的知識と技術を有する人。
4. 国際的視野に立ち、柔軟な発想ならびに論理的思考で課題を探究する姿勢を有する人。
5. 倫理的な感受性と想像力をもって行動できる人。

入試との連関

1. 専門科目：看護学の共通知識および志望する分野の専門的知識と専門分野の現状の理解と課題を明確にできる能力を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：志望動機、学修準備状況、自主性、学習意欲、心構えを判定する。

3) 医療科学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

高度な研究能力を有する医療専門職者ならびに高度な実践能力を有する医療専門職者を強く目指す以下のような人材を求めます。

1. 自ら積極的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 自らの臨床的知識・技能を積極的に高めたいという意欲を有する人。
3. 先駆的・学際的・発展的研究に取り組み、医療科学の発展に寄与する姿勢を有する人。
4. 自らが修得した臨床的知識・技術、発展的知見を臨床実習教育・新人教育を通じて後進へ伝え、専門職業人としての発展に寄与しようとする人。

リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学領域において、先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようとする志向性を有する人。
2. 将来、本領域において研究・教育を牽引していく意欲を有する人。

リハビリテーション科学課題研究コース

1. 自らの臨床的知識・技術を積極的に高めたい人。
2. 本研究科で培った臨床的知識・技術を活用してリハビリテーション医療の向上に貢献しようとする人。

入試科目との関連

1. 専門科目：各専門領域に関する基礎的な知識を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：主体的・協動的に研究活動に取り組もうとする姿勢を判定する。

3. 入学者選抜および入試結果

1) 学部

2021年度学生募集は、総合型選抜、学校推薦型選抜（専願公募制前期日程・指定校推薦制・公募制S日程・公募制A日程・専願公募制後期日程・公募制B日程）、一般選抜（前期A日程・前期B日程・中期日程・後期日程・大学入学共通テスト利用入学試験（学力重視型前期日程・面接併用型・学力重視型後期日程）を次のとおり実施した。

特記事項

学校推薦型選抜（専願公募制後期日程）および大学入学共通テスト利用入学試験（学力重視型後期日程）を新規に導入した。新型コロナウイルス感染症対策に伴い一部内容を変更して実施した。体調不良者に配慮し、受験の振り替えや追試験を設定し受験機会の確保を行った。試験実施においては受験生の体調確認、マスク着用、換気・手指消毒の励行等を行い、感染防止に努めて実施した。

1. 総合型選抜

- ①選 抜 方 法：一次試験 講義受講、試験（理系科目、文系科目）
二次試験 実習・演習、面接および学習・活動計画書、調査書、一次試験の得点
- ②試 験 日：一次試験 2020年10月3日（土）
二次試験 2020年10月17日（土）
- ③合格発表日：2020年11月2日（月）
- ④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	6	7	4	4
出願者数	5	65	30	20
受験者数	4	65	30	20
一次試験通過者	4	19	15	12
合格者数	3	10	7	8
入学者数	3	10	7	8

2. 学校推薦型選抜（専願公募制前期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、理科、調査書
 ※特定科目重視型は理科、調査書
 看護学部 外国語、小論文、調査書
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、小論文、調査書
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、小論文、調査書

②試 験 日：2020年11月21日（土）

③合格発表日：2020年12月3日（木）

④募集人員等：

区 分	薬学部		看護学部	リハビリテーション学部	
	スタンダード型	特定科目重視型		理学療法学科	作業療法学科
募集人員	20		18	10	12
出願者数	21	16	95	42	24
受験者数	21	16	95	42	24
合格者数	19	13	30	14	16
入学者数	19	0	30	14	15

3. 学校推薦型選抜（指定校推薦制）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科、面接および書類審査
 ②試 験 日：2020年11月21日（土）
 ③合格発表日：2020年12月3日（木）
 ④募集人員等：

区分	薬学部
募集人員	15
出願者数	16
受験者数	16
合格者数	16
入学者数	16

4. 学校推薦型選抜（公募制S日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、理科、調査書
 看護学部 外国語、調査書
 ②試 験 日：2020年11月21日（土）
 ③合格発表日：2020年12月3日（木）
 ④募集人員等：

区分	薬学部	看護学部
募集人員	10	5
出願者数	90	141
受験者数	86	138
合格者数	73	23
入学者数	11	12

5. 学校推薦型選抜（公募制A日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科、数学、調査書
看護学部 外国語、数学、調査書
リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、調査書
リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学、調査書

②試 験 日：2020年11月28日（土）

③合格発表日：2020年12月9日（水）

④募集人員等：

区分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	12	15	4	4
出願者数	97	279	92	37
受験者数	92	273	92	35
合格者数	75	88	22	23
入学者数	3	40	8	10

6. 学校推薦型選抜（専願公募制後期日程）

①選 抜 方 法：薬学部 理科、調査書

②試 験 日：2020年12月19日（土）

③合格発表日：2020年12月25日（金）

④募集人員等：

区分	薬学部
募集人員	6
出願者数	8
受験者数	8
合格者数	8
入学者数	8

7. 学校推薦型選抜（公募制B日程）

①選 抜 方 法：薬学部 理科、調査書

②試 験 日：2020年12月19日（土）

③合格発表日：2020年12月25日（金）

④募集人員等：

区分	薬学部
募集人員	6
出願者数	38
受験者数	35
合格者数	32
入学者数	13

8. 一般選抜（前期A日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、数学、理科
看護学部 外国語、国語、理科
リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、理科
リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、国語、理科

②試 験 日：2021年2月2日（火）

③合格発表日：2021年2月13日（土）

④募集人員等：

区分	薬学部		看護学部		リハビリテーション学部			
					理学療法学科		作業療法学科	
	スタンダード型	特定科目重視型	スタンダード型	特定科目重視型	スタンダード型	特定科目重視型	スタンダード型	特定科目重視型
募集人員	33		30		12		10	
出願者数	80	49	218	183	63	53	21	21
受験者数	78	47	213	179	63	53	21	21
合格者数	59	32	20	17	12	10	9	9
入学者数	18	0	3	1	3	0	4	1

9. 一般選抜（前期B日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、理科
看護学部 外国語、数学
リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学
リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学

②試 験 日：2021年2月3日（水）

③合格発表日：2021年2月13日（土）

④募集人員等：

区分	薬学部			看護学部			リハビリテーション学部					
							理学療法学科			作業療法学科		
	スタンダード型	特定科目重視型	共通テスト活用型	スタンダード型	特定科目重視型	共通テスト活用型	スタンダード型	特定科目重視型	共通テスト活用型	スタンダード型	特定科目重視型	共通テスト活用型
募集人員	20			14			6			6		
出願者数	60	39	23	200	173	84	67	58	33	24	19	15
受験者数	59	38	23	196	170	83	67	58	33	24	19	15
合格者数	45	28	15	16	14	7	12	10	4	7	5	4
入学者数	4	1	0	2	1	0	4	3	0	0	0	0

10. 一般選抜（中期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科、数学
 ②試 験 日：2021年2月20日（土）
 ③合格発表日：2021年2月26日（金）
 ④募集人員等：

区分	薬学部
募集人員	8
出願者数	46
受験者数	42
合格者数	34
入学者数	11

11. 一般選抜（後期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、理科
 看護学部 外国語、理科、国語
 ②試 験 日：2021年3月2日（火）
 ③合格発表日：2021年3月10日（水）
 ④募集人員等：

区分	薬学部	看護学部
募集人員	5	5
出願者数	36	57
受験者数	24	54
合格者数	22	14
入学者数	11	14

12. 大学入学共通テスト利用入学試験（学力重視型前期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科、外国語
 看護学部 国語、理科、外国語
 リハビリテーション学部 理学療法学科 数学①・数学②、理科、外国語
 リハビリテーション学部 作業療法学科 国語、理科、外国語
 ②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。
 ③合格発表日：2021年2月13日（土）
 ④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	5	3	2	2
出願者数	59	121	39	15
受験者数	59	114	38	15
合格者数	31	8	5	5
入学者数	0	0	3	2

13. 大学入学共通テスト利用入学試験（面接併用型）

①選 抜 方 法：一次試験 数学、理科①、理科②、外国語

二次試験 面接

②試 験 日：一次試験 本学独自の学力試験は行わない。

二次試験 2021年3月3日（水）

③合格発表日：2021年3月10日（水）

④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	2	3	2	2
出願者数	4	20	9	3
受験者数	4	20	9	3
一次試験通過者	4	13	6	3
合格者数	3	5	6	2
入学者数	0	1	6	2

14. 大学入学共通テスト利用入学試験（学力重視型後期日程）

①選 抜 方 法：薬学部 理科

②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。

③合格発表日：2021年3月10日（水）

④募集人員等：

区分	薬学部
募集人員	2
出願者数	8
受験者数	8
合格者数	8
入学者数	3

15. 合計

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	150	100	40	40
出願者数	695	1,636	486	199
受験者数	660	1,600	485	197
合格者数	516	252	102	88
入学者数	121	114	48	42

16. 新型コロナウイルス感染症対策に伴う対応

学校推薦型選抜公募制S日程・公募制A日程において、濃厚接触者で陰性と判断された受験生2名、クラスター発生のため別室での受験申し出があった高校からの受験生について別室受験対応を実施した。その他の日程では別室受験は該当者がなかった。受験日の振り替え対応をした受験生は2名であった。

2) 大学院

2021年度学生募集は、Ⅰ期（薬学研究科・看護学研究科・医療科学研究科）、Ⅱ期（薬学研究科・看護学研究科）を実施した。

入学試験Ⅰ期（薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科）

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：2020年9月26日（土）
- ③合格発表日：2020年10月7日（水）
- ④募集人員等：

区分	薬学研究科	看護学研究科	医療科学研究科
募集人員	3	8	8
出願者数	0	3	13
受験者数	0	3	13
合格者数	0	3	9
入学者数	0	3	9

入学試験Ⅱ期（薬学研究科、看護学研究科）

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：2021年1月23日（土）
- ③合格発表日：2021年2月3日（水）
- ④募集人員等：

区分	薬学研究科	看護学研究科
募集人員	若干名	若干名
出願者数	1	3
受験者数	1	3
合格者数	1	3
入学者数	1	3

4. 学生募集（入試関連広報）

2020年度入試広報活動として以下の活動を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の為、例年は来場型のイベントを実施していたが、2020年度は来場型の企画を全て中止し、コロナ禍においても安心して自宅等で本学の情報を得てもらえるようにWeb型の企画を実施した。

1. Webオープンキャンパス限定企画（6月）
2. Webオープンキャンパス限定企画（7月）
3. Webオープンキャンパス限定企画（8月）
4. Webオープンキャンパス復刻企画（9月）
5. Web入試対策講座
6. Webオープンキャンパス限定企画（3月）

以下、各活動につき報告する。

Webオープンキャンパス限定（復刻）企画（6月～9月）

誰でも閲覧が可能な常設のサイトとして、「学長メッセージ」「各学部長メッセージ」「教員によるミニ講義」を配信した。

更に事前に申し込みのあった高校生・受験生に対しては、2020年6月28日、7月18日、8月23日・24日、9月17日～22日の4回にわたって限定企画として、「大学全体がわかるガイダンス」「入試ガイダンス」「学部ごとの動画企画」「入試情報」「課外活動紹介」など70本以上の動画を配信した。

また、Web会議システムを利用して相談会を併せて実施し、入試、奨学金、教育内容等の質問に応じた。

実施日・期間	登録者数
6月28日	258
7月18日	494
8月23日・24日	548
9月17日～22日	285
合 計	1,585

Web入試対策講座

2020年12月13日から2021年1月12日の期間でWebによる入試対策講座を実施した。

本学の一般入試を検討している高校生・受験生が対象で事前に申し込みのあった受験生に対して、本学教員による「入試ガイダンス」、大手予備校講師による「英語」「化学」「生物」「数学」の受験勉強対策として本学の入試傾向、今後の入試対策に関する内容の動画を配信した。328名の登録があった。

新設予定3学部春のWebオープンキャンパス

2021年3月10日に兵庫医科大学との統合予定に向けて、兵庫医科大学新設予定3学部（薬学部、看護学部、リハビリテーション学部）の春のWebオープンキャンパス特設サイトを公開し、新設予定3学部のプロモーション動画を配信した。

2021年3月19日～4月5日の期間で春のWebオープンキャンパスとして、事前に申し込みのあった高校生・受験生に対して、「神戸キャンパス紹介ガイダンス」「新設学部ガイダンス」などの動画を配信し、464名の登録があった。

特記事項

・兵庫医療大学高大連携協定制度について

高等学校と情報交換を密にし、より実質的な高大連携を行うための基盤を構築するため、兵庫医療大学高大連携協定制度に基づき19校と協定を締結している。年2回程度行う高大連携協議会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、今年度は1回のみの開催となった。

2020年12月25日に第4回高大連携協議会を開催し、各協定校と意見交換および高大接続プログラム説明、入試状況説明を行った。

また、高大連携協定の有効期間が2021年3月末日であることから、高大連携協定の継続に関する説明を行い、17の高等学校と継続して高大連携協定を締結した。なお、2022年4月1日に兵庫医科大学と統合予定である為、2022年3月末日までの協定期間とした。

5. 定員数と在籍学生数

学部定員数

学部	学科	修業年限	入学定員	収容定員	学位または称号
薬学部	医療薬学科	6	150	900	学士（薬学）
看護学部	看護学科	4	100	400	学士（看護学）
リハビリテーション学部	理学療法学科	4	40	160	学士（理学療法学）
リハビリテーション学部	作業療法学科	4	40	160	学士（作業療法学）

進級認定数

学部・学科	学年	学生数	進級(卒業)	留年	退学	除籍
薬学部 医療薬学科	1	165	158	1	6	0
	2	173	140	21	12	0
	3	147	136	7	4	0
	4	146	131	10	5	0
	5	128	127	0	1	0
	6	160	(130)	30	0	0
	小計	919	692 (130)	69	28	0
看護学部 看護学科	1	112	111	0	1	0
	2	105	101	4	0	0
	3	97	92	4	1	0
	4	123	(123)	0	0	0
	小計	437	304 (123)	8	2	0
リハビリテーション学部 理学療法学科	1	46	45	0	1	0
	2	46	45	1	0	0
	3	46	46	0	0	0
	4	47	(46)	0	1	0
	小計	185	136 (46)	1	2	0
リハビリテーション学部 作業療法学科	1	45	44	1	0	0
	2	40	40	0	0	0
	3	50	49	1	0	0
	4	42	(42)	0	0	0
	小計	177	133 (42)	2	0	0
計		1,718	1,265 (341)	80	32	0

大学院定員数

研究科	専攻	修業年限	入学定員	収容定員	学位または称号
薬学研究科	医療薬学	4	3	12	博士
看護学研究科	看護学	2	8	16	修士
医療科学研究科	医療科学	2	8	16	修士

大学院生数

薬学研究科	研究指導科目分野	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次
	応用医療薬学	0	1	0	0
	医薬品化学	1	0	1	0
	分子循環器病治療学	0	0	0	2
	臨床薬剤学	0	0	0	1
	創薬化学	0	0	0	1
	神経病態制御学	1	0	0	0
	免疫制御学	1	0	0	0
	合 計	3	1	1	4

看護学研究科	分野	特定分野	第1学年次	第2学年次
	基盤看護学	基礎看護学	0	3
		看護教育学	0	0
		看護開発科学	0	1
	療養支援看護学	急性看護学	1	1
		がん看護学	2	2
		慢性看護学	1	0
	家族支援看護学	小児看護学	0	0
		母性看護学	0	3
		助産学	0	0
	生活支援看護学	老年看護学	0	0
		地域看護学	0	0
		在宅看護学	1	0
	合 計		5	10

医療科学研究科	分野	コース	第1学年次	第2学年次
	病態運動学	運動器障害	0	2
		内部障害	4	3
		神経障害	3	0
	人間活動科学	身体・認知活動	1	1
		精神活動	0	2
	合 計		8	8

科目等履修生数

研究科	専攻	前期人数	後期人数
看護学研究科	看護学	3	4
医療科学研究科	医療科学	0	0

職業実践力育成プログラム（BP）定員数

プログラム・コース	修業年限	入学定員	修了
地域在宅看護実践力育成プログラム	1	20	履修証明
PT・OT臨床カステップアッププログラム	1	10	履修証明
リハビリテーション科学課題研究コース	2	8	履修証明

職業実践力育成プログラム（BP）受講者数

プログラム・コース	人数
地域在宅看護実践力育成プログラム	12
PT・OT臨床カステップアッププログラム	14
合 計	26

第5章 教員・教員組織

1. 学部

専任教員数

学 部	学 科	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
薬学部	医療薬学科	20	7	7	12	1	47
看護学部	看護学科	8	7	9	12	4	40
リハビリテーション学部	理学療法学科	5	2	4	0	0	11
	作業療法学科	4	3	3	1	1	12
共通教育センター		2	3	6	0	0	11
合 計		39	22	29	25	6	121

(2020年5月1日現在)

1) 薬学部

特記事項

2020年度の薬学部の教員組織は、45名の専任教員で構成された。この中には、薬学実務教育を担当する7名の実務家教員と臨床経験が豊富な5名の医師資格を有する教員が含まれている。専任教員の職位ごとの内訳は、教授20名（薬学部全教員の44%）、准教授6名（同14%）、講師7名（同16%）、助教・助手12名（同26%）であり、バランスのとれた教員配置となっている。講師以上の33名の教員は、科目責任者として授業科目および実習科目を担当している。また助教および助手を加えた全教員が、実習科目を担当している。この他に、非常勤講師として学外からも多くの病院薬剤師および薬局薬剤師を招聘し、主に実務事前学習の指導にあたっている。

薬学部では、教員の教育上の指導能力の重要性に鑑み、教員の採用および昇任については募集要項に教育と学生指導に積極的に取り組む熱意と能力が求められることを明示し、関連する規程等に則った選考および審査を実施している。

教員一覧（2021年3月31日時点）

職 位	氏 名	着任日
教 授	西山 信好	2007年4月1日
教 授	青木 俊二	2007年4月1日
教 授	甲谷 繁	2007年4月1日
教 授	田中 明人	2007年4月1日
教 授	田中 稔之	2007年4月1日
教 授	前田 拓也	2007年4月1日
教 授	前田 初男	2007年4月1日
教 授	宮部 豪人	2007年4月1日
教 授	山本 悟史	2007年10月1日
教 授	上田 晴康	2008年4月1日
教 授	大河原 知水	2008年4月1日
教 授	戴 毅	2008年4月1日
教 授	清宮 健一	2008年4月1日
教 授	九川 文彦	2008年4月1日
教 授	齋藤 あつ子	2009年4月1日
教 授	辻野 健	2009年10月1日
教 授	桂木 聡子	2010年4月1日

職 位	氏 名	着任日
教 授	森山 雅弘	2010年10月1日
教 授	天野 学	2013年4月1日
教 授	田端 千春	2019年4月1日
准教授	清水 忠	2008年4月1日
准教授	長野 基子	2008年4月1日
准教授	藤野 秀樹	2008年4月1日
准教授	三浦 大作	2008年4月1日
准教授	南畝 晋平	2009年10月1日
准教授	木下 淳	2020年1月1日
講 師	岩岡 恵実子	2007年4月1日
講 師	塚本 効司	2007年4月1日
講 師	田中 康一	2007年10月1日
講 師	上田 寛樹	2008年4月1日
講 師	大野 喜也	2008年4月1日
講 師	吉岡 英斗	2008年4月1日
講 師	小渕 修平	2009年4月1日
講 師	村上 雅裕	2014年7月1日
助 教	是金 敦子	2007年4月1日
助 教	大森 志保	2009年4月1日
助 教	小暮 洋子	2009年4月1日
助 教	橋本 佳奈	2015年6月1日
助 教	伊藤 都裕	2015年7月1日
助 教	安田 恵	2015年9月1日
助 教	川島 祥	2016年1月1日
助 教	杉野 佑太	2016年4月1日
助 教	萩原 加奈子	2018年4月1日
助 教	神田 浩里	2019年1月1日
助 教	中尾 周平	2020年4月1日
助 手	芝田 宏美	2008年4月1日

臨床実習教授等の委嘱

称 号	役 職	氏 名	所 属
臨床実習教授	なし	門林 宗男	なし
臨床実習教授	薬剤部長	木村 健	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	薬剤部長	田中 一穂	製鉄記念広畑病院
臨床実習教授	薬剤部長代行	室井 延之	神戸市立医療センター中央市民病院
臨床実習教授	代表取締役、(副会長)	三宅 圭一	(有)ハートフルケア、(兵庫県薬剤師会)

FD

開催日	内 容	担当者	参加者数 (人)
3月18日(木)	学生とともに作ってきたオンライン授業の実践報告	講師：兵庫医療大学薬学部 木下淳准教授	薬学部教員：41
3月18日(木)	本学の環境において無料で入手可能なソフトで作ったオンデマンド授業	講師：兵庫医療大学薬学部 清水忠准教授	薬学部教員：41

2) 看護学部

看護学部として求める教員像および教員組織の編成方針は以下のとおりである。

- ①大学・学部として求める教員像は、兵庫医療大学ならびに看護学部の教育理念と教育目標を理解し、本学教員に相応しい人格と見識を有する者で、教育・研究に熱意があり臨地実習指導能力に優れている者である。
- ②看護学における理論的知と臨床の和が融合した教育を目指し、実務経験を豊富に有し、これをベースとした実践力を養うための教育を行いうる看護専門職者を配置する。
- ③看護学部教員の定員を確保する。
- ④グローバルな視野を持ち、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指し、教育研究業績の豊富な教員と研究における将来性および教育への情熱を持つ若手教員をバランスよく配置する。
- ⑤各看護専門分野に、それぞれの職位の教員をバランスよく配置する。

上記編成方針と「兵庫医療大学教員人事に関する規程」、兵庫医療大学教員定数・教員構成・配置員数をもとに教員人事計画を検討した。看護学部の将来構想に鑑みた教員配置を検討する、本学の専任教員として実績のある者について積極的に昇格人事を計画する等を看護学部として決定した。また、2016年度の教授会において、教員候補者選考審査要件および教員候補者選考審査手続きについて確認・共有、任期制教員の再任について「兵庫医療大学における任期制教員の再任に関する申し合せ」に則り、業績審査委員会の設置・看護学部再任基準および手続を確認・共有していることから、それらに従って、2019年度の人事についても進めた。

また、学生の臨地における教育の充実を図ることを目的とし、学生実習の教育指導等に関与する兵庫医科大学病院の指導的な医療専門職者8名に兵庫医療大学臨床実習教授・准教授の称号を付与した。この申請および付与手続きは、学部長が学部教授会の議を経て、候補者を学長に付議し、大学協議会の議を経て臨床実習教授等を決定し、協力機関の長の承認を得たうえで称号を付与している。

新型コロナウイルス感染症感染拡大における県庁と保健所の業務ひっ迫ならびにワクチン接種における看護師不足に対し、兵庫県庁内電話相談センター出務と、芦屋・加古川・伊丹・宝塚の各保健所への応援要請と、兵庫医科大学病院職員対象ワクチン接種への応援要請に対し教員の派遣を実施した。

教員一覧（2021年3月31日時点）

職 位	氏 名	着任日
教 授	土田 敏恵	2007年4月1日
教 授	西村 明子	2007年4月1日
教 授	網島 ひづる	2008年4月1日
教 授	細見 明代	2011年4月1日
教 授	堀口 和子	2011年4月1日
教 授	神崎 初美	2014年4月1日
教 授	今野 理恵	2018年4月1日
客員教授	鈴木 志津枝	2019年12月1日
准教授	鈴木 みゆき	2008年1月1日
准教授	山田 千春	2008年4月1日
准教授	石原 あや	2008年4月1日
准教授	岡田 公江	2013年4月1日

職 位	氏 名	着任日
准教授	笹川 寿美	2014年 4 月 1 日
准教授	藤本 浩一	2019年 8 月 1 日
准教授	有馬 志津子	2020年 4 月 1 日
講 師	萩野 待子	2008年 4 月 1 日
講 師	片田 千尋	2013年 4 月 1 日
講 師	貞永 千佳生	2014年 4 月 1 日
講 師	鈴木 千枝	2014年10月 1 日
講 師	藤井 加那子	2015年 4 月 1 日
講 師	井上 満代	2017年 4 月 1 日
講 師	川内 恵美子	2017年 4 月 1 日
講 師	三谷 理恵	2019年 4 月 1 日
講 師	石田 絵美子	2020年 4 月 1 日
講 師	波田 弥生	2020年 9 月 1 日
助 教	山名 華代	2016年 4 月 1 日
助 教	山田 絵里	2017年 4 月 1 日
助 教	山内 洋子	2017年 4 月 1 日
助 教	末安 明美	2017年 4 月 1 日
助 教	宮前 奈央	2017年 7 月 1 日
助 教	阿川 勇太	2019年 4 月 1 日
助 教	橋本 こころ	2019年 4 月 1 日
助 教	向畑 毅	2019年 4 月 1 日
助 教	田中 岳美	2019年 4 月 1 日
助 教	藤原 正和	2019年 4 月 1 日
助 教	白石 夕起子	2019年 4 月 1 日
助 教	畑 真紀子	2019年 5 月 1 日
助 教	新名 美佳	2020年 7 月 1 日
助 教	衣斐 響子	2020年 9 月 1 日
助 手	松久 智美	2015年 1 月 1 日
助 手	千葉 香苗	2016年 4 月 1 日
助 手	出崎 由加子	2020年 4 月 1 日

臨床実習教授等の委嘱

称 号	役 職	氏 名	所 属
臨床実習教授	看護部長（副院長）	丸山 美津子	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部次長	加地 靖子	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部次長	岡崎 美智子	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部次長	高比良 法子	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部次長	西田 淳子	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部次長	高橋 仁美	兵庫医科大学病院
臨床実習教授	看護部看護師長	藤井 利江	兵庫医科大学病院
臨床実習准教授	看護部看護師長	中村 滋子	兵庫医科大学病院
臨床実習准教授	看護部副看護師長	比留間 ゆき乃	兵庫医科大学病院

FD

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
4月1日(水) 7月1日(水) 9月1日(火)	新任教員へのオリエンテーション	学部長 看護学部FD委員	新任教員 4 名
9月18日(金)	テーマ：オンラインツールを活用した国家試験対策 内 容：国家試験対策として用いているMedlinkの、活用方法の実際について講師による解説を行い、効果的な学生への指導方法について理解を深めた。	株式会社メディックメディア 財部剛氏	看護学部36名
3月11日(木)	テーマ：シミュレーション教育の基礎知識 内 容：シミュレーション教育の一連の流れと構造、関連した学習理論、シミュレーション教育の種類・教育技法の講義を受け、シミュレーション教育を実施するための理解を深めた。	Laerdal Medical Japan 教育ソリューションスペシャリスト 亀岡正二氏	看護学部40名

3) リハビリテーション学部

特記事項

- ・教員組織の編成方針は以下のとおりである。
- ✓ 理学療法学科、作業療法学科の2学科で構成されているリハビリテーション学部は、教員組織を理学療法学科教員と作業療法学科教員の2組織とし、学部長に加えて理学療法学科長・作業療法学科長を置く。
- ✓ 質の高い生活の推進、健康増進から障がいの予防と治療、高齢化に伴う地域密着型介入等多様な役割に対応できる理学療法士・作業療法士を育成するため、幅広い専門分野から高度な知識と技術をもつ理学療法士・作業療法士を配置するとともに、より高い専門性をもって学際的に教育・研究を発展させるために、整形外科医、精神科医等関連領域の専門職も配置する（教員一覧参照）。
- ✓ 教育・研究の多様なニーズに対応するため、臨床経験が豊富な教員と教育・研究経験に富む教員のバランスをとるとともに、可能な限り、年齢および職位のバランスを考慮する。
- ・教員の募集・採用・昇任に関しては、2007年の開学以来、文部科学省への設置申請に準じて教員が採用された。以後、「兵庫医療大学教員人事に関する規程」に沿って適切に実施している。
- ・教員による教育の質の向上を図るため、以下のことを実施している。
- ✓ 教育の質保証を確実にすることを目的として、2021年度シラバス作成時に「2021年度学部授業シラバスの確認事項―当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に―」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会にて審議した。
- ✓ 授業の質の担保、教授法の改善を目的に、2019年度より教員による授業のピア評価を行った。評価者からのコメントを基に、次年度授業の改善に取り組むこととした。
- ✓ 広い視野をもって教員の質向上を図るため、全学FDに加えて、外部講師を迎えての学部内FDを年1回、また、これまでは学部教員による学部内FDを2か月に1回程度実施してきた。しかし2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響のため教員が一堂に集まる回数を極力減らしたため、外部講師によるFDしか実施していない。2020年度の外部講師による学部FDは、新型コロナウイルス感染症感染拡大下における現場の状況と臨床実習のあり方などについて情報共有するため、「コロナ禍における臨床現場の取り組みと臨床実習の在り方」というテーマとした。

教員一覧 (2021年3月31日時点)

職 位	氏 名	着任日
教 授	川口 浩太郎	2007年4月1日
教 授	坂口 顕	2007年4月1日
教 授	日高 正巳	2007年4月1日
教 授	山田 大豪	2007年4月1日
教 授	山崎 セツ子	2008年4月1日
教 授	藤岡 宏幸	2011年1月1日
教 授	玉木 彰	2011年4月1日
教 授	松井 徳造	2011年10月1日
教 授	勝野 朋幸	2017年4月1日
准教授	有吉 正則	2007年4月1日
准教授	伊藤 斉子	2007年4月1日
准教授	佐野 恭子	2008年4月1日
准教授	森 明子	2009年4月1日
准教授	宮本 俊朗	2013年4月1日
講 師	坂本 浩	2009年4月1日
講 師	塚越 累	2013年10月1日
講 師	平上 尚吾	2013年10月1日
講 師	永井 宏達	2014年4月1日
講 師	清水 大輔	2017年4月1日
講 師	佐久間 香	2019年4月1日
講 師	松沢 良太	2019年4月1日
助 教	奥谷 研	2009年4月1日
助 手	坂口 雄哉	2017年4月1日

FD

開催日	内 容	担当者	参加者数 (人)
2月25日	コロナ禍における臨床現場の取り組みと臨床実習の在り方	本田明弘氏(神戸市立医療センター中央市民病院リハビリテーション技術部技師長)	21

4) 共通教育センター

特記事項

2020年度は前年度末に退職した3名の教員に変わって新たに2名の教員が着任し、11名の専任教員、多数の非常勤講師および兼任教員が全学部の基礎教育科目とチーム医療教育科目および一部の専門基礎教育科目を担当した。また他学の動向を知るために教員をFD関連のセミナー等に派遣し、共通教育センターのFDとして参加報告会を行った。

教員一覧 (2021年3月31日時点)

職 位	氏 名	着任日
教 授	伊東 久男	2007年4月1日
教 授	加藤 精一	2007年4月1日
准教授	賀屋 光晴	2007年4月1日
准教授	芝崎 誠司	2007年4月1日
准教授	常見 幸	2012年7月1日
講 師	福田 範子	2007年4月1日
講 師	西田 喜平次	2013年4月1日
講 師	土江 伸誉	2014年4月1日
講 師	山本 英幸	2016年4月1日
講 師	大谷 佐知	2020年4月1日
講 師	中野 三紀	2020年4月1日

FD

開催日	内 容	担当者	参加者数 (人)
7月9日	本学学生の言語学習観に関する一考察	中野講師 (センター教員)	11
9月17日	『オンライン授業に関するFD』 アンケート結果に基づく討論会	司会:土江講師	11
10月29日	共通教育センター授業改善のための学生参加型FD	司会:土江講師	学生代表8 教 員 7
12月10日	兵庫医科大学での教育と研究について	大谷講師 (センター教員)	11
2021年 2月25日	Students on nowadays ～今どきの高校生～ Generation Z (デジタルネイティブ/ソーシャルネイティブ世代) を理解する	石川秀之先生 (阪神シニア カレッジ)	11

2. 大学院

専任教員数

学 部	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
薬学研究科	20	7	8	3	0	38
看護学研究科	8	7	5	3	0	23
医療科学研究科	8	5	6	0	0	19
合 計	36	19	19	6	0	80

(2021年3月31日現在)

1) 薬学研究科

特記事項

薬学研究科の教員組織は、豊富な教育・研究業績を有し、博士の学位取得者もしくはそれと同等の業績を有する教員で構成される。大学院博士課程の中核となる研究指導科目は、教授・准教授・講師が研究指導教員・研究指導補助教員として担当し、研究遂行能力を高める演習科目や講義科目にはそれ以外の講師・助教が加わり手厚い教育・指導を行った。

教員一覧 (2021年3月31日時点)

専門分野	職 位	氏 名
臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学	教 授	九川 文彦
	准教授	南畝 晋平
分子病態解析学	准教授	芝崎 誠司
分子毒性学	教 授	清宮 健一
中枢神経薬理学	教 授	西山 信好
天然薬物学	教 授	青木 俊二
	講 師	岩岡 恵実子
臨床薬剤学	教 授	森山 雅弘
応用医療薬学	教 授	天野 学
	准教授	木下 淳
	准教授	藤野 秀樹
	講 師	上田 寛樹
	講 師	村上 雅裕
免疫制御学	教 授	田中 稔之
	教 授	上田 晴康
	講 師	大野 喜也
レドックス生物学	教 授	大河原 知水
	准教授	三浦 大作
	講 師	小渕 修平
神経病態制御学	教 授	山本 悟史
	教 授	戴 毅
	講 師	田中 康一
医薬品化学	教 授	宮部 豪人
	教 授	甲谷 繁
	講 師	塚本 効司
	講 師	吉岡 英斗
分子イメージング科学(可視化計測学) 医療ユニバーサルデザイン学	教 授	前田 初男
分子循環器病治療学	教 授	辻野 健
創薬化学	教 授	田中 明人
	准教授	清水 忠
微生物・寄生体学	教 授	齋藤 あつ子
	准教授	長野 基子
微生物制御学	教 授	前田 拓也
呼吸器疾患病態治療学	教 授	田端 千春
大学院講義担当	教 授	桂木 聡子
	助 教	川島 祥
	助 教	神田 浩里
	助 教	小暮 洋子

2) 看護学研究科

特記事項

2011年開設の看護学研究科の求める教員像は、設置基準に沿った看護学部における教育研究の蓄積と発展を基盤とし、研究科の理念・目標の達成に向けて看護学の専門性に応じた大学院教育研究活動を推進できる人材である。組織は看護学の専門性と看護学部との継続性を維持した基盤看護学・療養支援看護学・家族支援看護学・生活支援看護学の4分野（13特定分野を含む）で構成し、併せて看護学基礎研究領域と看護学課題研究・高度実践の2領域を担う編成とし、それぞれの専門分野に教育・研究を推進する教員を配している。

2020年10月に看護学研究科の教員組織の強化を図るために研究指導教員等資格審査基準を見直し、一部改正した。その基準に則って11月に研究科委員会において、対象教員の研究業績および教育・研究指導実績による研究指導教員等資格審査を実施した。その結果、2021年4月からの新構成員を決定した。また、今後は毎年11月に研究指導教員等資格審査を実施することも併せて決定した。

教員一覧（2021年3月31日時点）

分 野	専門分野	職 位	氏 名
基盤看護学	看護教育学		（開講せず）
	基礎看護学	教 授	土田 敏恵
		准教授	鈴木 みゆき
	看護開発科学	教 授	今野 理恵
療養支援看護学	急性看護学（基礎・CNS）	教 授	網島 ひづる
		准教授	笹川 寿美
	がん看護学（基礎・CNS）	客員教授	鈴木 志津枝
	慢性看護学	教 授	神崎 初美
	精神看護学	准教授	藤本 浩一
家族支援看護学	小児看護学	准教授	石原 あや
	母性看護学	教 授	西村 明子
	助産学	准教授	岡田 公江
生活支援看護学	老年看護学	教 授	細見 明代
		准教授	山田 千春
	地域看護学	准教授	有馬 志津子
	在宅看護学	教 授	堀口 和子
大学院・BP講義担当		講 師	井上 満代
		講 師	荻野 待子
		講 師	川内 恵美子
		講 師	鈴木 千枝
		講 師	三谷 理恵
		助 教	宮前 奈央
		助 教	山内 洋子
		助 教	山田 絵里

3) 医療科学研究科

特記事項

2011年開設の本研究科は、豊富な臨床経験と研究業績を有し、博士の学位を有する教員で構成されている。そして専門分野として病態運動学および人間活動科学の2つに、さらに運動器障害、内部障害、神経障害、身体・認知活動、精神活動の5つの専門領域に分かれて、それぞれ専門的な教育と研究指導を行っている。また大学院を担当する教員は、専門科目ならびに専門基礎科目についても、学部専任教員を兼ねており、それぞれ臨床経験を有し、臨床現場での技術指導を継続的に実施している教員をもって充当することとしている。

教員一覧（2021年3月31日時点）

分 野	専門分野	職 位	氏 名
病態運動学	運動器障害	教 授	川口 浩太郎
		教 授	坂口 顕
		講 師	塚越 累
	内部障害	教 授	玉木 彰
		教 授	勝野 朋幸
		准教授	宮本 俊朗
		講 師	松沢 良太
	神経障害	教 授	日高 正巳
		准教授	森 明子
		講 師	永井 宏達
		講 師	佐久間 香
人間活動科学	身体・認知活動	教 授	山崎 セつ子
		准教授	佐野 恭子
		講 師	平上 尚吾
	精神活動	教 授	山田 大豪
		教 授	松井 徳造
		准教授	有吉 正則
大学院・BP講義担当	准教授	伊藤 斉子	
	講 師	清水 大輔	

第6章 学生支援

1. 修学支援

1) 教育支援室

概要

各学部および共通教育センターにおける教育体制の支援を目的として設置された教育支援室は、2019年度から、教育支援室の機能強化のため、「学習支援部門」に高大接続教育に関する業務を含めることとし、「高大接続教育・学習支援部門」に名称変更するとともに、「チーム医療教育支援部門」を、「多職種連携教育推進部門」に名称変更した。

「IR部門」、「高大接続教育・学習支援部門」、「多職種連携教育推進部門」、「FD・SD部門」の4部門に改組して、以下の業務を中心に行い、大学における教育を支援している。

- ・学部等における教育の質の向上に関すること
- ・教学改善に係るIR（Institutional Research）活動に関すること
- ・履修支援対象者対策および成績優秀者へのアドバンスト教育に関すること
- ・兵庫医科大学との連携を中心とした多職種連携教育に関すること
- ・教職員のFD・SDに関すること
- ・高大接続教育に関すること
- ・教育に関する情報ツールの開発・利用促進に関すること
- ・教育評価（教員評価を含む。）に関すること

また、本年度の教育支援室の各部門の活動は以下の通りである。

IR部門

今年度より、部門長に加え、各学部・センターから1名ずつの部門員で構成することとなった。さらに解析ソフトTableau desktopを導入し、データ解析に役立てる環境を整えた。全学部全学年に対する修学実態調査、学生の学修状況や生活状況等のデータ収集、解析、評価等を行った。修学実態調査では、前年度の調査結果との比較を行い、調査内容の中で改善されている点や今後改善を必要とする点について解析結果の報告を行った。今年度より、修学実態調査はMoodleを用いた記名式で実施し、調査結果と学生のGPAを関連させて分析した。それにより、成績上位の学生の傾向、成績下位の学生の動向を的確に捉えることができたため、各学部に詳細な分析を伝えて提言を行った。

高大接続教育・学習支援部門

薬学部では、第1学年次後期にアドバイザー教員による生活指導や学習アドバイス等の面談をオンラインで実施したものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、対面での授業が大幅に減少したことに伴い、対面による学習支援を実施できなかった。また高大連携協定校との高大連携イベントも同様の理由で開催できなかった。一方、入学予定者に対する入学前教育は、オンラインを含めて以下のように実施した。

<全学入学予定者対象>

本学への入学予定者（全員）に対して、入学後、円滑に大学の学習に移行できる手助けとなるよ

うな教材を使用し、課題の評価とフィードバックを含めた全学部共通の入学前教育を実施した。

課題 1 “学習設計マニュアル”の第1部（1～5章）を読んで、指定課題のレポート提出

課題 2 数学Ⅰの演習課題の提出

＜薬学部総合型選抜・指定校推薦・専願推薦合格者対象＞

年内に薬学部への入学が確定している総合型選抜・指定校推薦・専願推薦合格者に対する入学前教育は、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため対面による従来のワークショップ形式の開催は断念し、ビデオ会議ツールZoomを用いてオンラインにて実施した。

○2020年12月19日（土）入学前教育説明会（入学前教育の意義説明・課題の提示・在学生とのオンラインによる対話）

課題1：化学計算と有機化学の演習テキスト（2冊）

課題2：大学共通基盤教育システム（E-ラーニング）による数学・生物・短文読解演習

○2021年2月6日（土）第1回入学前教育ワークショップ開催（オンライン）

参加者：入学予定者（46名中42名参加）、本学学生チューター（第4学年次：6名、第5学年次：5名）、部門員教員（2名：清水准教授、甲谷教授）、薬学部教員（2名：木下准教授、中尾助教）

内容：1）数学課題の解説

2）数学応用課題「新型コロナウイルスワクチンの有効性（効果）」（チューター解説）

3）化学計算課題の解説

4）化学計算応用課題「濃度計算、pH計算など」（チューター解説）

○2021年3月17日（水）第2回入学前教育ワークショップ開催（オンライン）

参加者：入学予定者（46名中45名参加）、本学学生チューター（第4学年次：6名、第5学年次：5名、第6学年次：1名）、部門員教員（2名：清水准教授、甲谷教授）、薬学部教員（2名：木下准教授、中尾助教）

内容：1）数学・化学計算の課題「緩衝液のpHの計算」（チューター解説）

2）有機化学課題の解説

3）今年度卒業生からのメッセージ（第6学年次生：藤原正規）

4）入学に向けての案内

オンラインでは、入学予定者同士や学生チューターとの間でコミュニケーションを取ることにかなり難しさを感じたが、入学予定者に対して入学後の大学生活や学習のイメージを付けさせることができたのではないかとと思われる。次年度は状況が許す限り対面で入学前教育を実施し、入学予定者同士の横の繋がりと先輩・教員との縦の繋がりを密接に形成できるような入学前教育を実施していきたいと考えている。

多職種連携教育推進部門

各職種の立場からの助言や指導が行えるよう、各学部学科の専門資格を持つ教員を兼務教員として配置して活動を行った。

共通教育センターが提供するチーム医療教育科目である「アカデミックリテラシー（第1学年次）」、「早期臨床体験実習（第1学年次）」、「チーム医療概論（第2学年次）」、「チーム医療論演習（第4学年次）」において、各学部教員と共通教育センター教員の協働を支援した。これらの科目では、「医療保健福祉分野の多職種連携コンピテンシー（多職種連携コンピテンシー開発チーム、2016）」等を参考に2018年度に作成した、各科目においてどのような多職種連携コンピテンシー修得を目標と

するのかを示す「多職種連携コンピテンシーの修得目標」に基づいて、初年次から卒業年次まで体系的なチーム医療教育を行っている。なお、これらの科目のうち、「早期臨床体験実習」と「チーム医療論演習」は兵庫医科大学医学部との連携科目である。

また、図書館と協議の上で図書館内に多職種連携コーナーを設置し、多職種連携に関連する書籍・視聴覚教材を購入して配架をおこなった。

IPWコンピテンシーの修得目標

薬学	看護 リハ	コンピテンシー				
		コミュニケーション	チームワーク	自職種の役割・責任	他職種の理解	価値観/倫理
4,5,6年	4年	メンバー間の意見を調整することができる	チームで目標を共有し、問題解決を図ることができる	自職種の視点で問題解決の方法を提案できる	他職種の視点による問題解決の方法を理解できる	多様な価値観をふまえた全人的な医療の計画を立案できる
		理論・実践を統合し、各自が高い専門性や倫理観をもって他職種と協働し、チームで患者中心の計画を立てて問題解決をはかることができる。 学部連携プログラム:「チーム医療論演習」				
3年	(高次の行動)	他者を尊重したコミュニケーションをとることができる	チームの一員として責任あるふるまいをすることができる	自職種の役割を他職種に対して説明できる	他職種の役割を尊重することができる	多様な価値観・倫理観を調和させることができる
		他職種や多様な価値観への理解を深めると同時に、チーム内で高い責任感をもって行動することができる。 ＜各学部による相互理解プログラムを展開＞				
2年	(認識・行動)	自分から他者とコミュニケーションをとることができる	チームの一員としての責任を自覚することができる	自職種の役割を理解することができる	他職種の役割を理解することができる	自分/自職種と他者/他職種の価値観・倫理観の違いを理解できる
		自職種・他職種の役割や価値観の違いを理解し、チーム内で良好なコミュニケーション・チームワークをはかることができる。 学部連携プログラム:「チーム医療概論」				
1年	(気づき)	コミュニケーションの大切さがわかる	チームワークの意味を理解することができる	自分の役割を意識することができる	他者の視点や意見を受けとめることができる	専門職の価値観・倫理観を知っている
		医療人としての自覚や基礎的な知識を持ち、多職種連携についての概要を理解することができる。 学部連携プログラム:「医療概論」「アカデミックリテラシー」「早期臨床体験実習」				

↑
専門的能力(知識・スキル)

FD・SD部門

大学設置基準改正による教職員へのSDの義務化を踏まえ、従来取り組んできたFDおよびSD活動を統括して教職員の資質向上を図っている。FD・SD部門が主催もしくは共催したFD・SD企画は以下の通りである。

	イベント名	開催日	参加者数
1	新任教員向けFD	2020年4月21日	7名
2	学生参加型FD	2020年9月から10月	各学部学生とFD・SD部員
3	オンライン授業に関する教員FD	2020年8月から10月	72名
4	全学FD・SDワークショップ テーマ: コロナ禍を契機とした本学の新しい教育の展開	2021年3月8日	147名

また、各部門による学部等の教育体制への支援に加え、教育委員会と連携し、授業改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」を実施した。その年間の授業評価アンケートの集計結果を基に、教育委員会との合同ワーキンググループにおいて、各学部開講科目の中から、それぞれ1授業科目を「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2020」として選出した。

科目名（開講年次／開講期／選必修区分）	科目責任者	平均値※	回答者数／ 履修者数
新・生理化学Ⅴ（内分泌・泌尿・生殖）（薬学部2年/後期/必修）	山本悟史教授	4.52	85/146
助産診断技術Ⅰ（周産期・新生児の健康診査）（看護学部4年/前期/選択）	岡田公江准教授	4.76	7 / 7
助産診断技術Ⅱ（助産診断実践過程）（看護学部4年/前期/選択）		4.76	7 / 7
一般臨床医学（リハビリテーション学部3年／前期／必修）	勝野朋幸教授	4.29	56/94

※平均値：授業評価アンケートのマーク回答部分（5段階評価）全17問の平均値

特記事項

・授業評価アンケートの変更

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、多数の科目でオンライン授業を導入したことに伴い、対面授業でもオンライン授業でも共通して回答可能となるよう設問項目を変更して実施した。

当初より、2020年度以降はマークシート回答用紙を用いず、受講した学生にはオンラインで回答してもらう計画だったが、対象授業科目ごとにURLを設定したgoogle formを作成し、科目責任者が学生に授業科目のmoodleを通じてアンケートを実施した。

従来の授業評価アンケート質問項目は講義科目のみを想定していたが、2021年度以降は実験・実習科目でも使用できるよう、現行の授業評価アンケートの設問19問に、実験・実習用の設問6問を追加し、講義科目は設問19問、実習科目は25問（19問＋6問）で同一のアンケートを使用することとした。

・IR部門

2019年度後期分、2020年度前期分の修学実態調査をオンラインで実施した。

データ分析ソフトTableauを購入し結果解析の精度を高め、効率化を進めた。

学籍番号との紐づけを実施し、GPAとの相関関係分析ができるようになった。

・高大接続教育・学習支援部門

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、対面での授業が大幅に減少したことに伴い薬学部第1学年次学習支援を実施できなかった。

また高大連携協定校との高大連携イベントも同様の理由で開催できなかった。」

2) 奨学金

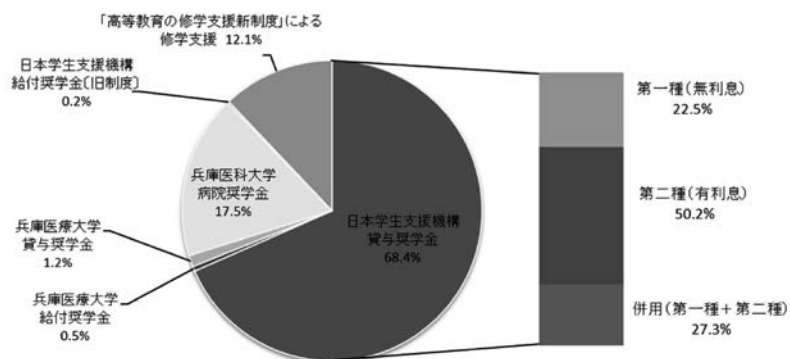
概要

本学では、学生全体の学習意欲を高め、優秀な学生を輩出し、次代の医療をリードする人材の育成を目指すことを目的とし、入学試験において優秀な成績を修めた入学生に対し、また、入学後に優秀な成績を修め、他の規範となる資質を有すると認められた在學生に対し、兵庫医療大学入学生・在學生特別奨学金制度を設置している。また、「高等教育の修学支援新制度」による修学支援が2020年度より実施された。本制度は、真に支援が必要な低所得者世帯の者に対し、社会で自立し、および活躍することができる豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成するために必要な質の高い教育を実施する大学等における修学の支援を行うことを目的とし、文部科学省および日本学生支援機構が実施しており、本学は本制度の対象機関（確認大学等）として認定された。

その他、学生が大学生活を送るにあたり、意欲的に学業に専念できるよう、経済的なサポートを行うため、次の奨学金を取り扱っている。

- ・兵庫医療大学貸与奨学金
- ・兵庫医療大学給付奨学金
- ・兵庫医科大学病院奨学金
- ・兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金
- ・日本学生支援機構貸与奨学金
- ・日本学生支援機構給付奨学金〔旧制度〕
- ・「高等教育の修学支援新制度」による修学支援(日本学生支援機構給付奨学金〔新制度〕・授業料等減免)

2020年度 奨学金種類別割合



特記事項

2020年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大下において、アルバイト収入等の収入が減じた学生に対し、文部科学省が実施した「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」の募集を行なった(実績190名)。

また、大学独自のものとして、神戸市ふるさと納税制度を財源とした「オンライン授業の継続によるプリンター購入・整備のための支援」を実施した(実績295名)。

2. 実習支援

1) 臨床薬学研修センター

概要

臨床薬学研修センターは、M棟の1階(M-105)と2階と2階(M-205)に位置しており、保険薬局や病院薬局における薬剤師業務を模擬的に演習・実習できるように設置された施設である。施設の構成は、学生が臨場感をもって臨床現場での薬剤師業務の実習ができるように、室内デザイン、設置機器およびシステム等に工夫が施されており、調剤はもちろんのこと服薬指導やバイタルチェック等の実習も可能になっている。

本センターは、実務実習事前学習の実習室として中心的な役割を果たしているほか、第4学年次に受験する全国統一薬学共用試験(OSCE)の試験会場の一部に充てている。さらに、学内のゼミナールの場としても活用している。

病院・薬局実務実習

薬学部の6年制教育において臨床に係る実践的能力を培うためには、実務実習の効果的な実行が不可欠であり、薬局および病院においてそれぞれ11週間の実務実習が義務づけられている。本学では、2020年2月25日から2021年3月21日の間に、第5学年次生127名が4期に分かれ、実習施設(薬局:104、病院:59)においてそれぞれ11週にわたる実務実習を終了した。

区 分	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
薬局(1～3期)	2/25～6/25：40名	7/1～9/15：50名	9/30～12/15：37名	—
病院(2～4期)	—	7/1～9/15：37名	9/30～12/15：52名	1/5～3/21：38名

2) 医療人育成研修センター

概要

2017年度から、従来の医療人育成センターが医療人育成研修センターとして改組されて活動を開始した。医療人育成研修センターは、学校法人兵庫医科大学のチーム医療の基本理念を踏まえて次のような活動を行う。

- ・兵庫医科大学・兵庫医療大学の連携教育・研修を強化充実させる。
- ・医療従事者等を対象に実施している本法人のチーム医療理念に沿ったチーム医療教育および個々のスキルアップに繋がる研修を継続して行う。
- ・兵庫医科大学病院における卒後臨床研修の充実を図る。

3. 生活支援

保健管理センター

概要

保健管理センターは、保健室（医師1名、保健師3名）と学生相談室（医師1名、臨床心理士2名）の2部門より構成され、学生を対象として体調の変化や心の悩みの相談に応じている。定期健康診断および予防接種の実施、感染症の集団発生や事故の予防等、学生の健康管理やメンタルヘルスケアの積極的支援を心がけている。また、病気や事故が発生しないよう、何らかの徴候を自覚した時点で気楽に相談してもらえるように努めている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行への対応のため、健康診断や予防接種実施の時期が大幅にずれ込み、対面での学生相談に制限がかかるなど、例年とは異なる対応が必要となった。また、新型コロナウイルス感染症対策としての施設の整備や学内の消毒、および保健指導でも総務課と保健管理センターが主導的な役割を担った。

1) 保健室

①健康診断の実施

健康診断実施時に学生から提出のあった「健康調査票」に基づき、相談希望または医師が必要と判断した学生に対して、医師・保健師による面談を行い、学生生活での健康管理に役立つよう指導・助言を行った。

健康診断の結果、「要治療」、「要精密検査」となった学生には、医療機関での受診および精密検査を勧め、当該結果について確認を行うとともに、生活習慣を改善する必要がある学生には、保健指導を行った。

定期健康診断実施状況

実施日	対象学生	
9月12日(土)	薬学部	第4、5学年次①
	看護学部	第2学年次
9月14日(月)	薬学部	第1～3学年次 第4、5学年次② 第6学年次①
9月15日(火)	薬学部	第4学年次③ 第6学年次②
	看護学部	第3～4学年次
	理学療法学科	第1～2、4学年次 第3学年次①
	作業療法学科	第2、4学年次
9月16日(水)	全学部	新入生
11月7日(土)	理学療法学科	第3学年次②
	作業療法学科	第3学年次

定期健康診断検査項目

学年	第1学年次	第2～6学年次
身体計測(身長・体重・BMI)	○	○
腹囲測定	○	×
血圧測定	○	○
視力検査	○	○
聴力検査(オーディオメーター)	○	×
内科診察	○	○
胸部X線デジタル撮影	○	○
尿検査(潜血・蛋白・糖)	○	×
心電図検査	○	×
血液検査	○	×

※血液検査項目：RBC・Hb・Ht・WBC、AST・ALT・ γ -GTP、TG・HDL-CHO・LDL-CHO、GLU

定期健康診断実施者数

学 部	在学生数	健康診断	
		実施者数	受診率
薬学部	915	886	96.8%
看護学部	437	435	99.5%
リハビリテーション学部	361	359	99.4%

②抗体検査およびワクチン接種の実施

学外臨床実習等における感染予防対策として、2016年度から日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版」に沿って実施し、接種回数も原則2回とした。

第1学年次に対して、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ウイルスのEIA法によるIgG抗体検査を実施し、抗体価が基準を満たさない学生にはワクチンを接種した。

また、第1学年次のワクチン接種後の抗体検査で基準を満たさない学生には、第2学年次に2回目のワクチン接種を行った。

抗体検査およびワクチン接種実施状況

実施日	抗体検査、ワクチン接種	対象学生
9月16日(水)	抗体検査(健康診断時の採血)	全学部第1学年次
7月16日(木)	ワクチン接種	全学部第2学年次接種対象者
10月22日(木)	ワクチン接種	全学部第1、2学年次接種対象者
10月29日(木)	ワクチン接種	薬学部・看護学部第2学年次、全学部第1学年次接種対象者
11月19日(木)	ワクチン接種	全学部第1、2学年次接種対象者
12月17日(木)	ワクチン接種	全学部第1学年次接種対象者
2021年1月14日(木)	ワクチン接種	全学部第1学年次接種対象者

ワクチン接種後の抗体獲得率

(2021年4月末現在)

	麻 疹	風 疹	流行性耳下腺炎	水 痘
第1学年次(2020年度入学)	39.2 (25.7)	78.4 (56.7)	82.7 (54.7)	99.4 (88.3)

※基準は、EIA法(IgG)麻疹16.0、風疹8.0、流行性耳下腺炎4.0、水痘4.0

※()内は入学時の抗体検査において基準を満たす率

③利用状況

症状別保健室利用者数

月別	内科	外科	他科	再掲(内科・外科・他科のいずれか)			医師相談 保健師相談	測定	合計
				ベッド休養	医療機関 タクシー搬送	救急車搬送			
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	0	0	0	0	0	0	0	1
6月	1	0	0	0	0	0	1	0	2
7月	0	0	0	0	0	0	2	0	2
8月	4	1	0	2	0	0	0	0	5
9月	3	3	0	2	0	0	1	0	7
10月	4	2	2	2	0	0	48	0	56
11月	14	7	1	6	1	0	39	0	61
12月	7	3	3	4	0	0	33	0	46
1月	3	0	0	1	0	1	19	1	22
2月	3	0	0	1	0	0	2	0	5
3月	1	1	0	0	0	0	3	0	5
合計	41	17	6	18	1	1	148	1	213

2) 学生相談室

①利用状況

学生相談室は、医師1名・公認心理師と臨床心理士の資格を持つ相談員2名の体制であり、開室日は月・火・木・金の週4日である。相談室では、新入生オリエンテーションにおいて、施設案内や相談員の紹介および学生相談室の利用方法等広報活動を行っている。

相談内容を区分的にみると「授業など学業」と「性格」が上位に位置している。また、学生を取り巻く関係者(教職員・保護者)とのコンサルテーションを中心とした支援では、聴覚障がい学生、肢体不自由学生、発達障がい学生等の支援において連携を行っている。

利用件数

相談内容	学 生	教職員	保護者	その他	合 計
授業など学業	175				175
就職や将来の進路	8				8
性格	162				162
友人等との対人関係	11				11
異性問題	6				6
電話	30	312	29	4	375
メール	83	347	29	1	460
その他	3	572	2	2	579
合 計	478	1,231	60	7	1,776

学生利用件数

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	8
異性問題	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
授業など学業	6	12	17	42	15	14	21	7	6	5	9	21	175
友人等との対人関係	0	0	0	0	4	1	3	3	0	0	0	0	11
性格	6	2	9	12	23	14	12	17	17	13	22	15	162
経済問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(家計・学費・ローン)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
価値観	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健康	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
課外活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族や家庭内のこと	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話	2	4	4	0	2	2	4	5	3	2	1	1	30
メール	6	9	3	2	3	2	6	10	18	13	6	5	83
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
合 計	20	27	33	63	48	33	46	48	46	34	38	42	478

教職員等コンサルテーション件数

	教職員	保護者	その他	合計
件 数	1,231	60	7	1,298

②新型コロナウイルス流行禍での学生への支援・広報活動について

- 1) 新型コロナウイルス流行禍において、不安や困っていることを学生相談室で相談できるということをHPに掲載し、学生に広報した。
- 2) 「こころの健康を保つために～学生みなさんに知ってほしいこと」を作成し、新型コロナウイルス流行禍での正しい情報を伝え、感染してしまった人や、医療職への偏見をなくし、すべての人に敬意をと呼びかけた。また、不安に感じている学生に対して、こころの健康を守るための工夫やストレス対処、学生相談室の窓口を学生用Web掲示版によって学生に広報した。
- 3) 学生相談室だより発行
学生相談室だよりを作成し、初めてのオンライン授業や自粛生活で行動制限等を余儀なくされる学生に対して、学生が孤独に陥らないようにとメッセージと共に、ストレス対処法や、学生相談室で相談できるという情報発信を定期的に行った。

③障がい学生支援

兵庫医療大学障がい学生支援委員会のメンバーとして、教職員と共に支援を行った。

4. 進路支援

キャリアデザインセンター

概要

社会で活躍できる卒業生の輩出を目的とする専門職種教育支援の拠点として、2009年4月からキャリアデザインセンターをM棟1階に設置している。また、その円滑な運用のためキャリアデザイン委員会を設置し、原則毎月1回の委員会を開催している。主に卒業年次生を対象とした合同病院説明会および企業説明会の企画・運営をはじめ、各種講座・ガイダンスの実施、求人情報の提供、応募書類の添削・作成、面接指導等の「就職支援」とともに低学年次から学生が自己の能力や適性、志望に応じて卒後の進路を主体的に設計・選択できる能力を培うことができるよう「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしている。また、在学生・卒業生のキャリアアップ支援を目的とした「兵庫医療大学キャリア支援の会」が兵庫医療大学同窓会（海臈会）の公認団体として位置づけられ、2018年度に発足した。それに伴い、兵庫医療大学としては、キャリアデザインセンターがその運営を担い、サポートしていくことになった。

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、例年開催している各講座やガイダンスは中止またはオンライン等を活用して開催し、学生への個別対応については、SkypeやZoomなどのオンラインや電子メール、電話を活用して行った。

毎年度制作し学生に配布していた「就職活動ガイドブック」を廃止し、高学年次向けに具体的な就職活動を行うにあたって役立つ情報をWEB掲載し、スマートフォン等から閲覧できるよう利便性を高めた「就活支援サイト」を開設した。

説明会・ガイダンス・講座等

〈学校法人兵庫医科大学連携病院の会「合同病院説明会」の開催〉

例年、薬学部第6学年次、看護学部およびリハビリテーション学部第4学年次を中心とし、全学部・全学年の学生（希望者）を対象に病院説明会を開催しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった。

〈就職・実務実習説明会の開催〉

薬学部生の実務実習と就職活動に向けた説明会が、2020年12月23日（水）に、薬学部第4学年次を対象に開催された。医療人としてのマナーや病院薬剤師としての薬剤師について等、実務実習のガイダンスと併せて行った。

〈就職ガイダンス・企業説明会の開催〉

薬学部生の就職活動開始に合わせ、2021年3月初旬から薬学部第5学年次を対象に、オンデマンド配信による就職活動を行うにあたって必要なこと、薬学部就職活動方針、各種申請手続きや就職システムの使用法についてのガイダンスを行った。

また、企業説明会は、各社PR動画配信とWEB企業説明会の2つの方法で行った。

〈登録販売者資格取得支援の実施〉

主に薬学部生を対象としたエクステンションへの取組みとして、「登録販売者資格」の取得を促進、

支援するため、例年登録販売者試験受験ガイダンスを開催しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった。

〈内部質保証の点検・評価のための調査を実施（集計）〉

大学は、理念や目的の実現のために教育の質を保証する制度を整備し、定期的に点検・評価、公表する内部質保証が求められている。本学のディプロマポリシーが、「医療を担う医療専門職者の資質を持った学生に学位を授与する」であることから、就職先および卒業生に医療専門職者として従事しているか、本学の教育が社会および卒業生に役立ったかを問う調査を実施した。その概要は以下のとおり。

〔医療機関向けアンケート概要〕

- ・実施時期：2020年9月
- ・実施形態：書面にて郵送（回答はQRコードからアクセスし、WEB入力・回答もしくはFAX）
- ・調査対象：卒業生の就職先（130件）/回答数：54件

〔卒業生向けアンケート概要〕

- ・実施時期：2020年9月
- ・実施形態：葉書郵送（回答はQRコードからアクセスし、WEB入力・回答）
- ・調査対象：卒業後4年目、7年目の全学部の卒業生（539件）/回答数：143件

〈仕事研究セミナーの開催〉

キャリア形成支援として、様々な医療専門職者の方々に、実習ではなかなか聞くことができない現場の話や医療専門職としての心構え、学生時代にしておくべきこと等を講演いただいた。

開催日	内 容	対 象	参加者数(人)
6月6日(土)	キャリア探求セミナー (早稲田大学スポーツ科学学術院、兵庫医科大学ささやま医療センター、みどりクリニック、大垣市民病院) 【LIVE配信】	リハビリテーション学部 理学療法学科 (第4学年次)	33
	録画公開【オンデマンド配信】 6月29日(月)～8月31日(月)	リハビリテーション学部 理学療法学科(全学年)	125
12月13日(日)	仕事研究セミナー (大村病院、神戸労災病院) 【LIVE配信】	リハビリテーション学部 作業療法学科 (第3学年次)	42

〈兵庫医科大学病院・ささやま医療センター説明会の開催〉

就職支援として、各学部の就職活動時期に合わせて兵庫医科大学病院、ささやま医療センターの担当者による病院概要や教育体制についての説明のほか、先輩の就業体験、採用に関する説明、個別相談会を開催した。

開催日	対象	参加者数(人)
2月26日(金)	看護学部第3学年次	76

〈就職支援講座・セミナー〉

主に就職試験前の学生を対象として、履歴書の書き方や面接対策に関する講座を開催した。また、保健師や公務員等を希望する学生についても、就職活動の現状等把握のため、各種ガイダンスや対策講座を開催した。

開催日	内 容	対 象	参加者数（人）
6月29日(月)～ 8月31日(月)	社会人スキルガイダンス (就活直前対策講座) 【オンデマンド配信】	リハビリテーション学部第4学年次	86
7月28日(火)～ 8月31日(月)	就活スタートアップ講座 【オンデマンド配信】	看護学部第3学年次	69
8月5日(水)～ 9月30日(水)	社会人スキルガイダンス (マナー対策講座) 【オンデマンド配信】	看護学部第3学年次	49
12月17日(木)	社会人スキルガイダンス (マナー対策講座)	リハビリテーション学部第3学年次	90
2月22日(月)～ 3月31日(水)	社会人スキルガイダンス (就活直前対策講座) 【オンデマンド配信】	看護学部第3学年次	56
2月26日(金)	兵庫医科大学病院・ささやま医療 センター説明会	看護学部第3学年次	76
3月1日(月)	社会人スキルガイダンス (面接対策講座) 【オンデマンド配信】	看護学部第3学年次	92
3月1日(月)～ 3月31日(水)	就職ガイダンス・企業説明会 【オンデマンド配信】 WEB企業説明会は3月23日(火) にLIVE配信で実施	薬学部第5学年次	86 10
3月12日(金)	保健師ガイダンス	看護学部全学年	72
3月26日(金)	公務員試験対策講座 【LIVE配信】	薬学部第5学年次、看護学部・リハビ リテーション学部第3学年次	26

〈キャリアデザインセンターの利用〉

キャリアデザインセンターを利用する主な用件は、以下のとおり。成績証明書等各種書類の発行依頼や各医療機関への見学会やインターンシップへの参加申し込み等、最終学年時における学生のキャリアデザインセンターへの来所頻度・利用率は高い。

■各種サポート件数 (単位：件)

履歴書添削	各種相談	模擬面接	合 計
501	1,178	236	1,915

■各種証明書発行件数 (単位：件)

在学証明書	成績証明書	卒業見込証明書	抗体検査証明書	健康診断証明書	合 計
9	345	350	32	135	871

就職状況 (2020年9月卒業生含む)

学 部		薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
学 科		医療薬学科	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
卒業生数		130	123	46	42
内 訳	就職者数	78	120	43	41
	進学者数	0	0	3	0
	その他	※52	※3	0	※1

※国家試験の結果等で就職に向けて準備中の者、不明者も含む (2021年3月31日現在)

就職先一覧

薬学部	
病院	愛仁会グループ 大阪府済生会野江病院 神戸市立医療センター中央市民病院 笹生病院 神鋼記念病院 鳥取赤十字病院 兵庫県立尼崎総合医療センター 藤元総合病院
企業	アストラゼネカ(株) エーザイ(株) 科研製薬(株) シミックホールディングス(株) (株)新日本科学PPD PRAヘルスサイエンス(株)

薬学部	
調剤薬局・ドラッグストア	I&H(株) (株)アインファーマシーズ (株)アカカベ (株)アルカ ウエルシア薬局(株) 大阪ファルマプラン 共和メディカル(株) クラフト(株) (株)ココカラファインヘルスケア (株)サンドラッグ (有)サンミ企画 (株)スギ薬局 たんぽぽ薬局(株) 中部薬品(株)V・ドラッグ トライアドウエスト(株) トリニティー(株) (株)なの花西日本 なの花薬局 日本調剤(株) (株)ファーマシィ (株)マツモトキヨシ (株)メディカルユアーズ

看護学部	
兵庫医科大学病院 兵庫医科大学ささやま医療センター 関西ろうさい病院 神戸アドベンチスト病院 市立池田病院 シミックヘルスケア・インスティテュート(株) 製鉄記念広畑病院 兵庫県立西宮病院 箕面市立病院 明和病院 六甲アイランド甲南病院 藍野病院 足立東部病院 湖東記念病院 大阪医科大学附属病院 大阪市立大学医学部附属病院 大阪府済生会吹田病院 大高病院	

看護学部	
加古川中央市民病院 柏厚生総合病院 関西医科大学附属病院 北野病院 京都第一赤十字病院 京都府立医科大学附属病院 甲南医療センター 神戸市立医療センター中央市民病院 神戸市立医療センター西市民病院 神戸大学医学部附属病院 神戸中央病院 滋賀医科大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 鳥取県立中央病院 西神戸医療センター 東加古川病院 兵庫県立姫路循環器病センター	

リハビリテーション学部(理学療法学科)
<p>兵庫医科大学病院 兵庫医科大学ささやま医療センター 明石市立市民病院 尼崎だいもつ病院 医誠会病院 上ヶ原病院 大阪府済生会中津病院 協立病院 神戸海星病院 神戸平成病院 長久病院 ときわ病院 西宮渡辺病院 星ヶ丘医療センター 明和病院 六甲アイランド甲南病院 芦屋セントマリア病院 あんしんクリニック 石川県済生会金沢病院 大阪急性期・総合医療センター 大西メディカルクリニック 金沢文庫病院 関西電力病院 北野病院 協立温泉病院 協和会病院 甲南医療センター 神戸協同病院 神戸リハビリテーション病院 しばはら整形外科スポーツ関節クリニック 順心神戸病院 高倉整形外科クリニック 高槻病院 ツカザキ病院 西川整形外科リハビリクリニック 姫路聖マリア病院 松下記念病院 吉田病院附属脳血管研究所 淀川平成病院</p>

リハビリテーション学部(作業療法学科)
<p>兵庫医科大学病院 尼崎だいもつ病院 尼崎中央病院 大村病院 神戸百年記念病院 西宮渡辺病院 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 宮地病院 六甲アイランド甲南病院 愛仁会リハビリテーション病院 石川病院 ヴォーリズ記念病院 関西メディカル病院 喜馬病院 甲南医療センター 神戸マリナーズ厚生会病院 神戸リハビリテーション病院 子ども発達支援センター さんだりリハビリテーション病院 順心病院 順心神戸病院 順心リハビリテーション病院 吹田療育園 洲本伊月病院 千里リハビリテーション病院 第二東和会病院 宝塚リハビリテーション病院 武田総合病院 西宮すなご医療福祉センター 阪神リハビリテーション病院 東浦平成病院 姫路中央病院 牧病院 名谷病院 森之宮病院 吉田病院附属脳血管研究所</p>

5. 学生会・課外活動

①活動状況

2020年4月の時点で、学生会組織3団体、部活動8団体、登録団体（サークル）18団体が公認を受けている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月から課外活動全面自粛の措置を講じていたが、11月以降は部活動団体のみ、感染状況に応じて課外活動を制限または緩和することとなった（サークルは活動自粛を継続）。活動再開にあたっては、各部活動団体において感染対策や活動方法を記載した活動再開計画書を作成し、本計画書に基づき学生委員会から承認を受けた部活動団体が、課外活動を再開した。また、再開にあたっては、各課外活動団体へ感染予防策の徹底についての注意喚起を行い、必要に応じて部会等との情報共有を行った。

大学公認課外活動団体一覧

団体区分	団体名称	所属人数（人）
学生会組織	兵庫医療大学 学生会	14
	兵庫医療大学 大学行事実行委員会	30
	兵庫医療大学 部会	20
小 計		64
部活動団体	兵庫医療大学 バスケットボール部	25
	兵庫医療大学 バドミントン部	30
	兵庫医療大学 野球部	29
	兵庫医療大学 硬式テニス部	36
	兵庫医療大学 サッカー部	28
	兵庫医療大学 卓球部	12
	兵庫医療大学 軽音楽部	89
	兵庫医療大学 Jazzバンド部	45
小 計		294
登録団体	兵庫医療大学 剣技サークル	14
	兵庫医療大学 バレーボールサークル	74
	HUHS バスケットボールサークル	83
	兵庫医療大学 ダンスサークル	73
	兵庫医療大学 ソフトテニスサークル	53
	兵庫医療大学 アウトドアサークル	45
	兵庫医療大学 コピーダンスサークル	9
	兵庫医療大学 漫画研究サークル	5
	兵庫医療大学 写真サークル	25
	兵庫医療大学 医療研究サークル	37
	兵庫医療大学 書道華道茶道サークル	9
	兵庫医療大学 室内楽団サークル	10
	兵庫医療大学 手話サークル	51
	兵庫医療大学 ポーアイ多職種連携学生ネットワーク	47
	兵庫医療大学 ソフトボールサークル	19
	兵庫医療大学 フィットネスサークル	41
	兵庫医療大学 水泳サークル	13
	兵庫医療大学 映画鑑賞サークル	9
小 計		617
合 計		975

学生会および課外活動関連行事

開催日		行事内容
12月	16～23日	臨時学生総会（動画視聴による開催）
		学生会等役員選挙公示
3月	11～12日	公認課外活動団体更新・昇格ヒアリング（オンラインで実施）

②活動支援

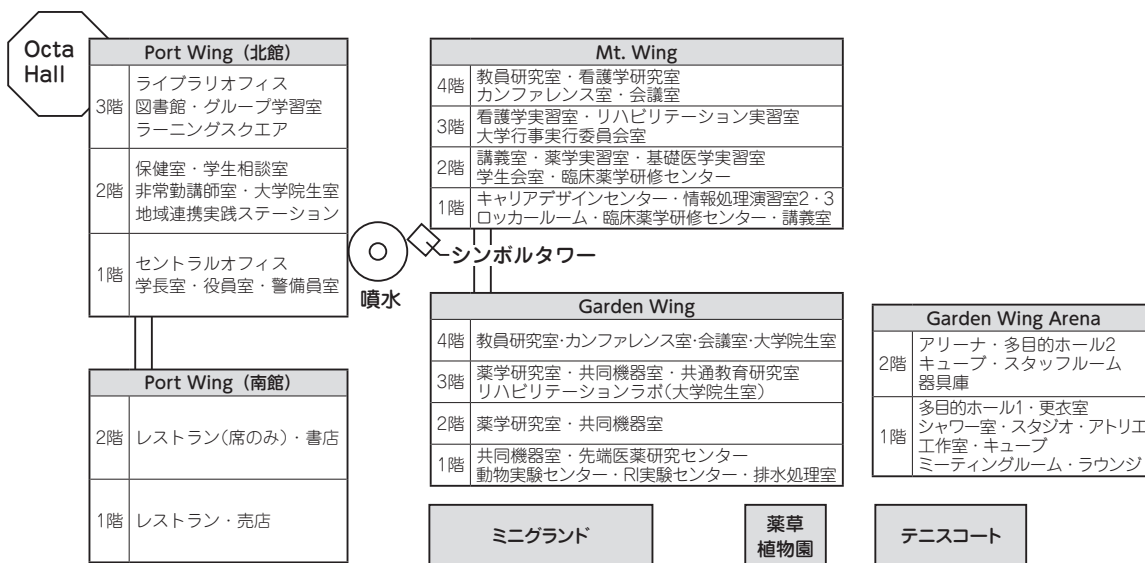
(1) 新入生オンラインサポート制度

2020年度は、学内入構禁止およびオンライン授業の実施により、新入生にとってコミュニティ形成の機会がないことから、大学行事実行委員会による新入生フォローアップ施策として、オンラインでのアドバイザー懇談会を実施し、グループ編成や新入生への本制度の周知等の支援を行った。

第7章 教育研究等環境

1. 校地・校舎・施設設備

建物区分	規模・構造	延床面積 (㎡)	使用区分	敷地面積 (㎡)
P 棟	SRC造 3 階	8,753.86	管理部門、講堂、図書館、食堂、売店、グループ学習室、保健室、地域連携実践センター、大学院生室	49,138
M 棟	SRC造 4 階	17,025.71	講義室、学生実習室、教員研究室、カンファレンス室、臨床薬学研修センター、キャリアデザインセンター	
G 棟	SRC造 4 階	9,296.26	研究室、動物実験室、RI実験室、先端医薬研究センター、共同機器室、Project-Based Learning (PBL) ラボラトリー、リハビリテーションラボ、教員研究室、カンファレンス室	
G棟アリーナ (体育館)	SRC造 2 階	2,792.26	アリーナ、部室、多目的室	
附属棟	RC造平屋建	125.06	倉庫	
守衛所	RC造平屋建	4.2	警備員詰所	
合 計		37,997.35		49,138



2. 図書館

概要

図書館面積	2,795.24㎡
ラーニングスクエア面積	233.33㎡
閲覧席	408席
グループ学習室	20室
教育用端末	37台
蔵書検索専用端末	2台
視聴覚機器	4台
コイン式コピー機	2台
複合機	2台

統計

・蔵書数

図書（冊）	36,210
雑誌（種）	481
視聴覚資料（タイトル）	1,709
電子ジャーナル（利用可能種数）	7,371
電子書籍（タイトル）	44

・年間受入数

	和		洋		合 計	
	冊・点数	金 額	冊・点数	金 額	冊・点数	金 額
図 書	1,534	2,371,716	18	145,134	1,552	2,516,850
製本雑誌	204	448,800	2	4,400	206	453,200
視聴覚資料	32	453,588	0	0	32	453,588
合 計	1,770	3,274,104	20	149,534	1,790	3,423,638

雑誌 165種

・開館日数・入館者

開館日数	198
入館者数（延数）	18,993

・貸出冊数

	学部学生	大学院生	教職員	非常勤講師	卒業生	PI4大学連携	その他	合計
和 書	1,684	140	139	0	7	0	12	1,982
洋 書	6	0	4	0	0	0	2	12
製本雑誌	2	2	3	0	0	0	0	7
視聴覚資料	4	0	20	0	0	0	0	24

・グループ学習室（20室）の利用

利用総時間数（時間）	0
講義利用数（コマ）	0

・相互利用

		件数	複写枚数
依頼	文献複写	300	1,489
	貸借（図書の借受）	4	—
受付	文献複写	247	1,039
	貸借（図書の貸出）	4	—

・電子ジャーナル利用状況

ダウンロード数	49,518
---------	--------

・機関リポジトリ利用状況

アイテム登録数	18
ダウンロード数	29,950

特記事項

- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、4月2日から7月19日まで休館となった。
- ・大学構内立入禁止に伴い、登校可能日における図書の貸出（事前予約制）、郵送貸出、複写物（学内所蔵資料）郵送サービスを実施した。
- ・9月から閲覧席を使用可とするにあたり、使用できる閲覧席数を408席から173席に減らした。
- ・9月17日から10月9日までの平日を、9：00～19：00の開館時間とした。
- ・グループ学習室、ラーニングスクエアは「大学再開のためのガイドライン」に基づき、使用不可とした。

3. 兵庫医療大学キャンパス情報システム

概要

兵庫医療大学情報システム（別称：神戸キャンパス情報システム）は、情報担当副学長、各学部および共通教育センター教授会が選出した教員各1名、神戸キャンパス事務部長、神戸キャンパス事務部入試・広報課長、情報担当の事務職員、その他委員長又は学長が必要と認めた者で構成される組織である。兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

特記事項

- ・オンライン授業対応のため、KDDIインターネット回線の増速および、huhsドメイン限定のYoutube機能公開を実施した。
- ・Moodleサーバのログが肥大化したため、ログストレージの拡張を実施した。

4. 薬用植物園

概要

セルフメディケーションや全人的医療が重要視され、その目的に適する漢方薬の需要が高まっている。それに伴い、原料として使用される生薬量は年々増加している。また、薬用植物に含有される化合物は現在でも医薬品としての活用が多数見られ、したがって、薬学教育において医薬品原料となる薬用植物や漢方生薬の基原植物を知ることは大変重要である。

本学でも開学時より「薬学部附属薬用植物園」の整備を進め、医療用生薬等の基原植物を観察できる環境を整え学生の教育に寄与している。以下にこれまでの整備状況を記す。

施設

丹波地方で生産される生薬トウキを活かした活動が行われており、地域活動や研究に用いるトウキの葉および根の採集のため、標本用とは別にトウキ栽培を引き続き行っている。

植物

日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、現在約150種の薬用植物を栽培している。以下にそのリストを示す。(50音順)

薬用植物栽培リスト

アカネ、アカメガシワ、アキノワスレグサ、アジサイ、アシタバ、アセロラ、アフラチャン、アマ、アマチャ、アミガサユリ、アロエ、アンズ、イチョウ、イブキジャコウソウ、ウイキョウ、ウコン、ウスバサイシン、ウツボグサ、ウド、ウマノスズクサ、ウメ、ウンシュウミカン、エビスグサ、エンジュ、オウレン、オオバコ、オケラ、オタネニンジン、オミナエシ、オリーブ、カカオ、カキ（マメガキ）、ガジュツ、カラスビシャク、カリン、カルダモン、カロライナジャスミン、カワラナデシコ、カワラヨモギ、キキョウ、キク、キササゲ、キツピ、キハダ、ギボウシ、キンミズヒキ、クコ、クサノオウ、クスノキ、クチナシ、クヌギ、クララ、クリスマスローズ、クロタネソウ、クロモジ、クワ、ケジギタリス、ケットウ、ゲンノショウコ、コウホネ、コガネバナ、ゴシュユ、コノテガシワ、コンフリー、サイカチ、サクラ、ザクロ、サボンソウ、サラシナショウマ、サンザシ、サンシュユ、サンショウ、ジギタリス、シデコブシ、シナマオウ、シナレンギョウ、シャクナゲ、シャクヤク、ジャノヒゲ、シラン、ジロボウエンゴサク、スイセン、ストロファンツス、セネガ、センキュウ、センダン、センナ、センリョウ、タイサンボク、ダイダイ、タケニグサ、タチバナ、タマスダレ、タムシバ、タラノキ、チガヤ、チャ、チョウセンゴミシ、ツワブキ、テンダイウヤク、トウキ、トウネズミモチ、トキワイカリソウ、トクサ、ドクダミ、トチバニンジン、トチュウ、トリカブト、ナツメ、ナルコユリ、ナ、テン、ニガキ、日本ハッカ、ニラ、ニワトコ、ヌルデ、ノイバラ、ビル、ハゴロモジャスミン、ハシリドコロ、ハス、ハトムギ、ハナスゲ、バナナ、ハナミョウガ、パパイヤ、ハブソウ、ハマゴウ、ハマナス、ハマボウフウ、ビャクブ、ヒヨス、ビワ、フキノトウ、ヘラオオバコ、ホウノキ、ボタン、マルバアイ、マンゴー、マンリョウ、ミシマサイコ、ミラクルフルーツムラサキ、メハジキ、モモ、ヤブツバキ、ヤマコウバシ、ヤマゴボウ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ヤマボウシ、ヤマモモ、レモンガラス、ワタ（計154種）

5. 研究活動

概要

本学では、医療を取り巻く環境における予測できない変化に対応できる医療人を育成するため、薬学、看護学、リハビリテーション学、各々の専門領域の学術的深化を図る研究とともに、専門性に立脚した新たな統合領域研究に取り組んでいる。すなわち、2017年6月1日に制定した「兵庫医療大学・研究推進方針」に従い、本学の研究活動を強化・推進する新しい会議体として「兵庫医療大学・研究委員会」を設置するとともに、同委員会にて研究推進戦略・方針、研究ブランディング、学内研究助成・顕彰等について全学的な観点から審議しつつ、本学における研究活動の活性化を図っている。2017年度から「兵庫医療大学研究助成・顕彰制度」を策定・実施し、2020年度も11件の研究課題を採

択し、各研究課題について30万円を助成した。また、次年度の本助成制度に関わる募集・審査を前倒しで実施することにより、年度内に採択研究課題を決定し、2021年4月7日（水）に開催された年度初めの全学教職員集会にて、採択された11件の研究課題とともに研究代表者を公表した。その結果、本助成金を年度当初から活用できる研究者ファーストな枠組みを構築できた。

一方、2018年度から運用も開始した顕彰制度では、2019年度に研究助成制度に採択された11件の課題の中から、各研究代表者から提出された自己点検・評価報告書に基づき公正かつ厳正に審査し、優れた研究成果を上げた研究者として薬学部・助教 杉野佑太氏とリハビリテーション学部・講師 塚越累氏を顕彰した。なお、受賞式は、2020年12月24日（木）16時から開催した全学教職員集会の冒頭に開催された。

一方、2017年7月に開設した「兵庫医療大学・公正研究推進小委員会」では、研究委員会の企画立案に基づき、研究支援課と協働しつつ、本学における外部資金獲得および公正研究の推進活動に2020年度も取り組んだ。すなわち、「兵庫医療大学研究助成・顕彰制度」の実施、本学ホームページ (<https://www.huhs.ac.jp/community-affiliations>) にて「民間団体からの助成公募情報」の提供、コンプライアンス研修会、公的研究費執行に関する説明会の開催等を通して、本学の教員レベルにおける外部資金獲得ならびに公正研究の推進を図った。なお、本学では、2015年度から研究推進委員会が、2017年度からは公正研究推進小委員会が主体となり、教員だけでなく3研究科の大学院生や卒業研究に取り組む3学部の学生に対しても、APRIN Japan（旧CITI Japan）E-learningプログラムを活用することにより、研究者倫理の啓発に取り組んでいる。

特記事項

- ・「兵庫医療大学研究助成・顕彰制度」に基づき、2020年度も11件の研究課題に対して研究助成を実施した。
- ・「兵庫医療大学研究助成・顕彰制度」に基づき、2019年度に優れた研究成果を挙げた研究者2名を顕彰した。

なお、2020年度の本学における研究活動の成果指標の一つとして、科学研究費助成事業、学内助成事業における採択状況、受託研究や共同研究の取組み状況等を、本学における公正研究推進の取り組み事例として、研修会等の実施状況等を以下に記す。

1) 科学研究費助成事業

獲得実績

（単位：千円）

研究種目名	件数	直接経費	間接経費	交付額
基盤研究（B）	1	1,400	420	1,820
基盤研究（C）	22	22,600	6,780	29,380
若手研究	14	12,900	3,870	16,770
若手研究（B）	1	600	180	780
研究活動スタート支援	1	1,100	330	1,430
計	39	38,600	11,580	50,180

交付一覧

研究種目名	研究課題名	所属	職位	研究代表者	交付額 (直接経費 (円))
基盤研究(B)	リウマチ看護師の看護実践能力の検証とセルフケア支援促進プログラムの構築	看護学部	教授	神崎 初美	1,400,000
基盤研究(C)	薬用作物トウキの最適栽培条件確立を指向した品質評価基準の開発	薬学部	講師	岩岡 恵実子	1,800,000
基盤研究(C)	酸化還元両過程の制御を基盤とした触媒的ラジカル反応の開発	薬学部	教授	宮部 豪人	900,000
基盤研究(C)	ポリスルフィド／ポリスルフィド化タンパク質の動態解析に資する蛍光プローブの開発	薬学部	教授	前田 初男	1,100,000
基盤研究(C)	エネルギー代謝異常による疼痛受容の変調	薬学部	教授	戴 毅	1,200,000
基盤研究(C)	変容的学習としての看護師のプロフェッショナルリズム教育プログラムの開発と評価	看護学部	教授	網島 ひづる	1,200,000
基盤研究(C)	精神科訪問看護における暴力リスク要因とリスク低減要因のアセスメントツールの開発	看護学部	准教授	藤本 浩一	800,000
基盤研究(C)	処置場面における子どもの体験に関する状況特定理論の構築	看護学部	講師	藤井 加那子	300,000
基盤研究(C)	フレイル・サルコペニアを合併する慢性呼吸不全患者に対する新たな介入戦略の構築	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	2,200,000
基盤研究(C)	市販試薬を用いたチーム基盤学習形式による新規放射線教育	薬学部	准教授	藤野 秀樹	1,300,000
基盤研究(C)	形状制御された酸化チタン微結晶上での結晶面選択的光不斉水素化反応の解明	薬学部	教授	甲谷 繁	1,900,000
基盤研究(C)	免疫チェックポイント阻害薬が誘発する免疫関連有害事象の克服戦略	薬学部	講師	大野 喜也	1,000,000
基盤研究(C)	カルパインをターゲットにした悪性中皮腫の新規治療戦略	薬学部	教授	田端 千春	1,300,000
基盤研究(C)	父親と母親の産後のメンタルヘルス向上のための教育プログラムの開発	看護学部	教授	西村 明子	700,000
基盤研究(C)	正常妊娠経過の初産婦における妊娠初期の睡眠の質と妊娠末期の血圧上昇との関連性	看護学部	准教授	岡田 公江	500,000
基盤研究(C)	アフィニティ技術により同定した新規標的分子Rabを制御する抗アレルギー薬の創製	薬学部	研究員	所(馬淵) 美雪	1,300,000
基盤研究(C)	IL-18による免疫チェックポイントの制御とその癌免疫治療への応用	薬学部	教授	田中 稔之	1,000,000
基盤研究(C)	慢性心不全における赤血球半減期短縮の機序に関する研究	薬学部	教授	辻野 健	700,000
基盤研究(C)	顔認証サーモグラフィの開発と臨床看護学への応用	薬学部	助手	芝田 宏美	600,000
基盤研究(C)	地域在住女性における尿失禁と身体活動量の関連性に関する縦断的研究	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	1,200,000

研究種目名	研究課題名	所属	職位	研究代表者	交付額 (直接経費 (円))
基盤研究(C)	多重介護による家族介護の実態とその支援方略の検討	看護学部	教授	堀口 和子	400,000
基盤研究(C)	認知症の人の生活状況を評価する安心尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	看護学部	講師	鈴木 千枝	800,000
基盤研究(C)	服薬安全のためのLED照明等異なる光源下での医薬品色彩変化範囲と混同色の検証	薬学部	研究員	石崎 真紀子	400,000
若手研究	高次脳機能障害者とその家族への実践型集中生活援助モデルの開発	リハビリテーション学部	講師	清水 大輔	600,000
若手研究	近赤外光によるガン治療を志向したヤスス型複合希土類光触媒の創成	薬学部	助教	川島 祥	3,000,000
若手研究	家族形成期における夫婦のパートナーシップを支援する両親学級の開発と評価	看護学部	助教	阿川 勇太	1,100,000
若手研究	高齢透析患者における運動療法の有効性の検証：多施設共同無作為化比較対照試験	リハビリテーション学部	講師	松沢 良太	1,700,000
若手研究	日本の医療現場に適した医療通訳のあり方に関する探索的研究	看護学部	助教	山田 絵里	800,000
若手研究	炎症性腸疾患に伴う内臓痛におけるROS感受性TRP受容体の役割	薬学部	助教	小暮 洋子	1,000,000
若手研究	ワーク・エンゲージメントを活用したプリセプティとプリセプターの戦略的ペアリング	看護学部	講師	川内 恵美子	400,000
若手研究	乳がん放射線照射部位の皮膚バリア機能と洗浄効果を高めるスキンセルフケア方法の確立	看護学部	助教	宮前 奈央	1,000,000
若手研究	SLE再燃ハイリスク患者の疲労感マネジメントモデルの開発と有用性の検討	看護学部	講師	井上 満代	300,000
若手研究	転倒未遂に着目した新たな転倒リスク評価基盤の構築	リハビリテーション学部	講師	永井 宏達	900,000
若手研究	動作解析手法および骨格筋超音波法を用いた変形性膝関節症の進行要因の解明	リハビリテーション学部	講師	塚越 累	700,000
若手研究	移行期における慢性期の精神疾患を抱える人々が経験するケアに関する現象学的研究	看護学部	講師	石田 絵美子	500,000
若手研究	視線運動分析に基づく看護職と介護職の高齢者理解プロセスの解明	看護学部	准教授	山田 千春	100,000
若手研究	腸内フローラを治療ターゲットとした身体活動戦略の構築	リハビリテーション学部	准教授	宮本 俊朗	800,000
若手研究(B)	脳卒中患者の臨床的意義のある身体活動量の研究	リハビリテーション学部	講師	平上 尚吾	600,000
研究活動 スタート支援	メルケル細胞-神経複合体の機能的特性の研究-痛みや痒みとの関連について	薬学部	助教	神田 浩里	1,100,000
					38,600,000

2) 兵庫医療大学研究助成・顕彰制度

交付一覧

研究分類	所属部署名	研究代表者	職 名	研究課題名
重点課題研究	リハビリテーション学部	松沢 良太	講 師	末期腎不全患者におけるサルコペニアの実態と危険因子の解明－複数の透析クリニックが参加する共同研究－
重点課題研究	リハビリテーション学部	永井 宏達	講 師	互助型コミュニティ形成に向けた介護予防サポーター制度の課題とニーズの探索
重点課題研究	薬学部	清水 忠	准教授	アカデミックディテール（AD）教育プログラムによる薬剤師への教育的介入効果の検証
一般課題研究	看護学部	井上 満代	講 師	日本語版LupusPROを用いた多施設共同研究によるSLE患者のQOLデータベースの構築
重点課題研究	薬学部	木下 淳	准教授	薬剤師・薬学生を対象とした心肺蘇生講習会（PUSHコース）の教育効果の測定と検証
一般課題研究	共通教育センター	土江 伸登	講 師	脳梗塞後うつマウスモデル構築のための基礎研究
一般課題研究	薬学部	川島 祥	助 教	有機分子の選択的分解のための多孔質材料と光触媒の複合体の創製と表面機能化
一般課題研究	薬学部	小淵 修平	講 師	急性腎障害から慢性腎臓病へ移行する新しいモデルの確立と治療薬探索
一般課題研究	薬学部	藤野 秀樹	准教授	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した放射線教育プログラムの開発
一般課題研究	薬学部	萩原 加奈子	助 教	カルシニューリン阻害剤との合成致死性を指標とした新規抗真菌薬の創出
一般課題研究	看護学部	石原 あや	准教授	就学移行期にある低出生体重児の親に対する前向き子育てプログラムの実施および効果の検証
一般課題研究	薬学部	長野 基子	准教授	我国およびアジアの野生動物に寄生する人獣共通感染症関連病原体「バベシア原虫」の感染病態の検討

3) 受託研究

受入一覧

研究種目名	所属	職位	研究代表者	委託研究機関	研究期間
受託研究	薬学部	教授	田中 明人	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	2020年4月1日～ 2021年3月31日
受託研究	薬学部	教授	戴 毅	株式会社ナガセビューティーケア	2020年10月1日～ 2022年3月31日

4) 共同研究（産学連携含む）

受入一覧

研究種目	所 属	職 位	研究代表者	共同研究機関	研究期間
共同研究	リハビリテーション学部	教授	川口 浩太郎	ユニ・チャーム(株)	2016年10月18日～ 2021年8月31日
共同研究	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	(株)ホームイオン研究所	2019年2月1日～ 2022年3月31日
共同研究	薬学部	講師	岩岡 恵実子	奈良県薬事研究センター	2020年11月1日～ 2021年3月31日
共同研究	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	(株)木幡計器製作所	2020年12月1日～ 2022年3月31日

5) その他の研究助成

採択一覧

研究種目名	研究課題名	所 属	職 位	研究代表者	交付額
—	—	—	—	—	—

6) 学術講演会および研究セミナー

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため開催を自粛。

7) 薬学部・薬学研究科

特記事項

各大学院生には学内で実施された先端医薬研究センター・中医薬孔子学院研究報告会（2019年4月23日）、博士論文発表会（2020年1月16日）に積極的に参加するように働きかけた。

8) 看護学部・看護学研究科

特記事項

学部内における研究を推進するために、①科学研究費助成事業への応募書類作成における若手教員の支援、②国際共同研究への参画推進、③システマティックレビュープロトコール作成・投稿のための支援を実施した。

- ①については、各分野・領域の教授等から指導を受け科学研究費申請数の増加につながった。
- ②アデレード大学看護学部との共同研究の推進のための計画を継続している。
- ③については、3グループのシステマティックレビューのプロトコール作成とJBIへの投稿を目指す取り組みを支援した。その結果、1グループのプロトコールがJBI Evidence Synthesisに掲載された。その他のグループも取り組みを進めて投稿予定である。

9) リハビリテーション学部・医療科学研究科

特記事項

科学研究費の応募数および採択数については、学部・研究科としてかなり低いため、今後は応募数を増やすことで採択率を上げる努力が必要である。企業との共同研究も取り組みの成果がみられ、学会発表や論文投稿等に取り組んでいる。学部教員の国際誌への論文採択数も年々増加しており、研究力は確実に向上している。そのため今後も継続的に研究論文の投稿を学部・研究科としても促進し、業績を増やすための取り組みを行っている。また大学院修了生の論文投稿数も増えてきており、今後も継続的に取り組んでいく。

10) 共通教育センター

共通教育センター教員の専門分野は、自然科学系、人文科学系、語学系、医療系、体育系と極めて多様であり、センターの複数の教員が共同して同じテーマの研究活動を実施することは極めて希である。現状、個々の教員はそれぞれの専門性を発展させるべく論文投稿や学会発表等に取り組んでいる。将来的には、共通教育センターの共通研究テーマとして多職種連携教育の実践に向けた取り組みを国内外に発信できるような成果を取り纏める計画を立案している。

6. 教育研究等の支援

概要

本学では、教育活動については「教育支援室」が、研究活動については「公正研究推進小委員会」が、社会貢献活動については「社会学連携推進機構」がそれぞれ中心となり、個々の教員の教育・研究・社会貢献活動を支援している。2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、登校禁止、教職員・学生の学外での活動自粛などを余儀なくされ、本学における教育・研究・社会学連携活動に対する支援も、一部、例年とは異なる形態で実施した。

「教育支援室」では、年度初めからの登校禁止措置に対応したオンデマンド授業を円滑に実施するため、各種ガイドラインを作成するとともに、PowerPoint資料を基盤とする動画作成法、学習プラットフォームMoodleへの動画のアップロード法、Moodle活用した単位認定試験の実施方法などについて最適化し、非常勤講師を含めた科目担当者全員に動画、資料を用いて情報共有した。その結果、前期カリキュラムを滞りなく実施できた。また、9月以降は、対面、リモート、そしてオンデマンドからなるハイブリッド型授業を実施するための環境整備に取り組み、後期カリキュラムも無事に開講できた。

「公正研究推進小委員会」による研究支援活動については前項を参照されたい。なお、以下に、同委員会が2020年度に実施した外部資金獲得・公正研究推進研修会を取りまとめている。

「社会学連携推進機構」では、教員における地域貢献活動つまり社会学連携活動を支援するため、地域交流プロジェクト事業を実施している。2020年度は本事業に対して新規応募プロジェクト10件および継続応募プロジェクト3件、計13件の応募があった。2020年3月25日に開催した社会学連携推進機構運営委員会での議を経て、全12件を採択し、1件あたり応募申請書に記載の予算額（上限10万円）を助成し、教員の社会学連携活動を支援した。なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、採択プロジェクトの内、2件のみがオンラインにて実施できただけであった。

外部資金獲得・公正研究推進研修会

開催日	内 容	対 象	参加者数 (人)
8月28日(金)	研究費採択支援説明会	研究者、事務職員	43

第8章 社会連携・社会貢献

1. 社会学連携推進機構

概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病等の観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業等、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社会学連携に関するノウハウの蓄積、新しい社会学連携形態の企画立案にも取り組むために2015年4月1日に発足した。本機構の目的は、以下に記した地域社会と本学の連携活動に関わる方針「社会学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。

特記事項

- ・「社会学連携ポリシー」を明文化するとともに、到達目標ならびに成果評価指標を2018年度から設定し、成果評価指標への達成度に基づき自己点検を実施している。
- ・自治体／企業および地域医療コミュニティとの連携を基盤とした本学の教学活動に対して助言を行う組織として、2016年7月に「社会学連携アドバイザリーボード」を設置している。
- ・2017年度から年1回開催している本学アドバイザリーボード会議（今年度は2021年1月～2月に持ち回り開催）にて社会学連携活動等について学外有識者から助言をいただいた。

社会学連携ポリシーに基づく活動

・地域創生を目指して

兵庫県の助成を受け薬学部「薬活オウルズ」が取り組んでいる「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおう」プロジェクトも、COVID-19禍の煽りを受け、「漢方の里まつり」「薬草を食べよう！」などの恒例行事を2020年度は開催できなかった。しかし、学生たちが参加できなかったのが残念だが、丹波市立和田小学校との連携活動「当帰葉栽培プロジェクト」については、3年目ということもあり、和田小学校に主体的に取り組んでいただき、児童たちにより当帰葉が無事に収穫された。現地での「薬活オウルズ」による運営・活動支援がなくても、地域で「当帰葉栽培プロジェクト」を遂行できるようになったことを実感し、これこそ真の地域創生であると喜んでいる次第である。なお、児童たちが収穫した当帰葉は、「薬活オウルズ」の企画提案による新しい商品名・パッケージにて丹波市立薬草薬樹公園のリニューアルオープンを記念して2020年10月から3年ぶりに販売が復活された入浴材「ポカポカとうき葉風呂」の原材料として活用された。

学生たちと薬草組合とうき生産部会の皆さんとの協働による当帰栽培は、新型コロナウイルス感染症感染状況を見計らって、6月、7月そして10月に各月1回ずつ実施し、10月に収穫した当帰葉を使った新製品「特選新葉とうき葉茶」の開発に貢献した。

さらに、薬学部第2～4学年次生11名が自宅で当帰葉を使ったメニューの開発に取り組み、「薬学生が考えた！お手軽トウキ葉レシピブック」を2021年3月に発刊できた。この取り組みは4月21日に神戸新聞に、4月22日に丹波新聞に大きな記事として取り上げられた。なお、トウキ葉料理レシピブックは、丹波市立薬草薬樹公園における当帰葉ポット苗の販売開始に合わせ2021年4月22日から同公園にて無料配布した。

これらの活動を通して学生30名（延総数；前年度77名）が地域創生を目的とするPBLを実践するとともに、新製品として「ポカポカとうき葉風呂」と「特選新葉とうき葉茶」の開発も支援できた。

素晴らしいレシピブックも制作することができ、COVID-19禍にも関わらず、何とか到達目標①-2と①-3を達成できた。なお、2020年度の3学部卒業生の兵庫県下への就職率は61.2%でした（前年度62.9%）ので、到達目標①-1も達成した。

・地域医療を担う人材の育成

本学と協定を締結している丹波篠山市健康福祉部が2020年度に開催する予定であった恒例行事はすべてキャンセルされただけでなく、本学は兵庫医療大学・ボーアイコモンズと篠山コモンズにおける活動も自粛した。その結果、今年度は、コモンズを活用したService Learning実践の場を学生たちにまったく提供できず、残念ながら、到達目標②-1と②-2を達成できなかった。

・共同研究／受託研究の推進

2020年度の共同研究・受託研究は前年度からの継続8課題と新規4課題であった。2019年度の15課題には及ばなかったが、共同研究・受託研究12課題の実施、摂南大学との共同研究の継続、そして、これらの研究成果として3編の論文の発表により、到達目標③-1～③-3すべてを達成できた。

表1. 2020年度共同・受託研究一覧

	共同・受託研究機関	学内担当者
前年度から継続	摂南大学（共同研究）	薬・准教授 清水 忠
	ユニ・チャーム（株）（共同研究）	リハ・教授 川口 浩太郎
	（株）ホーマイオン研究所（共同研究；～2020/9/30）	リハ・教授 玉木 彰
	（株）ナガセビューティケア（受託研究）	薬・教授 戴 毅
	兵庫医科大学・国立研究開発法人理化学研究所（共同研究）	リハ・准教授 宮本 俊朗
	奈良県薬事研究センター（共同研究；2020/7/1～）	薬・講師 岩岡 恵実子
	マクセル株式会社（共同研究）	リハ・教授 坂口 顕
新規	国立研究開発法人理化学研究所・国立大学法人大阪大学（共同研究）	薬・教授 田中 明人
	国立研究開発法人理化学研究所（共同研究）	薬・教授 戴 毅
	（株）ナガセビューティケア（受託研究；2020/10/1～）	薬・教授 戴 毅
	奈良県薬事研究センター（共同研究；2020/11/1～）	薬・講師 岩岡 恵実子
	（株）木幡計器製作所（共同研究）	リハ・教授 玉木 彰

・「ひとづくり」支援

2020年度も文部科学省認定「職業実践力育成プログラム（Brush-up Program: BP）」として、看護学研究科では「地域在宅看護実践力育成プログラム」を開講し10名の修了者に、医療科学研究科では「PT・OT臨床力ステップアッププログラム」を開講し11名の修了者に、履修証明書を発行した。COVID-19禍においても到達目標④-2と④-3を達成できたことは、両研究科の教員だけでなく、ご協力いただいている学外講師の皆さまが、YouTubeなどを活用した非同期型リモート授業、ZoomやMeetなどを駆使した同期型リモート授業、そして感染予防に留意しつつ対面授業を効果的に実施した賜物である。学外講師の皆さまには、この場を借りて、お礼申し上げる。なお、2021年度は「在宅看護実践力育成プログラム」を11名が、「PT・OT臨床力ステップアッププログラム」を6名が受講予定である。

薬学研究科では、COVID-19禍の影響により、地域の薬剤師を対象として年2回開催予定の「生涯研修セミナー」を1回しか開催できなかった。また、全8回シリーズの「中医薬実践講座 中級」

については開催を自粛した。しかし、薬学部・准教授・清水が、地域薬剤師の生涯学習の場としてオンラインにてEvidence Based Medicine（EBM）実践講習会を7月から毎月1回提供した。毎回参加者も多く、到達目標④-1を達成できたと考えている。

表2. 年度別BP受講者・修了者数

年度	地域在宅看護実践力育成プログラム	
	受講生	修了生
2016	18	14
2017	12	13
2018	20	20
2019	11	11
2020	12	10

年度	PT・OT臨床力ステップアッププログラム	
	受講生	修了生
2016	14	13
2017	7	7
2018	6	5
2019	16	13
2020	14	11

総数	130	117
----	-----	-----

一方、地域住民を対象として計画していた講座、セミナーの多くは新型コロナウイルス感染症感染予防対策の一環として開催自粛したが、オンラインで対応可能な講座とワークショップについては開催した。しかし、2020年度はオンラインEBM実践講習会を含め講演会、セミナー等を14回しか開催できなかった（昨年度実績60回）。今回のようなパンデミックにおいても地域の住民や医療専門職者に生涯学習の場を提供できるプラットフォームの設計と確立が急務であると痛感している。

表3. 2020年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者)
7月17日(金)	第1回Web-EBM倶楽部 COVID-19に対するデキサメタゾンの効果 (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
8月22日(土)	第2回Web-EBM倶楽部 バロキサビルの家庭内感染予防効果 (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
9月26日(土)	第3回Web-EBM倶楽部 エンパグリフロジンの糖尿病患者以外への心不全への適用研究 (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
10月24日(土)	ポーポキ・ピース・ネットワーク 第10回ワークショップ 「健康って、なに色？」 (薬・桂木 聡子)

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者)
10月31日(土)	第4回Web-EBM倶楽部 システムティックレビューの読み方1 ～ビタミンDサプリメントと死亡率との関連を題材に～ (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
11月28日(土)	第5回Web-EBM倶楽部 システムティックレビューの読み方2 ～SGLT2阻害薬と循環器疾患発生との関連を題材に～ (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
12月29日(火)	第6回Web-EBM倶楽部 年末スペシャル～今年、気になった論文を一気に紹介します～ (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
1月24日(日)	第7回Web-EBM倶楽部 システムティックレビューの読み方3 ～マスクとインフルエンザウイルス感染率との関係～ (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
2月27日(土)	処方支援の基盤となる 医薬品情報とは！～入手可能な医療情報を最大限活用するために～ (摂南大・薬・上田昌宏)
2月28日(日)	第8回Web-EBM倶楽部 高齢者に対するエドキサパンの効果 (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)
2月28日(日)	大学都市KOBÉ！発進プロジェクト 特別講義「あなたの知らない薬のフシギ」 (薬・岩岡 恵実子、桂木 聡子)
3月12日(金)	嚥下機能低下予防講座 ～いつまでも自分の口から食べ続けるために～ (薬・桂木 聡子)
3月13日(土)	パパが知っておきたい、子どもへの関わり方の秘訣 ～夜の学舎編～ (看・阿川 勇太)
3月27日(日)	第9回Web-EBM倶楽部 緊急避妊薬のkokランシステムティックレビュー (薬・清水 忠、摂南大・薬・上田昌宏)

・「ものづくり」支援

到達目標⑤-1～⑤-3は以下に記すように2020年度も達成できました。

2020年度は5企業(前年度8企業)と6課題の共同研究を実施した。これらの共同研究では、(株)ホームアイオン研究所の課題について理学療法学科の学生2名、(株)木幡計器製作所の課題について理学療法学科の学生3名、(株)ナガセビューティケアの課題について薬学部の学生6名、マクセル(株)の課題について理学療法学科の学生5名、総数16名がPBLを実践できた。

一方、本学との連携により企業が開発した新製品としては、「薬活オウルズ」が開発支援した(株)ウェルネスサプライの「ボカボカとうき葉風呂」「特選新葉とうき葉茶」、そして東京クラフトリキュールの「TOM GIN #15 橘・丹波当帰」が挙げられる。

・「まちづくり」支援

2020年度は、本学公認サークル「ボーアイ多職種連携学生ネットワーク (ボーアイネット)」の学生達はまったく活動できなかった。また、2018年度に立ち上げた「兵庫医療大学 健康づくりサポー

一方、リハビリテーション学部・理学療法学科の第4学年次生5名は、ステイホームを実践する地域住民の皆さんの健康づくりを支援するため、学外の公園で試行錯誤しながら制作活動に取り組み、4ページにも渡るパンフレット「自宅でできる簡単エクササイズ」を永井らの監修の下で完成させた。なお、同パンフレット（2万部）は中央区の皆さんに新聞折込みとして配布した。

かんたんコース

仰向けでヒザを立て、
お尻を少し上げる。
呼吸よく5回×20秒。



チャレンジコース

ヒザから両までが一直線に
なるまで上げ。
上げすぎないよう注意。



共通コース

足の開き



椅子に手をつきながら、
片足を横に上げる。上げ
た脚、つま先を床に届け
ないのがポイント。

かかと上げ



体をまっすぐに両足つま先
を床にする。天井に
向かって伸び始めるよう
にする。

Resistance Training

ももあげ



椅子に座り、背筋を伸ばして、
ヒザをずくりに上げ
る。膝が丸くならない
ように。

足・脇のPoint

背中が丸まる場合は足を地道に伸ばし続ける！「スクワット」は
ヒザは膝は曲げない、よじこることを効果アップ！

バランストレーニング Balance Training

強ければ脳も活性化

かんたんコース

片足立ち



30秒×2

つま先立ち

足を足の踵のように
立てて立つ。
椅子などの近くで行う。



チャレンジコース

椅子など、変えられるもの の近くで行う。 体の揺れをさるだけ まっすぐに！



30秒×2

つき足



30秒

片足立ち



30秒×2

つま先歩き

継続しやすいように股
に足をそえて入った
なスピードで歩く。



登録サポーターの皆さんの熱意と行動力により「地域の、地域による、地域のための健康づくり」が自主的に実践されただけでなく、地域に定着してきたこと、そして学生たちが「地域の、地域による、地域のための健康づくり」を支援するために素晴らしいパンフレットを自主制作したことは、本学だけでなく地域にとっても大きな成果だと考えている。

1) 地域連携実践ステーション

概要

地域連携実践ステーションは、本学の開学と同時にP棟の2階に設置され、社会学連携推進機構運営委員会を中心に、本学教員がそれぞれの専門分野に則して、地域住民の方々が参加しやすい公開講座や健康相談事業等を実施している。2008年度からは「ボーアイ4大学連携事業」の一つとして本学に設置された「ボーアイ健康・生活支援ステーション」と連動する実践活動と地域連携実践センター独自の活動を行っている。

本学の特色として、教育研究分野すべてが生活と密接にかかわる分野であることから、社会学連携を重視し、社会学連携を推進するため「社会学連携推進機構運営委員会」を組織するとともに、「地域連携実践ステーション」をその活動主体としている。本委員会は地域連携実践ステーションの運営および本学の地域連携に関する企画を立案し、本学教員による市民健康公開講座の開催および個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

地域連携実践ステーションでは、「公開講座・健康相談」、「地域交流プロジェクト」、「講演会・ワークショップ」の3つのカテゴリーの企画を実施している。また、イベント開催時以外にも地域住民に同ステーションを開放し、本学教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本も展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している。また、医療関係から子供の絵本に至るまで200冊以上の書籍を購入し、地域住民の方々が閲覧できるように図書を開架している。ホームページ上に蔵書リストを公開し、蔵書の貸出しやコピーサービスも行っている。この他、健康や医療等に関する情報検索ができるようにインターネットに接続した2台のパソコンを設置したり、子供が自由に遊べるように玩具を備えた部屋を設置したりしている。

特記事項

・ナレッジキャピタル事業

神戸市による「大学都市神戸」のイメージ戦略としてスタートした「大学都市！KOBE発信プロジェクト」は、2019年度で7年目を迎えた。兵庫医療大学は、2020年度も市内の7大学と共に当該事業に参画した。

参画大学：兵庫医療大学、甲南大学、神戸学院大学、神戸常盤大学、神戸松蔭女子学院大学、甲南女子大学、神戸芸術工科大学

ナレッジキャピタル事業・公開講座等一覧表

アクティブライイベント

期間：2020年2月22日～4月19日および2021年2月17日～4月21日

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため展示のみを実施

アクティブスタジオイベント

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のためセミナー等の開催を自粛

①ポークアイ4大学による連携事業

2008年に締結した「神戸ポートアイランド4大学連携協定」を発展的に解消し、新たな4大学として、教職員研修の共同実施や、大学間単位互換等といった連携事業を継続的に実施するとともに、現状に合わせて、大学間の教育研究の交流、地域活性化等をさらに深めていくため、4大学の連携として2018年4月1日に神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学との連携協定を締結した。

・ポークアイ健康・生活支援ステーション

概要

2008年10月に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の第1期事業として実施してきた神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学および神戸女子短期大学の4大学の取組む総合的連携事業「ポークアイ4大学連携事業」は、2010年度末にて文部科学省の支援事業としての活動は終了した。その連携事業の一つとして、地域住民の健康維持・増進活動や生活支援活動そして病気の予防推進を目的として、「ポークアイ健康・生活支援ステーション」が健康に強みのある本学内に設置された。

2011年度以降は新たな局面として、本ステーションがこの3年間の経験を礎に、啓蒙活動、リカレント教育、情報公開等に取組んでいる。

地域交流プロジェクト

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、オンラインで開催したワークショップ「健康って、なに色?」、講座「嚥下機能低下予防講座」、「パパが知っておきたい、子供への関わり方の秘訣」を除いて全て自粛した。

・実務者会議概要

ポートアイランド4大学連携事業では、神戸市ポートアイランドにキャンパスを置く兵庫医療大学・神戸学院大学・神戸女子大学・神戸女子短期大学の4大学は、隣接しているという利点と各大学の特色を活かしつつ、高度な教育・研究活動で連携し、さらには地域・企業・自治体等とも交流を図ることで、地域社会に貢献することを目的としている。この4大学連携事業は、具体的には「縦軸のプロジェクト連携」と「横軸のベース連携」のコンセプトから構成されている。

大学の使命である「研究」、「教育」、「学生支援」、「社会貢献」、「生涯学習」も各フェイズにおいても有効に機能して行くことを目指しており、縦軸に4大学共通の課題、地域社会からの要請に沿ったプロジェクト「ポークアイ健康推進プロジェクト」と「ポークアイ防災推進プロジェクト」の2つの事業を立ち上げている。横軸には各大学連携ベースとなる「入試広報」、「図書館」、「学生支援」、「教務」、「キャリア支援」、「社会貢献」といった専門部会を立ち上げている。

特記事項

2021年3月10日（水）には、実務者会議の上位にある「神戸ポートアイランド4大学学長会議」が本学で開催された。会議では、2020年度の連携推進センターおよび各連携部会からの活動報告ならびに2021年度の連携事業予算等の報告があり、今後の連携および新型コロナウイルス感染症対策等各大学の取組みについて種々意見交換された。

・部会活動

A. 入試広報部会

概要

ポートアイランド内にある4大学が連携して、学生募集広報、オープンキャンパスおよび大学説明会等を合同で実施することについて協議を行う目的で、入試広報部会が設置された。

現状、本部会では入試情報やオープンキャンパス等の広報活動についての情報交換を中心に活動を行っている。

特記事項

- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・入学試験結果

B. 教務部会

概要

2009年4月より、ポーアイ4大学連携協定書に基づく連携活動の一環として、教育の交流と充実を図る目的で単位互換制度を実施している。同制度には、本学、神戸学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学が参加しており、他大学の学生も受講可能な科目を単位互換科目として提供している。2020年度は、4大学合計29科目が対象となり、本学は11科目を提供科目としたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、後期は大学間の学生の受入れを中止した。

単位互換本学提供科目一覧

	提供科目	授業担当者	単位数	開講期
1	医療概論	伊東 久男 他	1	前期
2	心理学	土江 伸誉	2	前期
3	生物学	伊東 久男	2	後期
4	化学と生命	芝崎 誠司	2	前期
5	人間発達学	土江 伸誉	2	前期
6	臨床心理学（カウンセリング論を含む）	土江 伸誉	2	後期
7	リハビリテーション概論	川口 浩太郎、山崎 せつ子、清水 大輔、道免 和久	1	前期
8	運動発達論	有吉 正則	1	前期
9	東洋医学入門	戴 毅、神田 浩里	1	前期
10	災害看護	神崎 初美、千島 佳也子	1	後期
11	認知障害治療学	山崎 せつ子	1	前期

C. 学生部会

概要

ポートアイランド内の4大学学生部会の連携により、4大学に関連した学生生活環境の改善、学生会活動および課外活動を含む学生生活に関する事を協議し、問題の解決に当たっている。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策の共有ならびに、ポータルライナー等での感染予防策のポスター掲示などを行なった。

特記事項

- ・ポーアイ4大学連携事業として、例年留学生異文化体験プログラム（国際交流ツアー1回）および合同スポーツ大会（4大学マラソン大会）を実施しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、2020年度はいずれも中止となった。

D. 図書館部会

概要

4大学間で、来館利用および資料の貸出等相互利用を行っており、10月～12月には合同巡回展示を開催している。また、2013年度からは、4大学の学生がお互いに他の連携大学図書館を知るための取り組みとして、スタンプラリー（スタンプを4つ集めればグッズと交換）を開始した。

統計

登録者数	0
入館者数（延数）	0
貸出人数（延数）	0
貸出冊数（延数）	0
スタンプカード発行数	0
スタンプ押印数	0
グッズ交換数	0

特記事項

- ・例年実施している巡回展示は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となった。
- ・部会はメール会議にて行われた。

E. キャリア支援部会

概要

神戸ポートアイランド4大学連携協定に基づく連携活動として、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、2回のみの開催となった。部会では、各大学の取り組み事案に対して意見・情報交換を行い、各大学で実施しているセミナーや講座等、合同で開催できるイベントの検討や連携して立案した企画に、各大学の学生に参加してもらう機会を設ける等、キャリアアップに繋がるような講座やセミナーの提供に努めている。

特記事項

＜ポーアイ4大学合同グループディスカッション講座＞

中止

＜地方就職&UIJターン就職個別相談＞

中止

F. 社会貢献部会

概要

ポーアイ 4 大学連携事業の一環として、ポートアイランド地域住民を中心とした社会貢献を軸とし、神戸マラソンのボランティア、環境整備、地域に対する安全や安心、健康生活に関するボランティア活動や講演会等を実施しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためほとんど活動できなかった。

特記事項

- ・神戸マラソンボランティア参加学生数：中止
- ・ポーアイ 4 大学クリーン作戦 ※神戸市環境局 JAF兵庫支部との共催
日時：2020年11月12日（木）
参加者数：兵庫医療大学教職員 3 名を含め、その他大学等計79名

2) 臨床薬剤師生涯教育ステーション

薬学部内に卒後教育・生涯教育を企画・運営するための組織として2014年 5 月よりキャリアエクステンション委員会を設置し、同年10月、および2015年 4 月と10月に生涯研修セミナーを開催した。後、2015年11月からは臨床薬剤師生涯教育ステーション運営委員会と名称を変更した。本ステーションは、本学卒業生等現場薬剤師に対する生涯教育を提供する組織である。現在は、概ね年 2 回講演会を開催しているが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で講演会は 1 回のみ開催となった。

特記事項

- ・講演会の参加人数：102名

開催日	内容	講師
2 月27日（土）	第12回 兵庫医療大学 生涯学習セミナー 「処方支援の基盤となる医療情報とは？～入手可能な医療情報を最大限活用するために～」	摂南大学 薬学部 上田昌宏 先生

3) シームレス看護教育研究ステーション

概要

臨床や地域で働く看護職の教育・研究活動等を本学看護学教員が支援するという目的のもと、その窓口としての機能を啓発する活動を現在は実施している。

特記事項

- ・2020年度看護学BP生への啓発は、対面で実施することができなかったため、資料を郵送した。

4) リハスタッフ臨床教育ステーション

概要

新人教育を終えた理学療法士・作業療法士に対し、他職種連携の中でリーダーシップが発揮できる人材の育成を目指して、より高度な専門的観点を持ち、高度な臨床推論、適切な治療プログラムの提供ができる人材を育成する「PT・OT臨床カステップアッププログラム（BP）」を提供している。

このコースは兵庫医療大学大学院医療科学研究科のプログラムを基盤としており、BP独自の学習内容を加えた履修証明プログラムである。本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、

一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していく。

特記事項

- ・2020年度は、14名の受講者であった。
- ・年1回、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会との意見交換会を行なっているが、2020年度は8月28日にオンラインで実施した。

2. 高大連携

進学相談会

	開催日	名 称	会 場	担当／対象
1	2020-08-08	【さんぽう】看護会場形式進学相談会(梅田)	梅田スカイビル アウラホール	事務担当/看護・医療系
2	2020-08-27	【昭栄広報】須磨地区合同ガイダンス(須磨)	須磨パティオ	事務担当/合同相談会/ 3年生/2年生/1年生/保護者
3	2020-08-29	【貿易広告社】進学説明会(梅田)	梅田スカイビル アウラホール	事務担当/合同相談会
4	2020-09-05	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(天王寺)	MIO	事務担当/合同相談会
5	2020-09-13	【さんぽう】看護系大学フェア2020(梅田)	グランフロント大阪北館タワーB10階 ナレッジキャピタルカンファレンスルーム	事務担当/合同相談会/ 看護・医療系
6	2020-09-14	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(徳島)	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)	事務担当/合同相談会
7	2020-09-17	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(岡山)	岡山コンベンションセンター	事務担当/合同相談会
8	2020-09-23	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(広島)	基町クレド	事務担当/合同相談会
9	2020-09-25	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(高松)	レグザムホール (香川県県民ホール)	事務担当/合同相談会
10	2020-09-28	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(福山)	福山ニューキャッスル	事務担当/合同相談会
11	2020-09-30	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(姫路)	ホテル日航姫路	事務担当/合同相談会
12	2020-10-06	【昭栄広報】三田地区合同ガイダンス	キッピーモール	事務担当/合同相談会/ 3年生/2年生/1年生/保護者
13	2020-10-10	【大阪朝日広告社】大学「看護学部」進学フェア(梅田)	ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー8F	事務担当/合同相談会
14	2020-10-20	【ライオン企画】おうちで大学フェア/オンライン		事務担当/合同相談会/学校別/ 3年生/2年生/1年生/保護者
15	2020-11-06	【昭栄広報】進学相談会(鈴蘭台地区)	すずらんホール	事務担当/合同相談会/ 3年生/2年生/1年生/保護者
16	2020-11-09	【栄美通信】大学・短期大学進学相談会(岡山)	岡山コンベンションセンター	事務担当/合同相談会
17	2020-11-15	【和歌山県薬剤師会】薬学部進学セミナー/ オンライン		事務担当/3年生/2年生/1年生/ 薬学分野別/職業理解
18	2020-11-16	【昭栄広報】地区別進学相談会(姫路)	じばさんびる	事務担当/合同相談会/ 3年生/2年生/1年生/保護者
19	2020-11-18	【マイナビ】進路のミカタLIVE2020岡山	コンベックス岡山	事務担当/合同相談会
20	2020-11-24	【昭栄広報】進学相談会(大阪地区)	難波御堂筋ホール	事務担当/3年生/2年生/1年生/ 保護者/看護・医療系
21	2020-11-30	【昭栄広報】地区別進学相談会(洲本)	洲本市文化体育館	事務担当/合同相談会/ 3年生/2年生/1年生/保護者

高校内ガイダンス

	開催日	名 称	会 場	担当／対象
1	2020-06-09	松蔭高等学校/オンライン		事務担当/3年生
2	2020-06-17	大阪府立桜塚高等学校/オンライン		事務担当/2年生
3	2020-06-22	兵庫県立高砂南高等学校		事務担当/学校別/3年生
4	2020-06-24	神戸学院大学附属高等学校		事務担当/学校別/3年生
5	2020-07-14	兵庫県立明石西高等学校		事務担当/3年生
6	2020-07-14	大阪学芸高等学校/オンライン		事務担当/2年生
7	2020-07-14	兵庫県立宝塚北高等学校		事務担当/3年生
8	2020-07-15	兵庫県立伊丹高等学校		薬学部担当/1年生
9	2020-07-15	大阪学芸高等学校/オンライン		事務担当/2年生
10	2020-07-15	姫路市立琴丘高等学校		事務担当/2年生
11	2020-07-16	兵庫県立伊丹高等学校	いたみホール	事務担当/学校別/3年生
12	2020-07-17	兵庫県立神戸高塚高等学校		事務担当/3年生
13	2020-07-17	兵庫県立有馬高等学校		事務担当/2年生
14	2020-07-21	大阪学芸高等学校/オンライン		事務担当/3年生
15	2020-07-27	兵庫県立宝塚高等学校		事務担当/3年生
16	2020-07-28	兵庫県立加古川北高等学校		事務担当/3年生/2年生/薬学分野別
17	2020-07-29	兵庫県立高砂高等学校		事務担当/2年生
18	2020-07-29	追手門学院大手前高等学校/オンライン		事務担当/3年生/2年生
19	2020-07-30	大阪府立池田高等学校		事務担当/3年生/2年生
20	2020-07-30	兵庫県立宝塚高等学校		リハビリテーション学部(作業療法学科) 担当/2年生/リハビリテーション分野別
21	2020-08-05	兵庫県立明石南高等学校		事務担当/3年生
22	2020-08-06	兵庫県立北条高等学校		事務担当
23	2020-08-07	兵庫県立尼崎小田高等学校		事務担当/2年生
24	2020-08-25	兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校/オンライン		事務担当/2年生
25	2020-09-09	兵庫県立明石高等学校		薬学部担当/1年生
26	2020-09-14	兵庫県立須磨東高等学校		リハビリテーション学部(理学療法学科) 担当/1年生/リハビリテーション分野別
27	2020-10-01	大阪女学院高等学校		事務担当/2年生
28	2020-10-26	姫路市立琴丘高等学校		看護学部担当/1年生/看護分野別
29	2020-10-28	兵庫県立伊川谷高等学校		事務担当/2年生
30	2020-10-29	兵庫県立姫路南高等学校		リハビリテーション学部(理学療法学科) 担当/模擬授業/3年生/2年生
31	2020-10-30	兵庫県立星陵高等学校		薬学部担当/薬学分野別
32	2020-10-30	大阪府立市岡高等学校		事務担当/1年生/薬学分野別/看護・ 医療系/職業理解
33	2020-11-05	兵庫県立姫路南高等学校		リハビリテーション学部(理学療法学科) 担当/模擬授業/3年生/2年生
34	2020-11-12	兵庫県立網干高等学校/オンライン		事務担当/2年生/看護・医療系
35	2020-11-16	姫路市立琴丘高等学校		薬学部担当/2年生
36	2020-11-18	神戸学院大学附属高等学校		薬学部担当/1年生/薬学分野別/職業理解
37	2020-11-20	神戸龍谷高等学校		事務担当/2年生/薬学分野別
38	2020-11-26	兵庫県立東播磨高等学校		事務担当/学校別/1年生

	開催日	名 称	会 場	担当／対象
39	2020-11-26	姫路市立飾磨高等学校		事務担当/2年生
40	2020-11-26	兵庫県立伊丹北高等学校		事務担当/2年生/薬学分野別
41	2020-11-26	兵庫県立姫路南高等学校		看護学部担当/2年生/看護分野別
42	2020-12-11	兵庫県立明石高等学校		事務担当/学校別/2年生
43	2020-12-14	兵庫県立明石南高等学校	西明石ホテルキャッスルプラザ	事務担当/学校別/2年生
44	2020-12-15	大阪府立刀根山高等学校		事務担当/学校別/2年生
45	2020-12-17	松蔭高等学校		事務担当/学校別/2年生
46	2020-12-17	尼崎市立尼崎高等学校		事務担当/学校別/2年生
47	2020-12-17	大阪府立今宮高等学校		事務担当/2年生
48	2020-12-17	兵庫県立三木高等学校		リハビリテーション学部(作業療法学科)担当/模擬授業/2年生
49	2020-12-18	兵庫県立神戸高塚高等学校		事務担当/学校別/2年生/1年生
50	2020-12-22	兵庫県立伊丹高等学校		事務担当/学校別/2年生
51	2020-12-22	報徳学園高等学校		事務担当/2年生/1年生/中学生
52	2021-03-03	神戸市立須磨翔風高等学校		事務担当/学校別/2年生
53	2021-03-03	兵庫県立鳴尾高等学校		薬学部担当/模擬授業/薬学分野別
54	2021-03-03	兵庫県立明石城西高等学校		事務担当/学校別/2年生/1年生
55	2021-03-04	兵庫県立伊川谷北高等学校		事務担当/学校別/2年生
56	2021-03-04	兵庫県立有馬高等学校		事務担当/学校別/2年生
57	2021-03-05	兵庫県立西宮北高等学校		事務担当/学校別/2年生
58	2021-03-08	兵庫県立伊丹西高等学校		事務担当/学校別/2年生
59	2021-03-09	伊丹市立伊丹高等学校		事務担当/学校別/2年生
60	2021-03-10	兵庫県立尼崎北高等学校		事務担当/学校別/2年生
61	2021-03-10	兵庫県立宝塚北高等学校		薬学部担当/模擬授業/薬学分野別/職業理解
62	2021-03-16	兵庫県立須磨友が丘高等学校		事務担当/学校別/2年生
63	2021-03-16	姫路市立飾磨高等学校		リハビリテーション学部(作業療法学科)担当/模擬授業/1年生/リハビリテーション分野別
64	2021-03-19	兵庫県立宝塚高等学校		事務担当/学校別/2年生
65	2021-03-19	兵庫県立伊丹北高等学校	いたみホール	事務担当/学校別/2年生
66	2021-03-22	兵庫県立伊丹北高等学校		事務担当/学校別/1年生
67	2021-03-23	兵庫県立西宮南高等学校		事務担当/学校別/2年生/1年生
68	2021-03-23	神戸市立六甲アイランド高等学校		事務担当/学校別/2年生

3. 国際交流

1) 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム

概要

学校法人兵庫医科大学と北京中医薬大学との中医薬の教育研究における交流協定に基づき、本学は薬学部を中心に北京中医薬大学と教職員の学術交流や学生短期留学等を行っている。

2015年12月6日、兵庫医療大学と北京中医薬大学の学術交流に関する協定が締結した。

以降毎年3月の8～10日間の日程で本学3学部の学生10名程度は北京中医薬大学への短期留学を実施してきたが、2019年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、催行を中止するこ

ととなった。また、北京中医薬大学との共同研究の実施として、2020年3月よりポスト・ドクターの受け入れ調整を進めていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により延期となった。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、短期留学プログラムの実施を見送った。また、ポスト・ドクターの受け入れも再度延期した。

2017年12月20日～23日にはリハビリテーション学部執行部教員3名が訪問、また2019年3月26日～28日には薬学部執行部教員5名が北京中医薬大学に訪問し、今後の各学部における学術交流について協議した。

2) アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム

概要

2014年3月31日、兵庫医療大学看護学部とアデレード大学看護学部の基本合意書、および学術交換留学合意書に基づき、学生・教員の学術交換留学を行っている。

学術交流プログラムの内容は、両大学ともに看護学部教員による講義、看護学部生との合同学内演習、病院研修、語学講義など、異なる国の医療・看護の理解を深め、最終日は修了プレゼンテーション、および修了証授与式で締めくくる。

例年2月下旬にアデレード大学看護学部生(10名～12名)を受け入れ、3月下旬に本学看護学部生(10名前後)を送り出しを実施してきたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、2020年3月下旬の本学看護学部学生の留学が中止となり、以降2020年度の催行を中止することとなった。

2021年3月22日と29日にアデレード大学とオンラインの合同授業を開催し、本学からは8名の学生が参加した。また、本学からの提供授業として「Disaster Nursing」を開講し、学生間の学術交流を実施した。

2021年3月5日にアデレード大学看護学部長Frank Donnelly先生による「臨床判断能力を伸ばすための教育的アプローチ」の講演会を開催し、教員間の学術交流を実施した。

3) 欧州研修

概要

デンマーク王国における医療・福祉・教育の実態を知り、日本の医療・福祉の現状を見つめ直すとともに、グローバルな視野を養うことを目的として実施していたが、2014年度以降欧州情勢不安定および新型コロナウイルス感染症感染拡大により現在中断している。

4) JBI-Kobe Center

概要

アデレード大学と兵庫医療大学看護学部との学術交流協定締結(2014年3月31日)を機に、JBI Kobe Linguistic Translation Center (JBI神戸日本語翻訳センター)を開設し、地域の医療従事者にも還元できる情報を発信する役割を担い、日本における国際学術交流活動の推進にも寄与することを方針としている。JBI本部の改組に伴い、2016年からはJBI-Kobe Centerとして、システムティックレビュー(SR)研究を発信する研究活動を行っている。2018年からはCenter of Excellenceとなった。

2020年JBI Colloquium in Shanghai, Chinaへの複数教員の参加を予定していたが新型コロナウイルス感染症感染拡大のため学会が中止となった。また、2018年から進めていた災害看護SR・急性看護SR・がん看護SRの3グループのSRプロトコル作成活動は2020年も継続した。その結果、災害SRのグループのプロトコルがJBI Evidence Synthesisに掲載された。その他には認知症高齢者

SRのプロトコルが受理され掲載された。またアドバンスケアプランニングのSR報告書の作成も継続されている。

5) トウルク応用科学大学学術交流協定

概要

2011年6月1日に本学との協力協定が締結された。

2019年12月4日、これまで締結していた協力協定の改訂・更新を目的として、合意に関する説明、および実効性を持たせるため有効期限を定めた大学間基本合意を締結するとともに新たな欧州研修の研修先大学として挙げるトウルク応用科学大学へ、国際交流委員4名および、福祉に精通する教員1名が2019年12月2日（月）～同年12月7日（土）の6日間の日程で視察を行った。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、学生・教員の研修実施等は行われなかったが、トウルク応用科学大学教員を招聘し、オンライン研修会を開催し、各学部、センターの教員、および学生が参加した。

4. 生涯教育

1) 中医薬実践講座

概要

漢方は、古来より中国で体系的にまとめられた知識を日本で独自に発展させた医療・薬物治療体系であり、漢方の考え方を理解するためにそのもとになった「中医薬」の理論を学ぶことは大変有益である。本講座は、薬剤師を中心とした医療職者を対象としており、漢方薬への理解をより深めるとともに、中医薬の基礎的概念から生薬を用いた薬物治療への応用を学ぶことを目的としている。

特記事項

漢方薬への理解をより深めることを目的として、2017年度より近隣地域の薬剤師を中心とする医療職者対象の「中医薬実践講座」を開講した。

2019年度は、講師には北京中医薬大学出身の本学特任講師が担当し、5月中旬から9月までの隔週土曜日（8月は講義なしで）の8回で、中医薬の基礎的概念から生薬を用いた薬物治療への簡単な応用を教授した。受講者数は28名だった。講義最終日で修了認定試験を行い、25名の合格者に修了証書を授与した。

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により実施を見送った。

実施状況

中医薬実践講座〔中級〕 中止

受講者数（人）	修了者数（人）	修了要件
—	—	1コマ1.5時間×16回の講義を受講し、講義最終日の修了認定試験に合格

2) 看護学部

概要

学部卒業生および大学院修了生がキャリアアップのための相談がある場合は、随時、各教員がその相談を受けている。また、ホームカミングディ等の機会を利用して、卒業生のキャリアアップの相談を受けている。看護学部あるいは看護学研究科主催の講演会、研修会が開催されるときは、卒業生・修了生に案内を送り、学習の機会を提供している。

兵庫医科大学病院看護部と連携して、卒業生の卒後の教育・研修評価、メンタルサポート、教育

方法等について継続的に検討している。さらに、大学院修士課程修了生で構成される看護部研究サポートチームの支援を実施している。

特記事項

兵庫医療大学クリティカルケア研究会の設置：兵庫医療大学クリティカルケア研究会は、研究者の自由な発想でクリティカルケアの追求および発展に寄与する研究活動として、研究発表会・事例検討会・講演会の開催、共同研究の企画・実施、論文作成等を行う場および機会の提供を行うこと等を目的に2017年に設立された。

例年5月と11月に研究会を開催しているが、2020年は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため5月は休会し11月はオンライン開催とした。開催内容は、研究報告として大学院生の修士課程の研究である「ICU看護師の看護専門職としての自己成長感を獲得するプロセス」、教育講演として「ロジスティック分析方法」（本学リハビリテーション学部日高正己教授）、テーマカンファレンスとして「自施設におけるCOVID-19に対する対応の現状と課題」であった。

3) リハビリテーション学部

概要

学部教育においては、作業療法学科では、学生の生涯教育に対するモチベーションを高め、キャリアデザインの参考情報を提供することを目的として、各教員の専門領域の臨床・研究について教授する「作業療法特別演習」という授業科目を設けている。また、学部教員による専門科目の中でそれぞれ生涯教育の重要性を伝えている。

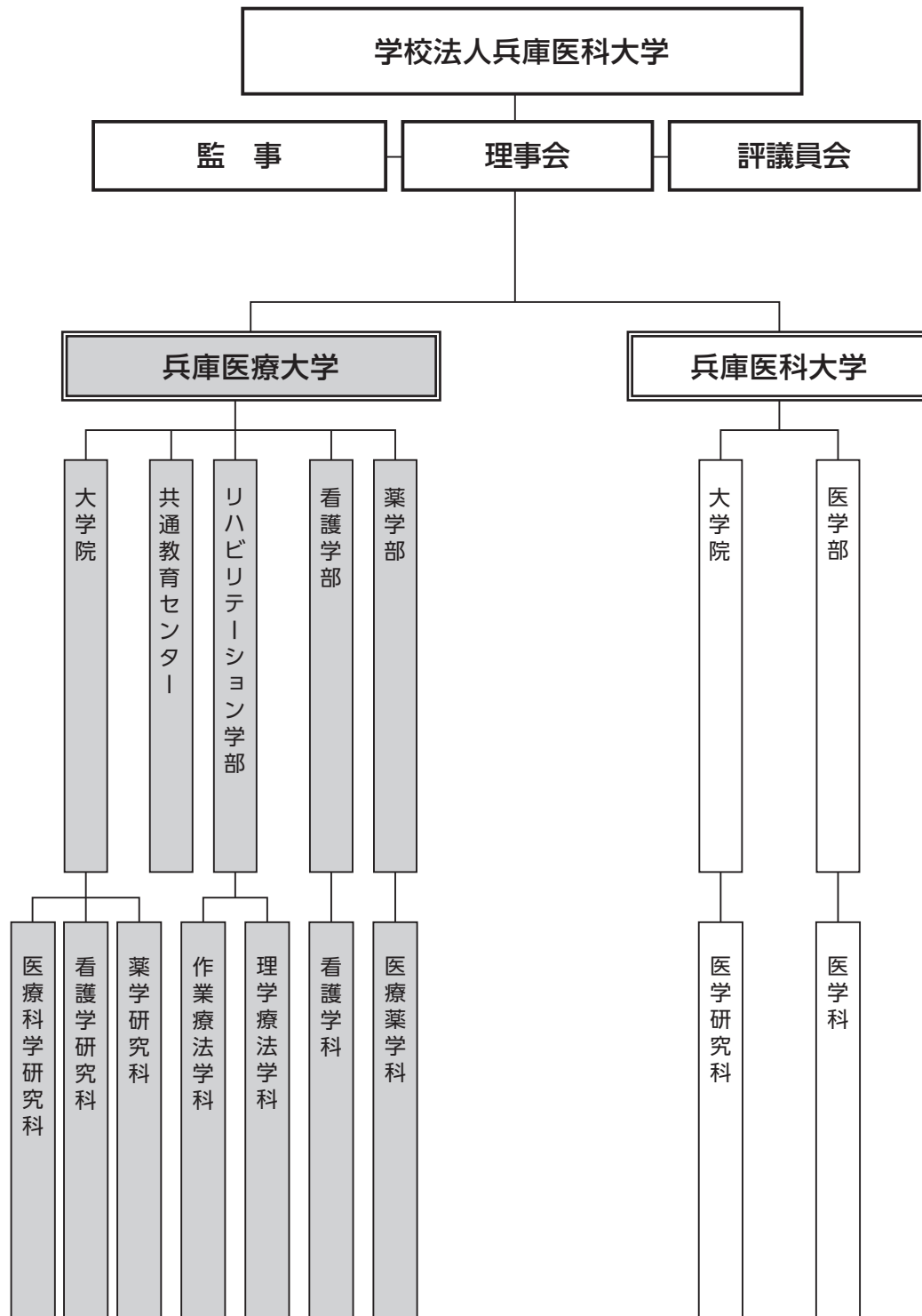
理学療法学科では、生涯教育の一環として、卒業生による臨床に関する勉強会を教員がサポートしている。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため勉強会の開催は難しかった。しかし今後も卒業生のみならず、BP修了生など近隣の理学療法士まで参加を拡げることで、さらに輪を広げていきたい。

作業療法学科では卒業生のニーズを把握し、学科としてどのような生涯教育の場を提供できるか、引き続き、検討していく。

第9章 大学運営

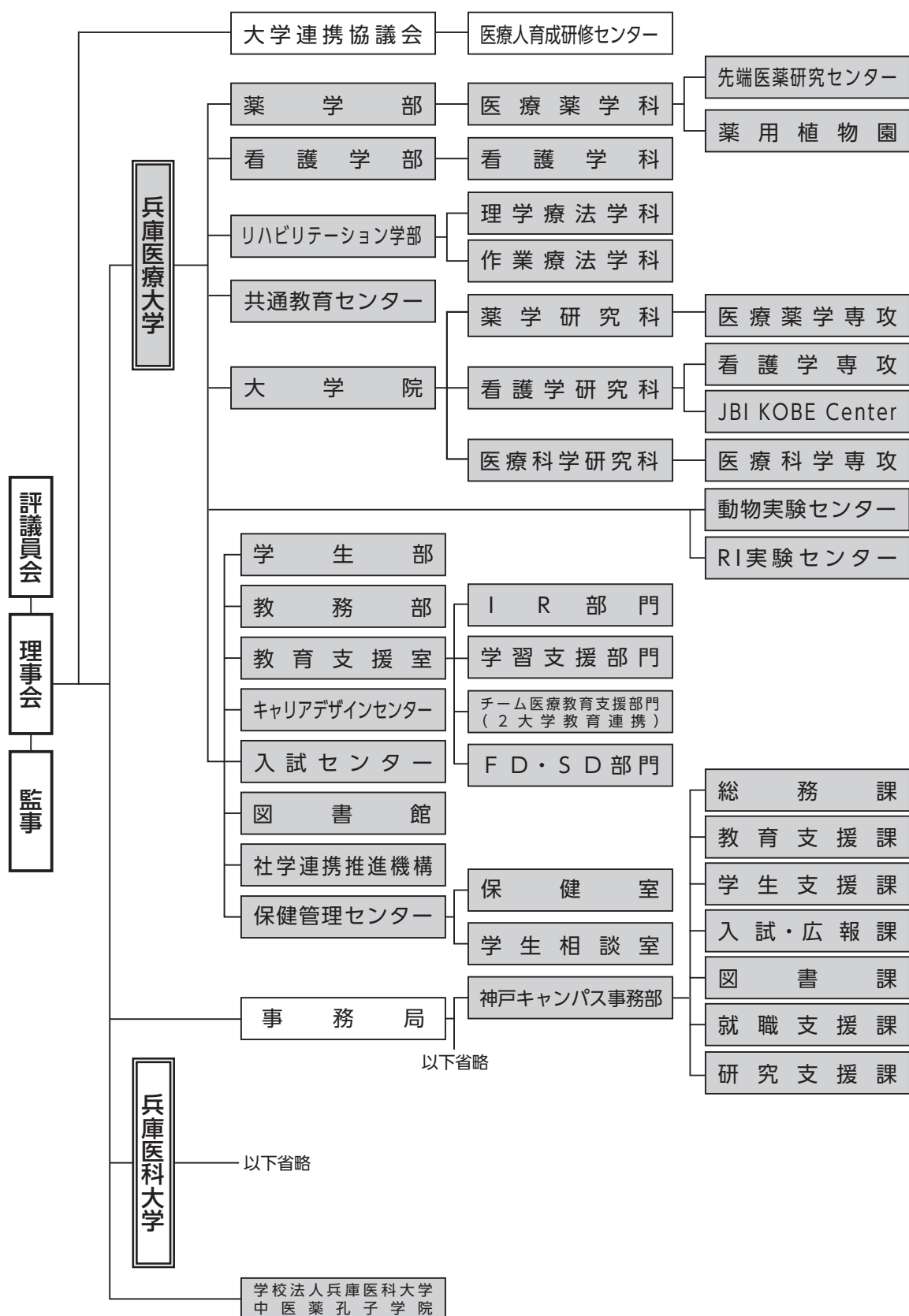
1. 大学全体

1) 学校法人兵庫医科大学組織機構図



(: 神戸キャンパス : 西宮キャンパス)

2) 兵庫医療大学組織図



(: 神戸キャンパス)

3) 大学協議会

概要

大学協議会は、本学の最高意思決定機関であり、毎月1回、定期的に開催している。構成メンバーは学長、副学長、学部長、共通教育センター長、研究科長、教務部長、学生部長、事務部長である。また、事務次長の陪席を認めている。

大学の教学、管理運営、社会活動、将来構想等、大学の全ての活動に係る重要事項を協議している。教授会、研究科委員会、各種委員会等で十分に検討を加えた事項について、全学的立場から協議し、その意見を聴いた上で、学長が最終意思決定を行っている。さらに、特定事項については、学校法人兵庫医科大学常務会、同理事会に付議する。

2020年2月25日以降、新型コロナウイルス感染症に対応するため、大学協議会メンバーに保健管理センター長を加えた新型コロナウイルス対策神戸キャンパス部会を設置して対応した。新型コロナウイルス対策神戸キャンパス部会は、学校法人兵庫医科大学危機管理規則第8条に規定する危機対策本部として設置された新型コロナウイルス対策本部の下部に位置する。

また、学長・副学長会議（後述）および学長・学部長懇談会（後述）を定例の大学協議会の間に行い、管理運営が円滑に行うことができる体制を構築している。

学長・副学長会議

大学に係る諸案件の中で、特に、リスクマネジメントや大きな方向性の決定等の重要な案件について、論点と課題を抽出し、その基本方針を決定する。学長・学部長懇談会（後述）、大学協議会での協議・決定を効率的に、かつ、適切に行うための会議で毎月1回定期的に開催している。なお、緊急の案件がある場合には、定例会以外に適宜開催している。

学長・学部長懇談会

主に、大学協議会の協議案件について、学部間での共通認識を図り、事前の検証、意見交換を十分行うことにより、大学協議会での決定を効率的、かつ、適切に行うための懇談会である。毎月1回定例で開催している。

特記事項

- ・新型コロナウイルス感染症対応について
- ・二大学統合について
- ・大学および大学院学則の一部変更について

4) 役職者名簿

役 職	氏 名	所 属
学 長	藤岡 宏幸	兵庫医療大学
副学長	前田 初男	薬学部
副学長	西山 信好	薬学部
副学長	山崎せつ子	リハビリテーション学部
副学長	鈴木志津枝	看護学部
薬学部長	田中 稔之	薬学部
看護学部長	土田 敏恵	看護学部
リハビリテーション学部長	川口浩太郎	リハビリテーション学部
理学療法学科長	玉木 彰	リハビリテーション学部
作業療法学科長	山田 大豪	リハビリテーション学部
共通教育センター長	伊東 久男	共通教育センター
薬学研究科長	辻野 健	大学院薬学研究科
看護学研究科長	網島ひづる	大学院看護学研究科
医療科学研究科長	日高 正巳	大学院医療科学研究科
図書館長	伊東 久男	図書館
学生部長	坂口 顕	学生部
教務部長	山本 悟史	教務部
入試センター長	日高 正巳	入試センター
保健管理センター長	大河原知水	保健管理センター
社会学連携推進機構長	前田 初男	社会学連携推進機構
キャリアデザインセンター長	細見 明代	キャリアデザインセンター

5) 全学教職員集会

概要

全学教職員集会は、大学の教育や運営における全学的な取り組みを推進する目的で毎年2回実施している。

開催日	内 容	担当者
4月7日(火)	新型コロナウイルス感染状況を考慮し中止	
12月24日(木)	1. 藤岡学長挨拶	学長 藤岡 宏幸
	2. 兵庫医療大学 研究助成制度 2019年度顕彰	副学長 前田 初男
	3. 各副学長による担当領域の総括	副学長(教育・内部質保証担当) 西山 信好 副学長(研究・社会学・産学連携担当) 前田 初男 副学長(学生支援・就職・キャリア教育担当) 鈴木 志津枝 副学長(総務・入試・広報担当) 山崎 せつ子

6) 教職員の資質向上方策

FD/SD

(再掲あり)

FD/SD	開催日	テーマ	講演者	参加者数 (人)
FD	4月1日	新任教員向けFD	堀口FD・SD部門長、山本 教務部長、坂口学生部長	7
FD・SD	4月1日	授業に関するFD・SD	山本教務部長	123
SD	7月2日	2020年度入試結果分析および入試・模試データ からみた兵庫医療大学の状況について	株式会社KEIアドバンス 竹村 俊之	51
FD	7月9日	『本学学生の言語学習観に関する一考察』	共通教育センター 中野 三紀 講師	11
FD	8月27日～ 10月8日	オンライン授業に関するFD (薬学部)		
FD	8月28日	2020年度 科研費助成事業に係るFD研修会	ロバスト・ジャパン株式会社 矢野 覚士	44
FD	9月3日～ 9月24日	オンライン授業に関するFD (看護学部)		38
FD	9月15日	授業改善に係る学生参加型FD (作業2年)		2
FD	9月15日	授業改善に係る学生参加型FD (理学4年)		2
FD	9月15日	授業改善に係る学生参加型FD (作業3年)		2
FD	9月16日	授業改善に係る学生参加型FD (理学1年)		2
FD	9月17日	オンライン授業に関するFD (共通教育センター)		11
FD	9月18日	オンラインツールを活用した国家試験対策	株式会社メディックメディア 財部 剛 先生	36
FD	9月23日	授業改善に係る学生参加型FD (看護学部)		2
FD	10月1日	オンライン授業に関するFD (リハビリテーショ ン学部)		23
FD	10月22日	授業改善に係る学生参加型FD (薬学部)		
FD	10月29日	『共通教育センター授業改善のための学生参加型FD』		7
FD	10月30日	2021年度シラバス作成方法に関するFD	山本教務部長	72
FD	12月10日	『兵庫医科大学での教育と研究について』	共通教育センター 大谷 佐知 講師	11
FD	12月24日	2020年度 兵庫医療大学 全学教職員集会	藤岡学長、副学長4名	153
SD	2月19日	窓口業務の学生満足度向上SD研修		16
FD	2月22日	ポアイ4大学合同FDセミナー 「コロナ禍で学生の学びをどうデザインし、実践 するか」	関西大学・教育推進部/ 教育開発支援センター 山田 剛史 教授	21
FD	2月25日	6年制薬学教育と大学院教育・研究	武庫川女子大学薬学部 川崎 郁勇 教授	43
FD	2月25日	『Students on nowadays～今どきの高校生～Generation Z (デジタルネイティブ/ソーシャルネイティブ世代)を理解する』	阪神シニアカレッジ 石川 秀之 講師	10
FD・SD	3月8日	全学FD・SDワークショップ 「コロナ禍を契機とした本学の新しい教育の展開」	・実践報告 薬学部：山本 悟史 教授 看護学部：三谷 理恵 講師 リハ学部：森 明子 准教授 共通教育：加藤 精一 教授 ・講演「新型コロナウイルス感 染症について～今後の大学教 育を考える上での基礎知識～」 神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学分野 森 康子 教授	147

FD/SD	開催日	テーマ	講演者	参加者数 (人)
FD	3月11日	シミュレーション教育の基礎知識	Laerdal Medical-Japan教育 ソリューションスペシャリスト 亀岡 正二 氏	41
FD	3月18日	薬学部教員による魅せるオンライン講義の紹介 と実践指導	薬学部 清水 忠 教授、 木下 淳 准教授	41
FD	3月23日	オンライン講義における双方向性・多方向性 の演習について	医療科学研究科長 日高 正巳 研究科長	16
FD	3月23日	チームで行う呼吸療法	リハビリテーション学部 理学療法学科 玉木 彰 教授	34

2. 事務組織

概要

本学の事務組織は、開学時より縦割り組織（部課係制）ではなく、類似性のある業務を横断的かつ機動的に遂行していくグループ制を取り入れ、当初は4グループ（教育・学生支援、入試・広報、図書館・情報、管理・運営）でスタートした。その後、学年進行、教学組織の拡大、教育研究活動の展開等に合わせて組織再編を行い、2014・2015年度では8グループ（教育・学生支援、入試、広報・情報、図書館、総務、経理・調達、研究支援、就職支援）編成により、本学の教育研究活動および管理運営を支援してきた。

その後、2016年4月1日付で、法人全体での人件費抑制、経費削減等の取組みとしての事務局組織のスリム化（スモール組織の統廃合）および神戸キャンパスでのグループ制を部課制へ移行（他のキャンパスとの統一）する目的で7グループ（教育支援、学生支援、入試・広報＜含、情報＞、総務＜含、経理・調達＞、図書、研究支援、就職支援）に改組された。また、同年度に本学の社会学連携のプラットフォームとしての社会学連携推進機構の実務担当として、神戸キャンパス事務部総務課内に「社会学連携係」を設置した。

特記事項

2017年度では、2014年8月に法人部門の学術研究支援部に神戸研究支援課として包含されていた本学の研究支援課が再度、独立した形で本学に設置された。また、教育支援室の部門増設に対応するため、教育支援課に「教育支援係」を設置し、事務的支援体制を強化した。

2022年度の兵庫医科大学との二大学統合を見据え、2019年度には、神戸キャンパス内にも「大学統合準備室」を設置した。また、2020年度には、統合後の事務組織改編に向け、各部署での業務の見直し・均一化を推進するとともに、西宮キャンパスとの業務統合も一部先行実施した。

3. 学内委員会

学内委員会 委員一覧（2020年4月1日時点）

内部質保証委員会	
西山 信好	委員長（教育担当副学長）
前田 初男	副学長
鈴木 志津枝	副学長
山崎 せつ子	副学長
田中 稔之	薬学部長
土田 敏恵	看護学部長
川口 浩太郎	リハビリテーション学部長
伊東 久男	共通教育センター長
辻野 健	薬学研究科長
網島 ひづる	看護学研究科長
日高 正巳	医療科学研究科長
坂口 顕	学生部長
山本 悟史	教務部長
大西 正明	事務部長

学生委員会	
坂口 顕	委員長（学生部長）
大河原 知水	薬学部教授（学校医）
九川 文彦	薬学部教授
三浦 大作	薬学部准教授
岩岡 恵美子	薬学部講師
笹川 寿美	看護学部准教授
荻野 待子	看護学部講師
松沢 良太	リハビリテーション学部講師
清水 大輔	リハビリテーション学部講師
賀屋 光晴	共通教育センター准教授
大西 正明	事務部長
河井 信博	学生支援課長

教育委員会	
山本 悟史	委員長（教務部長）
清宮 健一	薬学部教授
前田 拓也	薬学部教授
藤野 秀樹	薬学部准教授
鈴木 みゆき	看護学部准教授
貞永 千佳生	看護学部講師
宮本 俊朗	リハビリテーション学部准教授
佐野 恭子	リハビリテーション学部准教授
芝崎 誠司	共通教育センター准教授
山本 英幸	共通教育センター講師
岡田 成弘	教育支援課長

入試センター運営会議	
日高 正巳	入試センター長
青木 俊二	薬学部教授
南畝 晋平	薬学部准教授
西村 明子	看護学部教授
藤本 浩一	看護学部准教授
塚越 累	リハビリテーション学部講師
平上 尚吾	リハビリテーション学部講師
福田 範子	共通教育センター講師
加藤 慎司	入試・広報課長(アドミッションオフィサー)

図書館委員会	
伊東 久男	委員長（図書館長）
上田 寛樹	薬学部講師
石田 絵美子	看護学部講師
伊藤 齊子	リハビリテーション学部准教授
西田 喜平次	共通教育センター講師
南部 拓也	図書課長

広報委員会	
山崎 せつ子	委員長（広報担当副学長）
上田 晴康	薬学部教授
塚本 効司	薬学部講師
片田 千尋	看護学部講師
山田 千春	看護学部准教授
永井 宏達	リハビリテーション学部講師
清水 大輔	リハビリテーション学部講師
常見 幸	共通教育センター准教授
加藤 慎司	入試・広報課長

情報システム委員会	
西山 信好	委員長（情報担当副学長）
吉岡 英斗	薬学部講師
井上 満代	看護学部講師
宮本 俊朗	リハビリテーション学部准教授
加藤 精一	共通教育センター教授
大西 正明	事務部長
加藤 慎司	入試・広報課長
下村 修	情報担当係長

情報倫理委員会	
西山 信好	委員長（情報担当副学長）
田中 明人	薬学部教授
井上 満代	看護学部講師
山田 大豪	リハビリテーション学部教授
加藤 精一	共通教育センター教授
大西 正明	事務部長
高田 泰彦	総務課長
加藤 慎司	入試・広報課長

国際交流委員会	
山崎 せつ子	委員長
戴 毅	薬学部教授
今野 理恵	看護学部教授
森 明子	リハビリテーション学部准教授
芝崎 誠司	共通教育センター准教授

キャリアデザイン委員会	
細見 明代	委員長（キャリアデザインセンター長）
青木 俊二	薬学部教授
森山 雅弘	薬学部教授
岡田 公江	看護学部准教授
鈴木 千枝	看護学部講師
永井 宏達	リハビリテーション学部講師
有吉 正則	リハビリテーション学部准教授
西田 喜平次	共通教育センター講師
南部 拓也	就職支援課長

研究委員会	
藤岡 宏幸	委員長（学長）
前田 初男	研究担当副学長
田中 稔之	薬学部長
土田 敏恵	看護学部長
川口 浩太郎	リハビリテーション学部長
伊東 久男	共通教育センター長
辻野 健	薬学研究科長
網島 ひづる	看護学研究科長
日高 正巳	医療科学研究科長
大西 正明	事務部長
高田 泰彦	研究支援課長

公正研究推進小委員会	
前田 初男	委員長（研究担当副学長）
甲谷 繁	薬学部教授（共同機器室長）
山本 悟史	薬学部教授（動物実験センター長）
藤野 秀樹	薬学部准教授（RI実験センター長）
宮部 豪人	薬学部教授
神崎 初美	看護学部教授
玉木 彰	リハビリテーション学部教授
加藤 精一	共通教育センター教授
高田 泰彦	研究支援課長

先端医薬研究センター運営委員会	
田中 稔之	委員長（先端医薬研究センター長）
前田 初男	研究担当副学長
青木 俊二	薬学部教授
辻野 健	薬学部教授
山本 英幸	共通教育センター講師
高田 泰彦	研究支援課長

RI実験センター運営委員会	
藤野 秀樹	委員長（RI実験センター放射線取扱主任者）
前田 拓也	薬学部教授（RI実験センター管理区域責任者）
上田 寛樹	薬学部講師（RI実験センター安全管理責任者）
戴 毅	薬学部教授
三谷 理恵	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
常見 幸	共通教育センター准教授
高田 泰彦	研究支援課長

放射線障害予防委員会	
藤野 秀樹	委員長 (RI実験センター放射線取扱主任者)
前田 拓也	薬学部教授
上田 寛樹	薬学部講師
藤井 加那子	看護学部講師
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
伊東 久男	共通教育センター教授
高田 泰彦	研究支援課長

動物実験センター運営委員会	
山本 悟史	委員長 (動物実験センター長)
三浦 大作	薬学部准教授 (動物実験センター実験動物管理者)
大野 喜也	薬学部講師
貞永 千佳生	看護学部講師
塚越 累	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
大谷 佐知	共通教育センター講師
高田 泰彦	研究支援課長

動物実験委員会	
田端 千春	委員長
山本 悟史	薬学部教授 (動物実験センター長)
三浦 大作	薬学部准教授 (動物実験センター実験動物管理者)
小淵 修平	薬学部講師
田中 康一	薬学部講師
貞永 千佳生	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
大谷 佐知	共通教育センター講師
高田 泰彦	研究支援課長

遺伝子組換え実験安全委員会	
清宮 健一	委員長
大河原 知水	薬学部教授 (保健管理センター長)
三浦 大作	薬学部准教授 (遺伝子組換え実験安全主任者)
三谷 理恵	看護学部講師
山本 英幸	共通教育センター講師
高田 泰彦	研究支援課長

環境安全委員会	
田中 稔之	委員長
齋藤 あつ子	薬学部教授
宮部 豪人	薬学部教授
川内 恵美子	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
芝崎 誠司	共通教育センター准教授
高田 泰彦	研究支援課長

共同研究の受入れに関する審査専門委員会	
藤岡 宏幸	委員長 (学長)
前田 初男	研究担当副学長
宮部 豪人	薬学部教授
甲谷 繁	薬学部教授
神崎 初美	看護学部教授
芝崎 誠司	共通教育センター准教授
高田 泰彦	研究支援課

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会	
大河原 知水	委員長
南畝 晋平	薬学部准教授
田中 康一	薬学部講師
川内 恵美子	看護学部講師
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
西田 喜平次	共通教育センター講師
大橋 範子	人文・社会科学の有識者
平木 博美	一般の立場を代表する者

病原体等安全管理委員会	
齋藤 あつ子	委員長
大河原 知水	薬学部教授 (保健管理センター長)
前田 拓也	薬学部教授
山本 英幸	共通教育センター講師
高田 泰彦	研究支援課長

利益相反マネジメント委員会	
西山 信好	委員長
細見 明代	看護学部教授
玉木 彰	リハビリテーション学部教授
加藤 精一	共通教育センター教授
松村 昭夫	財務担当理事
佐々木 周一	事務局長
大西 正明	事務部長
中村 高志	学務部長
八波 公夫	学外有識者

倫理審査委員会	
前田 初男	委員長
田端 千春	薬学部教授
網島 ひづる	看護学部教授
勝野 朋幸	リハビリテーション学部教授
森 明子	リハビリテーション学部准教授
西田 喜平次	共通教育センター講師
高城 一彦	事務局の代表者
田中 康博	学外学識経験者
大槻 隆文	一般の立場を代表する者

共同機器室運営委員会	
甲谷 繁	委員長（共同機器室長）
宮部 豪人	薬学部教授
三浦 大作	薬学部准教授
宮本 俊朗	リハビリテーション学部准教授
高田 泰彦	研究支援課長

紀要委員会	
伊東 久男	委員長（図書館長）
九川 文彦	薬学部教授
田中 康一	薬学部講師
今野 理恵	看護学部教授
藤井 加那子	看護学部講師
佐久間 香	リハビリテーション学部講師
有吉 正則	リハビリテーション学部准教授
中野 三紀	共通教育センター講師
南部 拓也	図書課長

防火防災対策委員会	
藤岡 宏幸	委員長（学長）
西山 信好	副学長
前田 初男	副学長
鈴木 志津枝	副学長
山崎 せつ子	副学長
田中 稔之	薬学部長
土田 敏恵	看護学部長
川口 浩太郎	リハビリテーション学部長
伊東 久男	共通教育センター長
坂口 顕	リハビリテーション学部教授（学生部長）
大西 正明	事務部長

衛生委員会	
山崎 せつ子	委員長（副学長）
上田 寛樹	薬学部講師
松井 徳造	衛生管理者・産業医
向畑 毅	看護学部助教
奥谷 研	リハビリテーション学部助教
大西 正明	事務部長
西尾 健太郎	入試・広報課長補佐

医療人育成研修センター運営委員会	
西山 信好	委員長（教育支援室長）
山本 悟史	薬学部教授（教務部長）
天野 学	薬学部教授
石原 あや	看護学部准教授
森 明子	リハビリテーション学部准教授
伊東 久男	共通教育センター教授（研修センター副センター長）
常見 幸	共通教育センター准教授

社会学連携推進機構運営委員会	
前田 初男	委員長（社会学連携推進機構長）
天野 学	薬学部教授（ステーション長）
石原 あや	看護学部准教授
永井 宏達	リハビリテーション学部講師（ステーション長）
土江 伸誉	共通教育センター講師
高田 泰彦	総務課長
梅原 いづみ	専従事務員

大学院運営委員会	
西山 信好	委員長（教育担当副学長）
辻野 健	大学院薬学研究科長
網島 ひづる	大学院看護学研究科長
日高 正巳	大学院医療科学研究科長
伊東 久男	共通教育センター長
大西 正明	事務部長

障がい学生支援委員会	
鈴木 志津枝	委員長（副学長）
大河原 知水	保健管理センター長
山本 悟史	教務部長
坂口 顕	学生部長
桂木 聡子	薬学部教授
岩岡 恵美子	薬学部講師
藤井 加那子	看護学部講師
伊藤 斉子	リハビリテーション学部准教授
賀屋 光晴	共通教育センター准教授
大西 正明	事務部長
原田 久仁美	学生相談員
西崎 隆志	学生相談員

1) 内部質保証委員会

概要

本学は、2011年度の自己点検・評価報告書について、財団法人大学基準協会の2012年度大学評価を受審し、2013年4月1日より7年間の適合認定を受けた。以降、各評価・点検項目を主に、PDCAサイクルを回しながら、改善すべき課題等に取り組んでいる。

2014・2015年度では、各年度の本学事業計画について、自己点検・評価委員会の所管部会長が当該事業の各取組みの実施、進捗状況を確認する等で、当該事業の推進を図った。2016年度には、自己点検・評価委員会規程を一部改正し、自己点検・評価体制について、学内各組織（各学部、大学院各研究科、共通教育センター、神戸キャンパス事務部他）が教学・研究を主とした自己点検・評価を実施し、その統括等を大学協議会構成員からなる全体の自己点検・評価委員会が行う方向とした。

2018年度には、本学の内部質保証の一層の充実を図るため、「兵庫医療大学の内部質保証に関する規程」を制定し、「兵庫医療大学内部質保証方針」を策定した。

2) 学生委員会

概要

学生委員会は、人間形成を目的として行われる課程外のエデュケーションおよび大学教育に対する適応を図り学習効果を高めることを目的とし活動を行っており、学生委員会規程・学生支援方針に基づいて学生の修学に係る指導・助言や学生の生活相談、学生の健康管理、奨学金、学生会活動や課外活動に関すること、その他学生生活における諸問題について協議し、問題の解決に当たっている。

なお、兵庫医療大学給付奨学金および貸与奨学金の選考、学生会および課外活動団体への対応等、継続的な調整や詳細な検討が必要な事項については、担当委員を当て対応を行うとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し対応している。

また、交通安全など、地域を含む近隣大学と共通の問題への解決・情報共有といった連携を図るため、ポートアイランド4大学連携学生部会への出席、委員会内での報告を行なっている。

委員会は、学生部長、学生支援担当副学長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名、学校医、事務部長、学生支援課長および学生部長が必要と認め、所属教授会が承認した教員若干名で構成しており、委員長は学生部長が務めている。

主な審議事項

- ・予算について
- ・新入生・在学生オリエンテーションの実施について
- ・ワクチン接種の年間スケジュールについて
- ・奨学金の年間スケジュールについて
- ・新型コロナウイルス感染症に係る支援制度について
- ・2021年度以降のワクチン接種等の実施について
- ・兵庫医療大学在学生特別奨学金の選考等について
- ・兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学生選考要領の一部改正について
- ・兵庫医療大学給付・貸与奨学金の選考等について
- ・日本学生支援機構奨学金に関することについて
- ・「高等教育の修学支援新制度」による修学支援に関することについて
- ・課外活動功労賞の推薦について
- ・公認課外活動団体の活動再開について

- ・在学生による新入生フォローアップ施策に対するサポートについて
- ・リーダーズキャンプの中止について
- ・卒業生に対するアンケート調査について
- ・学生支援に関する自己点検・評価（2019年度分）について
- ・ボランティアについて
- ・自転車通学について

3) 教育委員会

概要

教育委員会では、学則、教務に関する規程および教育委員会規程に基づき、教務に関する基本方針や全学部共通課題について協議している。2020年度においては、大学全体の教務運営に関する重要事項である授業日、定期試験および成績判定のスケジュール、履修登録に関すること、試験・成績判定に関すること等について協議した。これら協議した事項については、各教授会や大学協議会で審議、報告される。

また、教育委員会では、PDCAサイクルが確立するように年度初めに教務運営、教務システムに関する課題を明確にし、年度中にそれぞれの課題の解決を図り、翌年度初めに進捗状況を確認することとしている。

委員会は、教務部長、共通教育センター教員2名、薬学部教員3名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、教育支援課長で構成しており、委員長は教務部長が務めている。

主な審議事項

- ・年間行事予定、授業日カレンダー、成績判定、定期試験等のスケジュールに関すること
- ・履修登録に関すること
- ・試験に関すること
- ・成績判定に関すること
- ・教務便覧に関すること
- ・ポーアイ4大学連携単位互換提供科目およびポーアイ教養科目に関すること

特記事項

- ・「授業方法に関するFD・SD～オンライン授業に向けて～」を開催した。
- ・オンライン授業について、ガイドライン、準備マニュアルを策定した。
- ・オンライン試験等に関するガイドラインを策定した。
- ・教務部長による「シラバスの作成方法に関するFD」を開催し、当日参加できなかった教員に対し、オンデマンド型オンライン動画による講習を行った。

4) 入試センター運営会議

概要

入試センター運営会議は、入学者選抜要領の作成および入学試験実施に関する業務等について協議するとともに、志願者数および入学者数の確保を図るための最善な入試制度について協議している。2015年10月に、今後の高大接続改革への対応ならびに入学試験関連業務の充実を図り、入試運営のみならず入試センターとしての機能の充実を図るため、入試センター規程を制定し、2015年10月の第6回の会議より、従来の入試運営委員会を入試センター運営会議として開催している。2018

年度には、アドミッションオフィサーの位置づけや役割を明確にするため、規程の改定を行った。

当センターは、入試センター規程に基づき、入試センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名およびアドミッション・オフィサー（入試・広報課長兼務）の9名の教職員をもって構成されている。

なお、入試センター長は、リハビリテーション学部日高正巳教授が務めた。

主な審議事項

- ・2021年度入試実施における諸事項の検討
- ・2022年度の大学統合年度における入試に向けた検討

5) 図書館委員会

概要

図書館委員会は、学習支援・研究支援のためにより良い図書館運営を図ることについて協議するとともに、図書館資料や学術情報の選定・収集・管理に関することについて協議している。

当委員会は、図書館長、薬学部教員1名、看護学部教員1名、リハビリテーション学部教員1名、共通教育センター教員1名および図書課長の5名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

主な審議事項

- ・図書館経費および図書購入費予算について
- ・年間開館予定
- ・教員選書依頼と選書図書購入について
- ・シラバス掲載の教科書・参考書の購入について
- ・学生からの希望図書購入について
- ・購読雑誌（電子ジャーナル含む）契約・データベース契約について
- ・寄贈図書・寄贈雑誌の受入について
- ・除籍について
- ・ポアイ4大学連携図書館巡回展示について

6) 広報委員会

概要

広報委員会は、兵庫医療大学の広報に関する企画・立案、入試広報施策の企画・立案および実施、大学ホームページの運用方針および内容の企画・立案、法人の広報関連部署および広報戦略との連携・協調・情報共有、その他本学の広報全般に関することに携わる。

当委員会は、委員長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および入試・広報課長の9名の委員をもって構成されている。

主な審議事項

- ・2020年度学生募集広報について
- ・2020年度オープンキャンパスおよび入試対策講座の実施について
- ・大学案内等広報用ツールの作成について
- ・2021年度学生募集マーケティング戦略について

- ・2021年度高校生対象イベントについて
- ・高校訪問について
- ・学生スタッフの運用について

7) 情報システム委員会

概要

情報システム委員会は、情報担当副学長、各学部および共通教育センター教授会が選出した教員各1名、神戸キャンパス事務部長、神戸キャンパス事務部入試・広報課長、情報担当の事務職員、その他委員長又は学長が必要と認めた者で構成される組織である。兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

主な審議事項

- ・情報処理演習室の管理について
- ・ディスカッションボードの更新について
- ・書画カメラの更新について
- ・学生購入パソコンの送付先について

8) 情報倫理委員会

概要

本学システムが倫理的配慮のもとに利用されることを目的として、情報倫理委員会が置かれている。禁止事項第3条に該当する事態が起こった場合の対応と行為者およびその関係者に対する措置、その他、本学における情報倫理確立に必要な事項が審議される。

委員会は、薬学部教授会で選出された教員1名、看護学部教授会で選出された教員1名、リハビリテーション学部教授会で選出された教員1名、共通教育センター教授会で選出された教員1名、兵庫医療大学情報ネットワーク委員会委員長、事務部長、総務課長、入試・広報課長、その他委員長が必要と認めた者をもって組織される。

9) 国際交流委員会

概要

国際交流委員会は、2010年2月8日の大学協議会で制定された「兵庫医療大学国際交流委員会規程」に則り、外国の大学および教育研究機関との連携の下に、国際学術研究・国際教育および国際協力を推進することを目的とする。

当委員会は、委員長、薬学部教授会で選出された教員1名、看護学部教授会で選出された教員1名、リハビリテーション学部教授会で選出された教員1名、共通教育センター教授会で選出された教員1名で構成される組織である。

特記事項

活動内容は第8章国際交流に掲載する。

10) キャリアデザイン委員会

概要

本学は、学生のキャリアデザインを支援し、社会に有為な人材を送り出すことを目的に、キャリ

アデザインセンター（以下「センター」という。）を設置し、センターの活動推進と行事遂行のため、キャリアデザイン委員会（以下「委員会」という。）を原則毎月開催している。委員会は、キャリア支援に関する企画・調整・運営方針、センターが推進する就職活動支援、社会人教育支援、生涯学習支援等のキャリアデザイン業務に関すること、その他センターの活動に関することを協議している。

委員会は、センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名、就職支援課長、その他委員長が必要と認めた者で構成している。

主な審議事項

- ・新型コロナウイルス禍における就職、キャリア支援の形態について
- ・学校法人兵庫医療大学連携病院の会合同病院説明会実施について
- ・兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター就職説明会について
- ・各種セミナー、ガイダンス、対策講座の実施について
（仕事研究セミナー・保健師ガイダンス・助産師ガイダンス・公務員試験対策講座・グループディスカッション対策講座・社会人スキルガイダンス〔接遇マナー対策講座／就活直前対策講座〕・就職・実務実習説明会等）
- ・登録販売者資格取得支援について（具体的施策、受験ガイダンス）
- ・合同企業説明会の実施について
- ・内部質保証の点検・評価のための調査について
- ・キャリア・就職支援行事日程について

11) 研究委員会

概要

当委員会は、本学における研究活動の推進主体として、研究の多様性を尊重し、全学的な研究支援体制の整備、公正な研究活動等を推進することを目的とする。

当委員会は、研究委員会運営規程に基づき、学長、副学長（研究担当）、各学部長、共通教育センター長、大学院各研究科長、神戸キャンパス事務部長、神戸キャンパス事務部研究支援課長の11名と、その他、委員会が必要と認めた者により構成され、委員長は学長が務めている。

1. 研究推進戦略・方針に関することについて
2. 研究ブランディングに関することについて
3. 学内研究費の運用および研究助成・顕彰に関することについて
4. 外部資金獲得に関することについて
5. 公正研究・研究資金適正使用等の教育・研修に関することについて
6. 研究活動等のPDCAサイクルによる自己点検・評価に関することについて
7. 研究施設・設備の整備に関することについて
8. その他、委員会が必要と認めた事項について

主な審議事項

1. 兵庫医療大学研究助成公募要項（案）について
2. 兵庫医療大学研究助成審査ガイドラン（修正案）について
3. 2019年度 研究助成に係る顕彰について
4. 2021年度 研究助成金交付決定について

12) 公正研究推進小委員会

概要

当小委員会は、兵庫医療大学研究委員会運営規程第8条に基づき、外部資金獲得および公正研究・研究資金適正使用等の研修に関すること等の実務を効果的に担うことを目的として設置されている。当委員会は、公正研究推進小委員会内規に基づき、副学長（研究担当）、共同機器室長、動物センター長、RI実験センター長と、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部および共通教育センターから各1名、研究支援課長の9名の委員により構成され、委員長は副学長（研究担当）が務めている。

1. 外部資金獲得に関することについて
2. 公正研究・研究資金適正使用等の教育・研修に関することについて
3. 研究セミナーなどの企画・立案について
4. その他、公正研究推進にかかる事項について

主な審議事項

1. 兵庫医療大学公的研究費ハンドブックの改訂について
2. 2020年度 学術講演会の開催について
3. 神戸医療産業都市推進機構の支援内容について
4. 兵庫医療大学研究助成公募要項（案）について
5. 兵庫医療大学研究助成審査ガイドライン（修正案）について
6. 公正研究推進小委員会 年度活動スケジュール（案）について
7. 2021年度学術講演会の開催について
8. APRIN e-learningプログラム（研究者倫理教育）の受講（更新）について
9. 事前入札による事務発注の検討について

13) 先端医薬研究センター運営委員会

概要

先端医薬研究センター運営委員会は、兵庫医療大学先端医薬研究センター規程第7条第2項の規程に基づき、先端医薬研究センターの運営に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

14) RI実験センター運営委員会

概要

RI実験センター運営委員会は、兵庫医療大学RI実験センター運営委員会規程第7条第2項に基づき、RI実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

RI実験センター運営委員会は、RI実験センターの管理運営について協議し、かつ具体的問題を処理するものとする。

主な審議事項

RI実験センターにおける放射線管理に関する案件および次年度RI予算案について審議する。

15) 放射線障害予防委員会

概要

放射線障害予防委員会は、兵庫医療大学放射線障害予防委員会規程第9条に基づき、兵庫医療大学放射線障害予防委員会の構成および運営について定める。委員会は、次の事項について協議し、

かつ具体的問題の処理をしている。

1. 放射線障害予防規程の運用および改廃
2. 放射線業務従事者の教育および訓練
3. 学長から諮問を受けた事項
4. 学長に対する放射線障害予防に関する意見具申
5. その他放射線障害防止についての必要事項

特記事項

- ・放射線管理状況報告書について
- ・放射線業務従事者の登録状況について
- ・放射線管理区域への立入り作業の記録について
- ・放射線障害予防規程の改定について

16) 動物実験センター運営委員会

概要

動物実験センター運営委員会は、兵庫医療大学動物実験センター運営委員会規程第5条第2項の規定に基づき、兵庫医療大学動物実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める。

動物実験センター委員会は、兵庫医療大学動物実験センターの運営に関する事項について協議し、かつ具体的問題の処理をする。

主な審議事項

- ・公私動協「新型コロナウイルス感染症対策アンケート調査」回答案について
- ・次年度予算案について

特記事項

2020年4月	新型コロナウイルス感染症に関連した本施設の対応策周知 特定外来生物の数量の増加、減少等の届出
2020年5月	オートクレープ点検・性能検査（日本ボイラー協会） （定例）空調機点検
2020年6月	動物実験等の実施に関する基本指針等の順守状況に関する調査回答（文科省） ケージワッシャ蒸気バルブ交換 微生物モニタリング検査
2020年7月	センター分室のクリーンアップ（飼育動物のコロナ感染疑い） （定例）空調フィルター交換
2020年8月	CNVマウス室漏水事故
2020年9月	微生物モニタリング検査 （定例）消防設備点検
2020年10月	第1回動物実験センター運営委員会 未滅菌資材使用事故
2020年11月	第2回動物実験センター運営委員会 （定例）空調機点検 （定例）空調フィルター交換
2020年12月	実験動物慰霊祭 センター利用講習会 CNVラット漏水死亡事故 （定例）微生物モニタリング検査

2021年1月	空調制御機器点検
2021年2月	オートクレープ配管工事
2021年3月	2019年度の「実験動物施設の現状調査」回答（公私動協） 安全キャビネットHEPAフィルター交換及び性能検査 全館一斉停電 微生物モニタリング検査 （定例）消防設備点検 （定例）空調フィルター交換

17) 動物実験委員会

概要

動物実験委員会は、兵庫医療大学における動物実験に関する事項を審議し、科学的にはもとより、動物福祉、環境保全、ならびに動物実験に携わる者の安全確保等の観点から、適正な動物実験の実施を図ることを目的とする。

委員は、動物実験等に関して優れた識見を有する者として、各学部および共通教育センターの教員よりそれぞれ3名以内、学識経験を有する教員1名、実験動物管理者、兵庫医療大学動物実験センター長および研究支援課長で構成する。

動物実験の在り方を倫理面から審議する機関として、2008年7月に「動物実験委員会」を設置し現在に至っている。2006年6月に告示された「研究機関等における動物実験に関する基本指針」（文部科学省）に基づきRefinement（苦痛の軽減）、Replacement（代替法の利用）、Reduction（必要最少利用）、「3R」に配慮しながら、適切に審査を行っている。

主な審議事項

委員会は、学長の委任を受け、次の事項を審議または調査し、学長に報告または助言する。

- ・動物実験計画が法令等および本規程に適合していること
- ・飼養保管責任者、動物実験責任者および動物実験実施者の承認に関すること
- ・動物実験計画の実施状況および結果に関すること
- ・施設等および実験動物の飼養保管状況に関すること
- ・動物実験および実験動物の適正な取扱いならびに法令等に関する教育訓練の内容または体制に関すること
- ・自己点検・評価に関すること
- ・その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること

実施審査一覧

審査内容	審査件数	承認件数
動物実験計画書	27	27
動物実験計画変更	28	28
実験室設置許可	0	0
動物実験責任者	1	1
動物実験実施者	64	63
実習室動物実験一時許可	1	1

実験動物慰霊祭

全教職員・学生を対象に下記の実験動物慰霊祭を挙行し、本学における研究および教育のために犠牲となり、生命科学の研究に貢献された諸霊に対し心から慰霊の言葉を捧げた。

・2020年12月25日（金）挙行（配信～1/22）第13回実験動物慰霊祭参列者180名

教育訓練

新たに動物実験に従事する全教職員・学生212名に教育訓練を実施した。

18) 遺伝子組換え実験安全委員会

概要

遺伝子組換え実験安全委員会は、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（2003年6月18日法律第97号）および関係する政令・省令・告示等に定められる遺伝子組換え実験の安全な実施を確保することを目的とし、兵庫医療大学遺伝子組換え実験安全管理規程に基づいて設置されている。本委員会は、本学における遺伝子組換え実験の安全確保を総括する学長の諮問に応じ、実験計画の法令等に対する適合性、実験従事者の教育訓練と健康管理等につき調査審議し、学長に対して答申または勧告を行っている。

本委員会には遺伝子組換え実験安全主任者を置き、委員として遺伝子組換え実験研究者である教員および遺伝子組換え実験研究者ではない自然科学系の教員とともに保健管理センター長と研究支援課長を構成員としている。

主な審議事項

委員会は、学長の諮問に応じて次に掲げる事項について調査審議、および学長に対し答申または勧告する。

- ・実験計画の法令に対する適合性の審査に関すること
- ・実験従事者に係る教育訓練および健康管理に関すること
- ・危険時および事故時の必要な処置および改善策に関すること
- ・その他実験の安全確保に関する必要な事項

実施審査件数

審査内容	審査件数	承認件数
承認申請	1	1
計画書	1	1
従事者	5	5
譲渡等（譲渡、提供および委託）	0	0
情報提供	0	0

19) 環境安全委員会

概要

環境安全委員会は、兵庫医療大学の教育・実験や研究活動における安全確保ならびに環境保全を図ることを目的としている。

主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・廃液処理に関する必要事項および運用
- ・毒物および劇物管理に関する必要事項および運用
- ・廃棄物（感染性含）処理に関する必要事項および運用
- ・その他環境安全に関する必要な事項

特記事項

2020年度毒劇物使用責任者を決定

20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会

概要

共同研究の受入れに関する審査委員会は、2012年5月15日に施行された「学校法人兵庫医科大学共同研究規程」に基づき、2012年7月に発足した。本委員会は、企業、国、地方公共団体またはその他の機関との共同研究を対象に共同研究の受入れ事項について審議することを目的とする。

委員会は、学長、研究担当副学長、大学協議会において選出された者5名で構成される。委員長は学長がこれに当る。

特記事項

申請のあった1件の共同研究計画について持回りにて審査を行った結果、受入れが承認された。

実施審査一覧

共同研究機関名	研究期間	本学研究者
奈良薬事研究センター	2020/11/1～2023/3/31	岩岡 恵実子（薬学部）

21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会

概要

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会では、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、本学において行われるヒトゲノム・遺伝子解析研究が、兵庫医療大学におけるヒトゲノム／遺伝子解析研究に関する規程に合致し、文部科学省、厚生労働省の定める倫理指針、およびヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮の下に行われるよう、実験計画書を審査し、計画の適否について学長に報告すること、および、承認された実験計画について適切に実施されているかどうかを調査し、報告を受けることにより本学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究が円滑かつ適切に実施されることに資することを目的として設置されている。

当委員会は、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、下記委員をもって構成されている。

- ①薬学部教員（3名）
- ②科学面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）
- ③倫理面、法律面および社会面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）
- ④一般の立場の者（1名）
- ②として看護学部、リハビリテーション学部の教員各1名、③として共通教育センター教員2名が指名され、任に就いている。

当委員会は2011年に発足した。まず、申請書式および審査手続きを整え、その後、年4回を原則

に申請課題の締め切りを設定し、申請があれば委員会を招集し課題審査を実施している。

今までに、1つの変更課題の審査申請があり、審査の結果、当該研究の実施が適当である旨を学長に報告し、課題は承認された。課題審査に加えて、年度ごとに実験課題の査察を行った上、実施課題の報告書を受け取り、研究が適切に実施されていることを担保している。

特記事項

- ・2020年度は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画の変更・延長1件が承認された。
- ・2019年度は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画の変更・延長1件が承認された。
- ・各々の課題に対し査察を実施し、研究責任者より研究報告書が提出され、学長に報告している。

承認済課題一覧

課題番号	課題名	申請者	研究期間
15-003-03	統合失調症患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究	南畝 晋平	承認日～2025/3/31
15-004-02	うつ病患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究	南畝 晋平	承認日～2025/3/31

22) 病原体等安全管理委員会

概要

病原体等安全管理委員会は、兵庫医療大学における研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡の安全管理を目的とし、設置されている。

2009年8月21日に「病原体等安全管理委員会」を設置し、「兵庫医療大学における病原体等の安全管理に関する内規」を作成し、2010年9月16日より運用を開始し、現在に至っている。研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡が安全に行われるよう、病原体等実験申請／届出、病原体等実験終了／届出、病原体等受入・保管申請、病原体等保管終了届出、病原体等分与／譲渡申請／届出、未知病原体等分離実験届出（2015年度より追加）、感染動物実験申請について、安全面の審査を行っている。

主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・病原体等の管理体制に関する事項
- ・病原体等の管理基準に関する事項
- ・病原体等の取扱い等の教育に関する事項
- ・病原体等による感染症の発生の予防に関する事項
- ・病原体等を使用する実験計画の審議に関する事項
- ・その他病原体等の取扱いに関し必要な事項

特記事項

- ・病原体等受入保管申請1件が承認された。
- ・病原体等実験申請1件が承認された。
- ・感染動物実験申請1件が承認された。
- ・G102実験室を、BSL2取扱い基準を満たしていると認定した。

申請一覧

申請内容	審査件数	承認件数
病原体等受入保管申請	2	1
病原体等実験申請	2	1
感染動物実験申請	1	1

23) 利益相反マネジメント委員会

概要

利益相反マネジメント委員会は、本学の教職員等の産学連携活動に関わる利益相反を適切に管理することを目的とし、学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシーの下、学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程に基づいて設置されている。本委員会は教職員等の利益相反を未然に防止するために、利益相反に関する個々の案件の審査と必要な勧告や利益相反マネジメントのための調査や関連する情報公開に関する事項について審議する。

本委員会は各学部および共通教育センター教授会において選出された教授各1名、財務担当理事、事務局長、事務部長、学務部長、学外有識者からなる委員で構成されている。

特記事項

回	申告数	助言数	審査結果
1	12	6	問題なし
2	14	10	問題なし
3	20	10	問題なし
4	22	17	問題なし
5	11	3	問題なし
6	46	22	問題なし
合計	125	68	

24) 倫理審査委員会

概要

倫理審査委員会は、本学および本学と連携した施設において行われる臨床研究、疫学研究、観察研究等が、ヘルシンキ宣言の趣旨にそって倫理的配慮の下に行われるように、研究実施計画の内容を学長の諮問に基づいて審査を行ってきた。

2015年4月1日に施行された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」[2014年文部科学省・厚生労働省公示第3号]による指針を遵守して、研究が遂行されるように2015年度からは新しい規程および申請書を作成して倫理審査を行っている。

2015年度以降、委員会構成は、副学長、学部長、研究科長から1名、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センター教員または倫理を専門とする教員から1名、人文社会科学の学外学識経験者1名、一般の立場を代表する学外者1名、事務局の者1名、学長指名の医師の立場の者1名を加えた計9名で、委員長は学長指名で選出される。委員会の構成も「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して行っている。

特記事項

- ・倫理審査申請書の審議
- ・倫理審査（迅速審査）の判定報告

承認済課題一覧

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
18012-2	看護学部	教授	堀口 和子	多重介護における家族介護生活の特徴	2020.5.12～2021.3.31
18004-2	リハビリテーション学部	講師	宮本 俊朗	神経筋電気刺激が2型糖尿病患者の血糖変動幅およびMyokineに与える影響	2020.5.12～2022.3.31
20002	看護学部	教授	今野 理恵	終末期COPD患者の臨死期の看護における中小規模病院の一般病棟看護師の困難感	2020.5.27～2021.3.31
20003	看護学部	教授	土田 敏恵	針刺し損傷防止訓練ツール開発に向けたVirtual Realityによる術中緊急事態の再現性に関する評価－手術室新人看護師の縫合針動作と生体反応からの検証－	2020.5.27～2022.3.31
16008-4	薬学部	教授	九川 文彦	処方箋データから見た兵庫医科大学病院とは・多変量解析の手法を用いて（第2段研究）	2020.6.5～2022.3.31
19045-2	看護学部	助教	阿川 勇太	夫婦のパートナーシップを支援する両親学級プログラムの開発に向けた基礎的研究－産後の父親、母親及び支援者へのフォーカス・グループ・インタビューを通じて－	2020.6.5～2020.10.31
20004	薬学部	准教授	木下 淳	薬剤師・薬学生を対象とした心肺蘇生講習会(PUSHコース)教育効果の測定と検証	2020.6.5～2022.3.31
20001	薬学部	教授	戴 毅	ストレス緩和における補完代替医療の役割	2020.6.17～2024.3.31
20005	薬学部	准教授	木下 淳	薬剤師の病棟常駐業務に関する医療従事者へのアンケート回収	2020.7.6～2021.9.30
20007	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	2-Minute Step Testおよび1-Minute Sit-to-Stand Testの運動負荷試験としての有用性	2020.7.13～2021.12.31
20008	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の転倒と「できるADL」「しているADL」の乖離についての関連－後ろ向き観察研究－	2020.7.27～2021.3.31
20009	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	The Post-COVID-19 Functional Status (PCFS) Scale日本語版開発	2020.7.27～2022.3.31
20006	リハビリテーション学部	講師	佐久間 香	成人期扁平足における足関節周囲筋の特徴について	2020.7.28～2022.3.31
20010	看護学部	教授	神崎 初美	関節リウマチ（RA）患者の適応尺度の開発と身体心理社会的健康との関連	2020.8.5～2024.3.31
18023-2	リハビリテーション学部	教授	川口 浩太郎	紙おむつ継続装着が体の動きに及ぼす影響に関する研究	2020.8.24～2021.8.31
20001-2	薬学部	教授	戴 毅	ストレス緩和における補完代替医療の役割	2020.9.25～2024.3.31
19006-4	看護学部	教授	鈴木 志津枝	緩和ケア病棟における終末期がん患者の生を全うする経験	2020.9.25～2021.3.31
20012	看護学部	助教	末安 明美	ブレンディッドラーニングを活用した統合看護実習における看護実践能力強化のための教育プログラムの評価	2020.9.25～2022.3.31
18032-2	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	骨盤底筋に対する電気刺激の効果検証に関する研究	2020.9.25～2022.3.31
20011	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	健康成人女性における月経困難症に対するアンケート調査～月経困難症に対する運動実施状況の把握と運動認知度の調査～	2020.10.1～2022.3.31
20013	看護学部	准教授	笹川 寿美	キャリアアップを実現するための学習環境に対する看護師の意識－ICT活用・遠隔授業に対するニーズ－	2020.10.1～2022.3.31

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
20015	看護学部	教授	西村 明子	初めて無痛分娩で出産した経産婦の期待と経験	2020.10.1～2021.9.30
20014	リハビリテーション学部	助手	坂口 雄哉	Action Observation Therapyが脳卒中後患者のスプーン操作に及ぼす影響	2020.10.2～2022.4.1
19029-2	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪	患者の自殺を体験した作業療法士に対する職場での支援	2020.10.2～2021.3.31
18034-2	リハビリテーション学部	教授	坂口 顕	電気刺激による月経痛軽減の効果検証～貼付型電気刺激での検証	2020.10.13～2022.3.31
19026-2	リハビリテーション学部	講師	松沢 良太	血液透析患者における生命予後および機能的予後の規定因子の解明	2020.10.26～2025.3.31
20016	リハビリテーション学部	講師	永井 宏達	加速度計を用いた教育介入がサルコペニア高齢者の下肢筋力に及ぼす影響	2020.12.7～2022.3.31
20017	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	腹圧性尿失禁患者に対する骨盤底筋トレーニングの治療効果－ランダム化比較試験－	2020.12.1～2024.3.31
20018	リハビリテーション学部	教授	川口 浩太郎	機能的パンツ型紙おむつが姿勢・体幹機能に及ぼす影響	2020.12.1～2021.12.31
20019	看護学部	准教授	石原 あや	就学移行期にある低出生体重児の親に対するポジティブ・ペアレンティングプログラムの実践および効果の検証	2020.12.1～2022.3.31
20020	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	骨盤底筋に対する電気刺激の効果検証に関する研究（ランダム化比較試験）	2020.12.1～2022.3.31
20021	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	フレイル・サルコペニアを合併する慢性呼吸不全患者に対する新たな介入戦略の構築	2020.11.19～2023.3.31
20022	リハビリテーション学部	講師	塚越 累	Solid Ankle Cushion Heelが脳卒中片麻痺者の短下肢装具歩行の荷重応答に及ぼす影響	2020.12.7～2022.3.31
20011-2	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	健康成人女性における月経困難症に対するアンケート調査～月経困難症に対する運動実施状況の把握と運動認知度の調査～	2020.12.25～2022.3.31
20016-2	リハビリテーション学部	講師	永井 宏達	加速度計を用いた教育介入がサルコペニア高齢者の下肢筋力に及ぼす影響	2021.1.15～2022.3.31
20024	リハビリテーション学部	講師	塚越 累	膝関節手術前後における基本動作と下肢筋活動の分析	2021.1.27～2024.3.31
20025	看護学部	教授	神崎 初美	関節リウマチ患者へ看護師が行うリハビリテーションに関する実態調査	2021.1.29～2022.3.31
17019-3	リハビリテーション学部	講師	平上 尚吾	脳卒中患者の臨床的意義のある身体活動量の研究	2021.1.29～2022.3.31
18009-3	看護学部	准教授	阿川 勇太	中高年期における体力測定値の5年間の推移と要介護状態に関する研究	2021.2.3～2025.3.31
20015-2	看護学部	教授	西村 明子	初めて無痛分娩で出産した経産婦の期待と経験	2021.2.3～2021.9.30
20023	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	骨盤底筋群の随意収縮が子宮動脈の血流に与える影響	2021.2.3～2022.3.31
19031-3	看護学部	講師	井上 満代	日本語版LupusPROを用いた多施設共同研究によるSLE患者のQOLデータベースの構築	2021.3.5～2023.3.31
19032-2	看護学部	講師	井上 満代	SLE再燃ハイリスク患者の疲労感マネジメントモデルの開発と有用性の検討	2021.3.5～2023.3.31
18050-2	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	有料老人ホーム入居者の身体活動量とフレイルの関係性の検証	2021.3.5～2022.3.31
20018-2	リハビリテーション学部	教授	川口 浩太郎	機能的パンツ型紙おむつが姿勢・体幹筋に及ぼす影響	2021.3.5～2021.12.31

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
18005-2	リハビリテーション学部	准教授	森 明子	中高年女性における尿失禁と身体活動量の関連性について	2021.3.10～2022.3.31
19050-2	看護学部	教授	土田 敏恵	白癬菌保有患者のフットケアにおける看護師の職業性曝露に関する研究	2021.3.10～2022.3.31
19049-2	看護学部	教授	土田 敏恵	新人看護師におけるアルコール含有クロスでの手袋のふき取りを加えた個人防護具除去技術の検証に関する研究	2021.3.18～2022.3.31
20004-2	薬学部	准教授	木下 淳	薬剤師・薬学生を対象とした心肺蘇生講習会(PUSHコース)教育効果の測定と検証	2021.3.18～2023.3.31
20026	看護学部	助教	宮前 奈央	乳がん術後放射線治療を受ける患者のスキンケアに関する認識の実態	2021.3.18～2022.10.31
20029	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	新型コロナウイルス感染症回復患者のリハビリテーション症例レジストリによる前向き観察研究	2021.3.18～2024.3.31
18002-3	リハビリテーション学部	講師	宮本 俊朗	身体活動が若年成人の腸内細菌叢に与える影響	2021.3.23～2022.3.31
19039-2	看護学部	教授	土田 敏恵	重度要介護高齢者における便秘対策の実施と評価に関する研究	2021.3.23～2022.3.31
20028	看護学部	教授	西村 明子	妻の妊娠から父親が父親の自助グループに参加するまでのプロセス	2021.3.23～2022.3.31
20038	薬学部	准教授	木下 淳	在宅医療に関わる薬剤師の現状に関するアンケート調査	2021.3.23～2022.3.31
19028-2	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪	発達障害児に対するホームプログラムが保護者の子育て感に及ぼす影響	2021.3.25～2022.3.31
20002-2	看護学部	教授	今野 理恵	終末期COPD患者の臨死期の看護における中小規模病院の一般病棟看護師の困難感	2021.3.25～2022.3.31
20027	看護学部	教授	西村 明子	自己免疫疾患患者へのプレコンセプション・ケアに関する看護師のニーズ調査	2021.3.25～2022.3.31
20035	看護学部	教授	土田 敏恵	リスク感性尺度を用いた手術室看護師のリスク感性に影響する要因の検討	2021.3.25～2022.3.31
20036	看護学部	教授	網島 ひづる	看護師のプロフェッショナルリズムの自覚・獲得に関する認識と経験	2021.3.25～2022.3.31
20030	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	Japan Step Testによる心肺フィットネス評価の妥当性－青年期健常者を対象にした検討－	2021.3.31～2021.12.31
20031	看護学部	講師	川内 恵美子	ワーク・エンゲージメントを活用したプリセプターとプリセプティのペアリングに関する研究	2021.3.31～2023.3.31
20033	看護学部	助教	阿川 勇太	コロナ禍における保育のストレス要因及び保育士のレジリエンスやパーソナリティが精神的健康度に与える影響－構造方程式モデリングを活用して－	2021.3.31～2021.10.31

25) 共同機器室運営委員会

概要

共同機器室運営委員会規程は兵庫医療大学共同機器室規程第4条第2項の規定に基づき、共同機器室運営委員会に関する必要な事項を定める。

委員会は共同機器室長、本学専任教員から2名以上、研究支援課長、その他委員長が必要と認め、指名する者から組織され、委員長は共同機器室長が兼ねる。

主な審議事項

- ・共同機器室の管理・運営に関すること
- ・共同機器室に設置された機器の維持・管理に関すること
- ・共同機器室の機器更新と整備計画に関すること
- ・次年度予算案について
- ・その他、共同機器室の円滑な運営に必要な事項について

26) 紀要委員会

概要

紀要委員会は、本学の学術研究の成果を発表する目的として兵庫医療大学紀要の発行を行う。当委員会は、図書館長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および図書課長の9名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

主な審議事項

- ・投稿論文の査読者選出について
- ・投稿論文の査読結果について

掲載原稿一覧

第8巻第1号（2020年6月発行）

原稿種類	タイトル	著者名
総説	慢性腎臓病における好中球/リンパ球比の意義	伊藤都裕、辻野健
原著	多職種連携教育による学生の意識の変化	常見幸、紀平知樹
解説	家族介護生活評価チェックリスト（FACL）の活用ガイド	堀口和子、岩田昇

第8巻第2号（2020年12月発行）

原稿種類	タイトル	著者名
原著	妊婦体験ジャケット装着時における跨ぎ動作の運動学的特性について	柏木香澄、森明子、山崎せつ子、宮本俊朗、永井宏達、日高正巳
実践報告	第10回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー実践報告	川口浩太郎、曾田幸一朗、三島淳一、平上尚吾、塚越果、岡田誠、尾垣奈穂、山崎せつ子、片山覚、道免和久
	薬理学講義1年目における取り組みと双方向型授業支援ツール「スグキク」の利用効果について	小淵修平
	慢性疾患患者の日常生活がみえる看護過程の重要性	井上満代
	作業活動学実習（陶芸・生け花）とコミュニケーションスキル	坂本浩、伊藤斉子、有吉正則
	Moodleの小テスト機能を利用した学習指導	山本英幸

27) 防火防災対策委員会

概要

開学年度より防火訓練（自衛消防訓練）を毎年1回実施している。地震・津波防災訓練は2012年度から毎年1回実施している。阪神・淡路大震災のような都市直下型地震や今後起こるかもしれない地震による津波災害に対する啓発と教育、訓練を行っている。

地震・津波防災訓練の際には、学生の意識啓発のために、訓練当日の1週間前から備蓄品や救助

工具の実物、および、神戸市・ポートアイランドの防災情報のパネル等を学内に展示している。

防災備蓄品の保管場所としてM棟4階倉庫、M305およびM309に、毛布900枚、飲料水2L×2,700本（900人×3日分）、食料8,100食（900人×3日分）、簡易トイレ6,000回分等を保管している。また、大規模災害時の通信手段の確保として、2015年度から衛星電話を導入した。防火訓練および地震・津波防災訓練の約1ヶ月前に委員会を招集し、訓練内容を決定している。

特記事項

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため対面での訓練を実施しなかった。

28) 衛生委員会

概要

本委員会は、労働安全衛生法に基づき、教職員の健康障害の防止、労働災害の原因および再発防止、健康の保持増進をはかるための対策を検討・実施するために設置されている。原則、月1回開催している。

特記事項

毎年実施している職員定期健康診断、季節性インフルエンザワクチン補助事業に加え、本法人の方針に準拠するかたちで2020年11月にストレスチェックを実施し、本学内の集団ごとにおけるストレス状況の組織分析を行った。

29) 医療人育成研修センター運営委員会

概要

医療人育成研修センター運営委員会は、センターの企画・運営方針に関すること、センターが運営する初期・後期臨床研修の充実に関すること、センターが推進する連携教育体制の整備・充実に関すること、その他センターの運営に関すること等、学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センターの運営に関して審議するために設置されている。兵庫医科大学の委員および本学の教務部長、教育支援室長、各学部・共通教育センター教員などで構成されている。

主な審議事項

- ・2020年度認定看護師教育課程非常勤講師（兼任含む）の委嘱について
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う実習の流れ等について
- ・兵庫医科大学および兵庫医療大学の兵庫医科大学病院、ささやま医療センターにおける2021年度学外実習（案）について
- ・2021年度兼任教員の委嘱について
- ・新型コロナウイルスワクチン接種について
- ・臨床教育統括センターについて

30) 社学連携推進機構運営委員会

概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病等の観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業等、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社学連携に

関するノウハウの蓄積、新しい社会学連携形態の企画立案にも取り組むために2015年4月1日に発足した。

本機構の目的は、本学が策定した「社会学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。

特記事項

・2020年度地域交流プロジェクトについて

2020年度地域交流プロジェクトについては、新規応募プロジェクト10件および継続応募プロジェクト3件、計13件の応募があった。2020年3月25日に開催した社会学連携推進機構運営委員会にて申書内容について検討した結果、全12件を採択することを決定し、1件あたり応募申請書に記載の予算額を補助対象（上限10万円）として支給することとした。なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大状況を踏まえ、13プロジェクトの開催時期としては7月以降に実施することを付帯条件とした。

・兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業について

地域交流プロジェクトの一つとして実施している「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」の修了生を対象として実施している「健康づくりサポーターバンク事業」への登録者数は2020年度初めには63名に達した。2020年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により本学は活動自粛状態であったが、登録サポーター（延参加者数86名）の皆さんが主体的に地域にて介護予防体操教室（合計18回、延参加住民数196名）を運営し、地域の健康づくりに大いに貢献していただけた。

31) 大学院運営委員会

概要

大学院運営委員会は、研究科相互の円滑な連携および運営を図る目的で、各研究科の共通事項（教育・研究、教務、入学試験、その他大学院の運営）に関して協議している。協議した事項については、各研究科で報告し、大学協議会で報告または承認を得ている。

委員会は、副学長（教育担当）、各研究科長、共通教育センター長、事務部長の6名の委員により構成され、委員長は副学長（教育担当）が務めている。

主な審議事項

- ・大学院入学試験について
- ・規程の制定、改正について
- ・授業科目のナンバリングについて
- ・大学院生のワクチン接種について（負担の一部変更）
- ・新型コロナウイルスの影響による特例長期履修制度の運用について
- ・職業実践力育成プログラム（BP）について

32) 障がい学生支援委員会

概要

障がい学生支援委員会は、「兵庫医療大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、本学における障がいのある学生への支援を円滑に実施することを目的とし活動を行っており、障がい学生支援委員会規程に基づき、①障がい学生に係る情報の集約、②障がい学生のための支援

内容、施設等整備、③各支援内容に関する関係部署との情報共有、調整、連携、④障がい学生への災害時での配慮、⑤障がい学生に対する学生・教職員の理解促進、意識啓発等、⑥その他障がい学生の学生生活における諸問題について協議し、支援に当たっている。

委員会は、担当副学長、学生部長、教務部長、障がい学生支援委員、保健管理センター長、事務部長、学生相談員および委員長が必要と認めた者で構成しており、委員長は担当副学長が務めている。

主な審議事項

- ・ 支援対象学生の現状について
- ・ 配慮願いに基づく支援内容の調整と実施について
- ・ 支援対象学生に関する情報について
- ・ 支援活動等の振返りおよび今後について
- ・ 教職員対象FD・SD研修会の開催について

Hyogo University of Health Sciences



学校法人 兵庫医科大学

西宮市武庫川町1番1号 TEL.0798-45-6111

兵庫医療大学

神戸市中央区港島1丁目3番6 TEL.078-304-3000